

目標	方位度	距離	目標	方位度	距
		km			離
					km
大島	92-80	64	富士山	-5	65
伊豆先端	60	85	丹沢	-32	29
天城山	45	60	大山	-40	24
小田原城ゴ	23	33	鎌倉山	E-0	10
ルフ					
二子山	14	39	片瀬海岸	E-15	6
駒ヶ岳神山	12	39	逗子の山	E-18	20
明神岳	6	39	江ノ島	E-25~36	10
金時山	4	40	マホロバ	E-39	24
			温泉		
矢倉	-2	37	城ヶ島	E-53	29

湘南海岸を歩く

伊藤	あと	八	七	六	五.	兀	三	<u>=</u>	_	
公博氏のカラス考	がき	光の曼荼羅	冬の海岸と歩測	海岸紳士録	海岸の脇役たち 鳥と植物	烏帽子岩 その二	烏帽子岩 その一	五郎引丸	西へ、東へ	もくじ
4	4 2	3 6	3	2 1	1 5	1 1	9	5	2	1

十 五	十四四	<u> </u>	<u> </u>	$\overline{}$	九	八	七	六	五.	四	三	_		続
一 追記 2	1 追記 1	一 烏帽子岩ライトアップ	その四 秋	その三 夏	その二 晩春	湘南海岸春夏秋冬 その一 冬	開高記念館	ウミネコとの再会	続・海岸紳士録	映画からの道草のぞきからくり	茅ヶ崎海岸を撮る	初島はなぜ見えないか	砂戻し	湘南海岸を歩く
	9 9	9 4	9	8 8	8 7	8 1	7 6	7 3	6 8	6 3	6 0	5 6	5 1	4 9

合 縁 は 0 た \mathcal{O} 日 湘 た あ 南 Þ る 海 \mathcal{O} 感 今 岸 に 動 ŧ は ŧ 毎 よく 朝 ご 存 ささ 保 違 全 Ü B 0 さ な た か れ な 顔 て 方に を 発 V 見 見 る せ t が が その てく あ る。 長 素 れ V る。 歴 顔 湘 を 史 南 そこに 分 で 海 カン 岸 変 5

西へ、東〜

る。 須 几 賀 毎 ほ 陸 \bigcirc 朝 ぼ 橋 メ 相 雨 模 第三 が 1 湾 降 ル X. \mathcal{O} で 0 中 \mathcal{O} 海 て 央 走 に 1 に 者 な 出 な が る。 1 る。 湘 限 り、 南 箱 海 根 岸 駅 海 に 伝 岸 出 で を 歩 あ お う場 なじ 所 4 家 で \mathcal{O} カコ あ 浜 5

カコ 浜 ち 須 海 ょ 岸 賀 0 陸 \mathcal{O} لح 遊 橋 ī 歩 を た 道 始 選 点 に . 択 来 12 で 7 て片道 あ カュ る 5, 2 風 西 \mathcal{O} に 強 3 向 K 11 カン う 日 メ は カン 1 ま 1 ず 東 ル 風 に 位 上 行 歩



に 向 カン うと決 め て 1 る が 穏 Þ カン な 日 は どち 5 で ŧ VI い。 L カコ L 歩 Ś 気 分 は 違 うの

た。 経 < 養 海 \mathcal{O} 鳥 砂 まともに受け 前 なっ だ ば 殖 水 ってみ 帽 西 なぎさを見下ろすようなところ 5 さ を 付 子岩に か 行 吸 0 てい れ 近 5 くしての き ると、 人 では 又 (T) る 11 工 茅 少 時 揚 向 ると、昔から住んでいる人たちはいう。だからい 0 かう茅 代 げ し る。 ケ どうい 突堤は やは て、 づつ 災害 崹 な 三 0 海 波 で ŋ 浸 年 復 岸 ケ その Š を消すことによって、 長さ23 あ 崎 食 旧 前 原 され る \mathcal{O} 工 海 0 理 効 事 岸 台 道 果 か では、 てい 風 は 0) ょ が 0 で、 ほ < でたのだろう、 メ 変 る。 ぼ -Ł 分か どこか 崖が 化 中央に養浜 今年 1 あ に らな る。 ルもある。 富 崩 は 他 λ 壊 砂 浸食を止めようとする実 V でい ŧ か L が、 0 0 . ら大量 て遊 0) 突堤 まま たが、 る。 ため なぎさ 地 歩 図 崖 岸 0 道 0 0 ま に カコ 画 にもそのうち記 砂 ŧ T字突 \mathcal{O} た崩 なっ 5 側 でを持ち ろいろの砂浜 崩 砂 離 は れ てし に 広 れ れ て 堤 るだろう。 長 込ん 1 た 通 が まっ ŋ 砂 1 行 出 験 パ 浜 近 で砂 止 来 てい 載されるだろう。 寄 がなされ 1 が 保 め た プ 0 出 に 全が 0 0) 湘 を埋 るか た 来 崖 な は 南 ŋ た。 試 を築きなお ったことも 1 する。 7 設 海 5 みられてい その 9 1 岸 L 9 波 は る。 0 浸 ポ 近 西 年 砂 食で狭 < 〇年 だ 浜 ブ 球 食を な る。 た。 0

子 \mathcal{O} 話 人 が は は な 飛 意 カン Š 外 0 が 12 た . 思う 東 \mathcal{O} で、 京 Ó \mathcal{O} だ 半 新 が 分だ お 台場 関 け 東 B 公 遠 \mathcal{O} 0 砂 た は 浜 白 \mathcal{O} は で 11 黒 白 砂 11 と を輸 0 黒 だ。 入 0) し 富 て撒 色 \pm 浜 0) が 1 噴 たことで話 出 火 来 0 たとい 火 Щ 砂だか 題 う 落 に な 5 、らだ。 が ったことが 付 V 沖 てい 縄 Þ あ . フ る。 関 口

西

V) IJ ダ \mathcal{O} 景 0 ょ 観 う \mathcal{O} な 引 き 珊 <u>\f\</u> 瑚 7 \mathcal{O} 役 骨 で \mathcal{O} 又 ま 良 0 白 L な な \mathcal{O} 浜 だ。 P, 関 白 12 西 あ 0 こが 丰 砂 れ \mathcal{O} て化 茶 白 粧 لح ŧ するとは 違 う。 無駄 L カン なことだ。 L 黒 11 浜 ŧ, 地 味 な 周

そ 年 に 距 てそ 離 サ \mathcal{O} だ。 ザ 西 ン $\overline{\mathcal{O}}$ 行 き オ 途 中 は] に 鳥 ル は 帽 ス 子 タ 岩 なぎさ 1 ズ を 朓 が 遊 凱 \Diamond 歩 旋 0 道」とい 公 0 歩 演 をし む。これ って松林 て、 _ に つ 躍 11 脚 \mathcal{O} ては 光 中 を 12 たくさん 作 浴 .. Б び た れ 茅 た 話 木 ケ 崎 道 が 野 ŧ あ 球 る あ が、 場 る。 前 後に そし < 5 紹 て二〇 介 ま L で よう。 が

だ。 る < 沢 根 Þ 0 東 が 部 \mathcal{O} 5 た は \mathcal{O} 正 連 7 ŋ 分 間 江 突然 を広 で で U Ш 面 1 に 島 な \mathcal{O} カン 輝 そ 富 タ V 5 に 11 · と 見 < 伊 \mathcal{O} 士] 向 白 全 が ₩. 道 ン カ えなな 1 見 貌 す は \mathcal{O} 0 を 先 え ま て Ш る。 ると 現 端 歩 々 、 0 1 す < そ す を きは 見 カ の **<**" ま 右 たこの せ 藤 5 に 12 だ。 て は 最 瞬 続 沢 < く。 丹 高 市 単 早 東 n 沢 だ \mathcal{O} 朝 る 調 同 領 か だ 0) 富 じ \mathcal{O} 0 域 5 道 大 士 朝 0 だ は 距 に た 離 が 南 Щ 山 日 は、 景 \mathcal{O} が を T 真 西 ル 5 Ш 観 歩 次 冬 ょ 行 プ が 々 11 回 きに う を て ス \mathcal{O} ど中 変す にご紹 透 青 t カン < 明 変 比 \$ な 央く る。 化 ベ L 介するとっ 海 冷 て れ が 6 は 目 単 な 気 な 緑 \mathcal{O} 調 い \mathcal{O} い い 快 に 前 が \mathcal{O} で 輝 に で あ 晴 海 て 広 \mathcal{O} に カン 長 ŋ \mathcal{O} お 景 せ 岸 女性 々 は < と き て 観 感 辺 L 見 じ \mathcal{O} 富 に 的 は 楽 せ た 藤 士 る。 だ。 な て 相 L る 沢 \mathcal{O} < 模 鵠 海 4 海 裾 れ 湾 が 左 岸 岸 野 沼 あ \mathcal{O} لح は る 7 海 は

る。

丹

箱

 \mathcal{O}

あ

岸

ИÞ

<

Ш

一、五郎引丸

東 に行くと、 辻堂 海 岸公園 0 は ず れに、 五. 郎 引 丸という地 引 網 \mathcal{O} 網 元 が ラス 漁 を 営 λ でい

る。

らに足を向 漁 そこを通りか は 兀 月 け カュ る。 。 ト しかし必ずしも買えるとは限らない。 カ 一月まで続く。できたての る時間 が早すぎて、まだ干し上がっていない時もある。 シラス は 絶 天気が良くても波が 品品 で、 我 が 家 0 冷 蔵 荒 庫 1 12 と船 なく な は出さない るとそち

十人くら ١ ر 0 老人たちと、一人の太ったお ばさんが組になってやっている。 誰 が 網網 元な 0) カ

親方なのか分からないが、役割分担はある。

ここは 匹~ 五 砂 人が 浜 な のに、 真 水 0 入っ 真水の出る井 た樽 を、 戸 が お . の ある お 0 0 0) が自慢だ。 前 に置き、 上がったシラスを、 車座になって回しながら洗っていく。 小分けして笊に取

羅漢サンがそろったら回そうじゃないかといった様だ。

に広 1 「げた 人は 天 気 干し 大釜 \mathcal{O} 時 網 は 0 干 にば 用 意だ。 L あ らし げ 煮立った湯 るのに三十分も て干す。その に 頃 塩 あ は「釜揚げしらす」というのぼりを2本立ててしらせる。 を放 れば十分だ。 り込み、洗い 上 が ったシラスをゆでる。 そして海岸

顔 見 知 りと分 か っていても、 味見をしろと勧めてくれるので、 もらって口に入れる。 うま \ \ •

孫 浜 百 を連 遊 グラ び を れ て Δ 五. 行 た 手 百 0 たときは 円 で 砂 は もシラ ス] Ź] 彼 ょ ŧ 5 ŋ \mathcal{O} 安 緒 小 ż に 11 うれ な わ け 手 で に しそうに は ŧ な 杯 1 食 < が れ べ る。 断

らが

手練 くて 腕 ょ 彼 入 た 八念に 木 ŋ \mathcal{O} あ 上がっ も良 を作っていたのだ。 見 0 もっと入念に洗う。 は る \mathcal{O} 補 技 せ ます型で、うっすらと並ぶようにすくい 夏 V) だ。 くな 填していく。 所 0 つもと違って たシラスの条件が良 日 のようだ。 い。そして干し棚に一気に伏せて、 並 ウイー λ だ 畳 薄すぎて穴が - クデー 慎 はところどころ穴があるので、 これは生干しだから、 樽に 重 な . 浮 か 作業 だったか かったのだろう。 λ をしてい あ だ生シラス いては . ら 浜 た。 は静 V を、 け 取 釜 そ か った 移し替える。 ない る。 揚 だ \mathcal{O} 網 げ た 日 0 それ を張 シ 7 た \mathcal{O} ラ 天 気 わ

件

に

なる。

だ

カン

5

「たたみい

わ

は

高

\ \ \ \

浜

干

i

上

が

る

 \tilde{O}

に二

日

カン

カコ

る

とい

う。

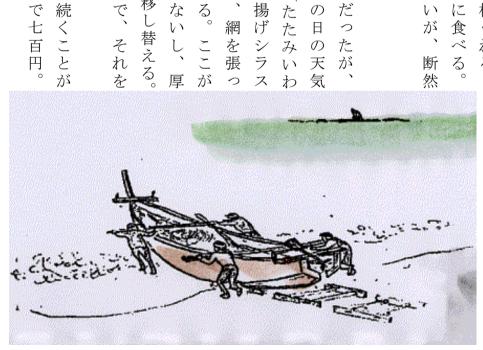
天

気

が

日

続



それだけの価値はある。

色に 名 ま 網 W 日 IJ, ŧ け に シ けた る。 ラス 黄 知 は 色 5 ア 15 ŋ ブ 彼ら 0 め は 0 ラ すると、 線 鳥 ぱ H は、 賊 コ が 1 漁 入 ダ ŧ \mathcal{O} \mathcal{O} つ あ 1 海 度 雑 毒に とい 岸に た 1 る。 に 魚 揚 が 刺 より 落ち が 0 0 入 され るも セ た具 0 ン てい 分ける て て 死 ・ チ 足 合 \mathcal{O} 1 では る笹だけ る。 に め 5 仕 0) 思いをするそうだ。 ず に、 そん な 分け (\mathcal{O}) い。 ゴン . る。 で、 なときは、 手でなくて、 獲 ñ 大物 ズイは、 慎重により分けて、 な は鮫 1 砂 ときは、一 浜に広ば 目 棒を使うのはゴ のこどもや、 立つが、 げた大きなテントシ 週間 うっ 真 鰯、 1 くらいはだめ か ンズイ メ ŋ 片 口 1 触 1 0 が ル イワシ、 た , , もあ り、 かな 日 ートに、ぶち るからだ。褐 るエイ 素足で踏 アジ、サ が 続く。

シ ラス は 年 に 匹 口 生ま れ る。 集団で育つ。 だからやがて又、 シラス が 獲れるように になり、 浜 は

浜 \mathcal{O} 休 4 0 日 に ŧ, 朝、 漁 師 たちが二人、三人と必ず いて、 海を眺 \Diamond 7 1 る。 彼 5 は 海 が 好

三 烏帽子岩(えぼしいわ)その

な

0

だなと思う。

活

!気を取

ŋ

戻

す。

茅 ケ崎 \mathcal{O} 海には、これ L か ない とい 0 た格好で、沖合1・ 6 K メ 1 1 ル に烏帽 子岩が <u>\f</u> って る。

であ 前 出 る。 衝 IJ \bigcirc \mathcal{O} <u>こ</u>の 突 \bigcirc は 来 ツ 1 る。 し \bigcirc た ピ 万 た 背 0 \mathcal{O} 後

にこの 开 五. \bigcirc 烏帽 \bigcirc メ 子 ,岩が 1 ル くら あ る。 V 高 に三〇 さは 個 五. ば メ カコ り 1 \mathcal{O} ル 島 姥 高 波 島 が 高 喫 潮 水 \mathcal{O} 線 時 ぎりぎりに は ほとんどの 点 在 島 す がただ る。 そ 0) \mathcal{O} 白 中 \mathcal{O}

頭

に

な

0

7

L

ま

う

中

れ

だ

け

が

存

在

を

主張

て

る。

波

周

ス は ケ 天 ツ 城 チ 山 は 浜 須 賀 0 岸 辺 カゝ 5 烏 帽 子岩を見て

となると、 て潜 頃 年 \mathcal{O} t 万 姥 年 0 前 島 \mathcal{O} 島 海 り込 話 と カコ \mathcal{O} \mathcal{O} は プ 今神 だ。 か Ł 地 海 うと み、それによって丹沢 0] 0 層 底 丹 て、 ·· 奈 川 と推 が 火 1 沢が今の威容の高 ~、 こ 何 山 に 次 定され を睥 \mathcal{O} が 0) に 変 \mathcal{O} 盛 ってやっと日 やつ 睨している丹沢山 あ 哲 W た ていることだ。 t だ て 来 ŋ な 0 のどこより 11 た た が 前 さに を隆 伊 本 豆 5 火 列 なる 起 半 ょ Щ させ 島 塊 五. 岩 島 も古く 0 に \bigcirc に が لح が \mathcal{O} た は 7 日 独 堆 更に か 本 フ 万 特 積 り 5

姥 島 は 0) ような 神 奈 Ш 0 ダ イ ナミッ ク な 造 Щ

五.

な

8 る が な 活 7)3 才 動 11 6 7 を ホ 7 そ 数 ず Ì い + る ツ \mathcal{O} 0 とこ لح ク 活 万 先 \mathcal{O} 動 年 海 ろ あ プ を 前 畫 た لح で、 朓 レ \mathcal{O} n 8 と 7 は 7 \vdash 地 で、 来 見 震 で 5 守 き ナ わ れ ま 0 7 どく 7 だ 番 た ズ き 最 落 \mathcal{O} \mathcal{O} た 4 ち は 近 巣 ر ح 着 0 \mathcal{O} \mathcal{O} こと 彼 \mathcal{O} 11 ょ に プ た が う 大 だ。 な 乗 V な 陸 る 1 ځ 0 0 \vdash プ 7 ろ が V い \mathcal{O} 富 お る 姥 士 だ 互 ブ 島 山 \vdash に が 1 \mathcal{O} 义 77 属 Ì 安 形 閑 は す \vdash 成

な 姥 4 島 \mathcal{O} は な 変 \mathcal{O} 転 だ。 き わ ま V) な い 神 奈 Ш 西 部 \mathcal{O} 地 形 \mathcal{O} 中 \mathcal{O} 守 護 神 茅

ケ

崎

市

教

育

研

究

所

茅

ケ

崎

 \mathcal{O}

自

然

ガ

イ

K

ょ

Ŋ

新

#

白

石

カン

5

 \mathcal{O}

西

洋

情

報

で

砲

術

ŧ

訓

練

な

け

れ

ば

な

6

\ \ \

農

民

は

砲

術

場

に

潜

V)

込

W

で

芋

畑

に

L

た

砲

は

藤

沢

 \mathcal{O}

لح

に

な

0

た

 \mathcal{O}

だ

が

世

は

ま

だ

亚

安

で

あ

0

た

滅

多

に

は

八

代

将

軍

吉

宗

大

出

越

前

が

町

奉

行

と

11

う

活

気

あ

る

時

代

砲

術

 \mathcal{O}

訓

練

場

لح

な

0

た

 \mathcal{O}

は

享

保

 \equiv

年

1

7

2

8

年

لح

11

う

汀.

戸

幕

府

が

浜

須

賀

帯

 \mathcal{O}

海

岸

な

鉄

砲

場

た

لح

カン

5

は

لح

ろ

が

そ

W

な

彼

ŧ)

 \bigvee

間

 \mathcal{O}

サ

ガ

に

痛

8

1

け

5

n

た

لح

で 鵠 訓 な カコ C が あ 沼 練 5 ま あ 4 11 に は لح 0 る る た 置 な V 11 世 縄文貝塚人 丘陵 4000年前 4000年前の 漫岸線 関東ローム層 **新** 現在の 海岸線 高度砂レキ層 Ø 13万年前 湯 R製の岩石 500万年駐 うもれ水 1万年前 茅ヶ崎の地層断面(南北方面)

使 向 1 7 わ カン 西 n 0 た。 7 に 向 \mathcal{O} 鉄 75 カン 砲 る 0 7 لح 鉄 打 \mathcal{O} 関 砲 0 道 た。 わ 路 n 擊 は \mathcal{O} 更に 0 名 て は 続 は そ 着 < \mathcal{O} 弾 名 を 残 見 だ。 に 行 < \mathcal{O} 地 VI は 0 明 た 治 ŋ に 来 な た 0 n て \mathcal{O} t 演 海 習 軍 道 爆 撃 浜 演 須 習 賀 場 カン 5 西

事件は戦後に起きた。

友 は、 ち 海 好 た に \mathcal{O} コ 烏 を て、第 部 向 湾 口 大 帽 分 カゝ に ネ が 事 子 っては、 無 ツ 8 岩 あ 血. に 1 軍 0 L \mathcal{O} 作 上 9 たの 形 陸 戦 て 5 そうで が 1 を果た で 戦 変わ だ。 た米 日 車 本 部 ると中 は 上 軍 隊 な た。 は 陸 を か は 駐 茅 止 烏 0 相 た。 屯 帽 を ケ 模 さ 崎 陳 湾 子 せ 烏 が 情 \mathcal{O} لح た。彼 帽 結 崩 決 占 子 核 壊 8 岩を標: 領 療 L 5 7 ない 下 養 は 1 のことで勇 所 た 住 的 うちに中 で T 民 に あ メ に 大砲 0 IJ 友 た 好 力 気 訓 止 南 軍 的 が 練 湖 L は で をや た。 1 遠 ア ポ 0 を メ ツ L たことだろうが 0 接 IJ ダ たのだ。 カ 収 カ文化を分け与え ム宣 L 弾 キ 言 は 驚 を受諾 当た ヤ ンプチ 1 り、 た住 さ 地 せ 削 民 域 ガ た サ た たち と ŋ が 落 \mathcal{O}

四 烏帽子岩(えぼしいわ)その二

V) カン 鳥 戦 6 帽 見 艦 子 るとお 岩 大 和 は 12 茅 坊 見 \hat{z} ケ え る。 崎 λ 海 が 岸 旅 む ろ \mathcal{O} \mathcal{O} どこ 笠 W 一を傍 鳥 帽 か らで 6 子 に が ブ Ł 置 IJ 見 \overline{V} え ツ てうずくま ジ る だ。 が、 そ t り、 0 \mathcal{O} とも 見 遙 えた方 か 主 な は 砲 海 は 様 \mathcal{O} な 々 だ。 向 11 こうに祈 ŧ 浜 須 0 賀 لح 付 0 東 てい 近 辻 カン る 堂 5 あ 見 た る

で 見 0 が 拁 工 カン 文 1 1 見 た 崩 ジ 付 そう 献 Š え れ が 西 0 て座 け に ば 部 れ 残 ブ で 名 る。 考 分、 7 5 1 足 は を 11 え 老 L な さ 0 祖 思 け 0 そ 婆 て 番 ま 7 ば な 1 ス 母 わ れ わ フ 改 \mathcal{O} ところ け 島 せ 近 11 は 海 顔 な لح 1 る る 8 1 n 姿に Т 南 獣 を い ば て 書 姿 ン 湖 字 を カン ところをね な 4 は セ ク イ カ 突 X ね ス 5 見 る れ 1 5 ئے ' 堤 える。 海 ウ らうだろう。 が な 1 姥 見 当 岸 チ ジ 銃 \ \ \ \ は ラチ れ た に カン 擊 させるふ 他 その ば この 5 らったであろう。 Z な n 0) ただの エ ħ 0 ŋ カュ 音 どこか ように 5 ン た 部 の当て字ではない。 少 通 野 見 < 分 \mathcal{O} ると、 烏 なくとも岩 ŋ 6 球 が が 帽 見 5 場 \mathcal{O} 4 砲 頭 子 近く 前 なすに も見え \mathcal{O} で 擊 0) ス < 部 なく鼻であ で 西 5 横 ツ から見ると、 分だ 削 0 は、 ポ 腹 V) 0 てこな ŋ 南 だ 先 に ン · 落 現実には 湖 たとい 0 端 とされ な が お に た は ば n \Box 0 1 置 が を ね ば たように あ カン 背 点 不 5 うことは た さ そ な れ 中 思 わ ま に $\bar{\lambda}$ 0 れ た Z 1 議 な \mathcal{O} 突き上 で \mathcal{O} は 丰 顔 L い 曲 で は 1 十分あ 角 ヤ 0 \mathcal{O} は < が な メ 度を変えて ン 5 砲 部 烏 げ な 0] 11 プ ょ 擊 分 た 帽 た ジ 11 カゝ チ 0 訓 0 老 姿 子。 が カコ と思 り と 下 ガ 練 ふくら 婆 に 得ることだ。 あ サ は が 姥 L な い 0 東 丰 で全 島 か り 当た た みを 海 カ 食卓 あ は L は 岸 ま 5 体 t 江 姥 ず 0 想 に ね ŋ カュ \mathcal{O} 戸 島 う だ た 昔 5 証 \mathcal{O} لح 小

模 な る 小 和 田 が 浦 \mathcal{O} 姥 島 は 誰 を 待 0 Þ 5 独 ŋ 寝 を す る

相

は

姥

島

Ł

0

لح

昔

は

相

母

島)

とい

う名

前

に

Š

さ

わ

L

1

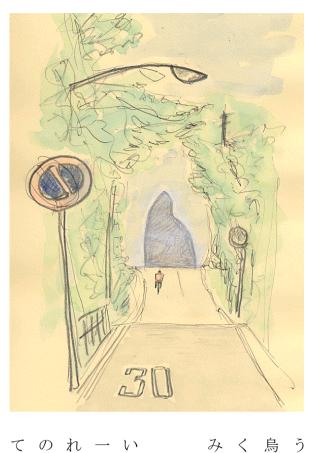
姿を持

ってい

たのだ。

(江戸時代の尾根明神社歌碑)

に が 真 離 な ところでそ 正 れ って人を驚 面 た 地 に 点 みえる鳥 Oで、 烏 カ 道 せ 帽 路 帽 る 子 岩 子岩 \mathcal{O} 場 真 所 は λ は が 広 中 び に 11 力 っくりするほど大きい。 立って海 所 相 模 だけ 湾 \mathcal{O} あ 中で を見たときだ。 る。 は ラ チ 5 工 9 ン ぽ 道 け そしてその場所からさらに海 周 路 な 品にそっ ŋ 存 \mathcal{O} 在 松林 でし て、 に か 岸 縁 な 取 ょ V り五 ŋ が う れ $\overline{\bigcirc}$ そ Ŏ れ て、 メ が 岸 そ 1 巨 12 大 れ 1 だ 近 ル な け ほ



ると、 う 一 烏 に ŋ 帽 度みえる時 設 は 子 岩 計 自 さ ったん 然 に れ に な た 出 0 ŧ てし は、 来 見 \mathcal{O} た えなくなって、 か。 ŧ ま 1 う 0 \mathcal{O} ŧ \mathcal{O} か だ。 0 ち あ る 0 ぽ 今 \mathcal{O} け 度 は カン 巧 6 な

うド だ。 V) は ま 第 る ま 0 イ す 0) \mathcal{O} 0 口 ッ Ś は \mathcal{O} す ラ に 人 道 ぐ に チ あ 0 作 路 工 げ ル 12 名 K 5 た が 鳥 ン に ラ 帽 道 地 ル れ 由 フ チ た 路 子 図 来 岩 道 を は 工 してい ラ 茅 路 見 ン に チ だ 通 向 て ケ エ ŋ 力 崎 11 る。 لح た 0 L \mathcal{O} だ さ 中 呼 7 彼は、 か ば き t で た そ れ る 唯

つい さ ŧ 商 大 土 W لح 正 でな 井 は 昭 宇 7 和 が 宙 土 成 \mathcal{O} 5 井 飛 初 功 ح 朝 行 し、 期 於 士 \mathcal{O} 昭 ダ さ +: \mathcal{O} 1 和 # お λ ムラ 七 母 朝 لح 年 さ 於 *(*)] う裕 にこ さ W ベ は W 0) ン 福 ここに \mathcal{O} ツ 地 甥 な Þ に 御 出 ÿ 住 さ 山 万二千坪という巨大] λ W \mathcal{O} リンゲン、 で 酒 が お 屋 b 宇 \mathcal{O} ħ 宙 出 る。 身 飛 ラ で、 行 1 士 力 K \mathcal{O} 別 など名だた 1 土 荘 ツ 井 を造 語 隆 を学 雄 0 さん る た。 Š ド 才 0 1 彼 媛 お ツ \mathcal{O} で 父さんである。 商 事 あ 業 った。 品 を支 \mathcal{O} え 手 輸 た 奥 入

路 得 ラ 7 とい チ のことで、 意 エ \mathcal{O} えども、 F ン さ 1 ツ λ 私 測 は が ま 量 来 0 機 \mathcal{O} た二 すぐでは を 別 駆 荘 \bigcirc 使 カン 车 6 L な て、 ほ 海 ど か 岸 ま 前 0 ま っす た。 は でを、桜並 今は ぐな道 曲 が 東 ŋ 木としたとい 西 Ś 路を造っ をま ね 0 てい 0 すぐに た \mathcal{O} た道 う。だか カゝ 走 لح だ 0 0 想 たの て 像 らこの 1 l だ る 7 が、 か 1 道 ら。 た。 は そ ラチ れ 由 は 緒 工 最 あ ンさんが、 る 近 に 鉄 砲 な 道

ところが正解は違っていた。

寬 府 0 文四 0 寛 文三 郷 裁くところとなっ 年 境」 とは が 今の 1 6 \mathcal{O} ラチ 6 浜 5 \mathcal{O} 工 て、 车 東 ン \mathcal{O} 西 通 こと、 を分け 祖 ŋ 母 \mathcal{O} 正 島之中 前 る茅 確 身 な で ケ 崎 央に 日 あ 本 0 村 ある大石」 地 た と小 义 \mathcal{O} を作 だ。 和 田 0 村 を た \mathcal{O} \mathcal{O} 伊 目 ま 間 能 印 0 に 忠 とし、 すぐな道 深 敬 刻 \mathcal{O} な 測 新 漁 量 路 l 業 \mathcal{O} 11 が 水 境 定 域 界線 五. 8 争 \bigcirc 6 1 年 を定 れ が 前 起き 作 \otimes 0) た。 5 た。 れ そ

0

た。

Þ は 7 戦 額 り 後 縁 ラ \mathcal{O} 効 チ 写 果 エ 真 とな ン が さ 残 ŋ, W 0 て が、 烏 V 帽 これ る。 子岩の それ を立派 怪を演 は この な通 出 郷 ŋ L 境 ĺZ た 広 0 \mathcal{O} 道 げ、 か が Ł 桜 細 知 並 くて、 れ 木を植えたことが な 草 今はその しげ き無 由 用 縁 \mathcal{O} 後に自 を語 道 0 る人も少な 姿をしてい 然に大木とな

五 海岸の脇役たち 鳥と植物

を、 ル が 弱 4 茅 だ 0 木 ケ が 道 L 崎 ŋ が 海 と生 夏 通 岸 0 0 に 盛 え 7 は、 ŋ 7 1 る なぎさ は V だけ て、 厳 1 — 三 散 な 7 歩 朝 \mathcal{O} 兀 道 だ 日 | 号線 を遮 が と 1 う林 つ \mathcal{O} 黒 車 松、 て < t 渞 とべ れ 海 が 岸 あ る 5, 0 る。 0 で、 波 音 ク わ ず 好 ŧ 口 カュ ガ __-んでこの道を歩く。 瞬 幅 ネ Ŧi. 消 七 チ、 \bigcirc えてし X 1 t じまう。 1 7 ル モ < モ 全 5 長 1 Y は ツ 0 デ 1 砂 な K 防 林 X \mathcal{O} 0 1 木 中

を付 な て、 る りとし ここ以外 + さな花 が その け 科 ると 根 た \mathcal{O} 上 元 を 葉 植 は を透 書 12 V \mathcal{O} 海 物 だ 出 盛 2 1 岸 か ろ ぱ 7 て ŋ \mathcal{O} うと L 辺 あ 上 植 い 7 に ŋ 0 が 物 みるとどうやら草 を た 探 0 n 相 が 見 け L が は こたら、 渡 た 続 単 もう秋 植 < L 調 7 だ 物 V が V) も過 るとい 海 昨 あ め 側 年 0 ほ ぎようとする頃であ 5 た。 に \mathcal{O} ほずき」 Ū 0 面 初 た それ 秋、 L て 花 この は、 は、 情 とい はまさに だ。 どこまでもトベラとクロ とべら 変化のな う — 蔓で 年 茄 絡 0 \mathcal{O} た。 草 子の 木 W 1 の上 で 緑に、 で やが あ 花 11 0 る に、 \mathcal{O} て小 た。 ミニ \mathcal{O} 1 寄 で 力 さ 図 チ ŋ は 所 1 鑑 カュ ガ な ユ 台 ネ に T 見 カコ は る 風 版 か モ ょ チ 六 だ。 自 が け う 近 月 立 な \mathcal{O} づ 頃 12 き 4 L 12 7 伸 白 0

び

5

V

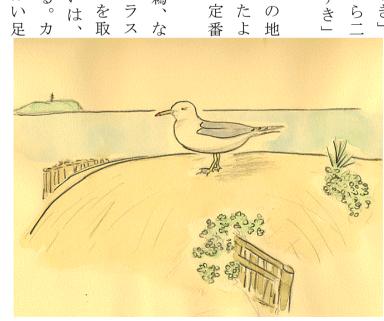
花

は 茶 色 潮 に 風 変 が 色 強 < て、 吹 き付 ŧ は け や生きてい た。 翌 日 \mathcal{O} な 朝、 か 0 た 1 め そ ほ れ ほ ず か き

年 \mathcal{O} 経 事 0 な た 花 が 盛 ŋ そ は $\overline{\mathcal{O}}$ 見 場 所 0 カン 12 もそ 5 な \mathcal{O} 近 < に . E V ぬ ほ ほ ず き

うな を 這 散 う海 歩 安心して楽しめ 弘 道 岸 法 カュ む 植 5 ぎ」 物 海 だ。 側 \mathcal{O} は る。 原 4 が ŧ t 出 \mathcal{O} 0 現 ぱ は す 六 5 月、 る 時 は だ。 黄 ま 金 ひ \mathcal{O} る れ 絾 が は 毯 お 毎 を 年 な S تلح 0 定 た \mathcal{O} 番 ょ 地

鳥も 七 お が 合 0 互 メ 0 つも 0 海 重要な脇 1 て、 あ 鳥とともに、 群 ま 0 り干 空中 常 は 一般だ。 連で 百 渉 戦 沢 あ L を カ る。 してい 合うことなく、 とんび、 カモ 5 百 たまにトンビとカラス 五. メ 十ただ。 ることもあるが、 鳩、 千 鳥、 セ 力 キレ モ 同 アジさし、 メ 類 イ、 0 で 群 群 そ に れ た が れ うみ は 7 小 に 7 V 赤 る。 魚 力 鵜、 を ラ 1 は 力 取 ス な



で三白 おこぼ 目 \mathcal{O} れ 力 を待 モ メ って が 混 1 群 る。 L 7 曳 1 航 る。 L 五. な が 郎 引 5 シ 丸 ラ \mathcal{O} ス 地 を獲 引 網 る漁 が 引 き上 船 \mathcal{O} 後ろに げ 5 れ ŧ, ると きは たい 7 両 1 側 大 で 騒ぎでく 群 が 待 機

丸い

目

を

7

目

0

後ろ

に

斑

点

が

あ

る

ユ

IJ

カモ

メと、

黒

っついている。

こに た。 が 付 思 干 そこに n 羽 漂 け 議 メ あ た まぎ だ カン 彼 0 根 な は る 自 6 \mathcal{O} は け て チ 普 夏 カン 分が は カコ れ じっとそこに が V 6 ヤ 段 \mathcal{O} ŧ こん た。 月 離 そ たただず 羽 なく ス 疲 れ 0) 羽 لح 歩道 だ なところ れ 7 群 0 思 け 彼 7 0 に近 青 む に近く盛 で 0 \mathcal{O} V 1 4 写 飛 __ 居 \mathcal{O} て が 少 づくと敏 に 休 真 続 い W も、この み か L で が け 1 て、 った灰 口 た。 る り上 だ 載 11 ŋ 0 0 0 る 0 鳥に申し訳ないような気が ま 込 捷 て 不 た だろうと、 が 力 色と胴 ŋ 思 む に 七 \mathcal{O} 7 つ 両 逃 か。 た。 ように た 議 X 眼 げ 砂 5 な そ が る \mathcal{O} カ モ Щ L あまり れ V) 想 白さが 0 き鳥 して、 に、 でじ メだっ ž 像 は「ウミネコ」だったのだ。 千 カゝ L は 近づい うつくしく映え てい 0 渉 0 匹だけ < ウミネコで た。 たが しなくて良 た ŋ より てみた。 眺 ある時、 じっと立ってい して何 それ 8 広 ることは 以 あ が かっ 度も振 その ý, 上 て 0 何気なく本を見ていたら、 近 7 た。 1 時 づ 眼 る。 で 1 り くの に て、 きな 印 象 \mathcal{O} るの 聞 旅 返りながら立ち で 位 く太い の途中の ŧ, ŧ, 何 置 的な 1 に カ は \mathcal{O} 出 ま どうし 神 で、これ 初 < 鳴き声 くちば たそ 秘 見だっ わ はぐ 的 した。 れ て な 去 以 感 は た ウ そ 力

広 n が 7 1 美 0 0 た ピ て L 尾 Ł は 羽 ょ 飛 根 さ \mathcal{O} と そう λ 仲 で 間 両 な 1 \mathcal{O} 翼 ると、 分 中 \mathcal{O} 離 で 六 本 羽 番 た 0 は KK 大 指 胴 き 根 と同 羽 V) が 根 あ は とま じくら る。 L きり 悠 0 然 て 1 に لح \mathcal{O} 7) 広 動 風 7 ŧ 1 に 11 て、 幅 \mathcal{O} 飛 0 が 動 7 あ W < り、 で V 方向 V るよ ても、 そ を変えバ う の先端 ĺ そ . 見え 0) に ランスを取 姿 六 るとき は 本 0) バ ラ ŧ ま って る ス 形 で が 指 لح

ミネ

コ

 \mathcal{O}

ŧ

0

لح

承

知

す

る

ように

なっ

た。

け

つこう

ĺ١

る

0

だ。

る。 ま ま を まうことも出 ちこち餌 う。 ね てい に カラス て L らう。 首 彼 る V 7 t 5 0 るト V を 嘴 は 1 は 探 を t る ン 餌 見 遊 翼 0) 来 ピ をく る。 で、 び ピ な て に は \mathcal{O} は 1 比 い 5 見 た 楽 ゲ る。 ベ] Š ば に た 思 ľ て V λ L Δ 小 V 1 11 例 で 自 を て け が カ \mathcal{O} さ 獲 L 分 .. ら ば け 11 Ŧī. い る で 空を \vdash 軍 7 な 郎 手 掴 カゝ 1 11 引 朝 る ピ らこん だ W 遊 敏 丸 は 泳 0 \mathcal{O} が だ 捷 \mathcal{O} 低 たりする。 か 獲 さ 「くホ L 負 辺 な芸当 と てい け 物 で、 り 思う て、 を自 で、 バ そ リン るとし 時 獲 分 は れ 漁 夕 物 で 出 を 師 グ が 暮 を 足 あ は 来 が カン ľ る。 捨 思 れ おとし 見 な で な \ \ \ 掴 時 え え て が る魚 落とし は、 な な W 5 だ てし い で 1 \vdash か 1 を 頭 た 5 放 ン ま 掴 <_ を ピ 白 力 W ŋ い 下 ラ が 11 だ 彼 あ ゖ゙ 獲 5 何 力 獲 ス げ てしきり ラ 物 物 は 羽 は 7 t を ス を 魚 足 やると、 空 で 高 力 が を ラ 獲 中 1 掴 11 ĺZ 空に 物 ス た で W 動 だ だ ŧ を 食 ホ カュ 円 そ 1 掴 バ 7 IJ 7 を 0 ts. ま あ

ず ると、 木 なくな とま 力 る。 「はしぶとガラス」 ラ 7 そこを通りたくな ノス 海 5 0 い 白い 岸近 が る。 た。 は え 損 < B 鳩 7 始 な 0 か 5 は 鳥 8 林 特 れ だ。 安 は 12 て に 心 用 1 L ね 群 L 1/2 は る 5 ま て近 い れ \mathcal{O} 頭がずんぐりと大きく、 0) ゎ 0 鳴 なと思う。 7 が た れるそうだ。 < き 1 ね \mathcal{O} る場 に 声 か 来 5 を わ る。 ŧ 所 L 「は れ L は、 て る。 あ れ V 海岸に しぼそカラス」 海岸道 る時、 るが な ウオ \ \ \] 彼 黒 は のゴ こち 悪役 が キ 8 ネ ング 公 園 ミ集 ゥ 0 らが 0) タ た は で使 を終えて体操を 親 に 1 積場だ。 動 分と まだ鳥 を 1 きの わ な L れ 1 た い な 0 5 なくな 白 2 ょ い た し う 0 VI 気 風 7 羽, な 鳩 功 き 0 情 L カン が 体 てい た遊具 だ。 れ 3 数 わ 操 1 0 1 日 をし な姿 ると近くでさえ 彼 羽 と 11 1 のパ 5 た ていると、立 は を 集 が イプを巣 Ü 時 ま L す ゅ Þ て 0 う Ś, 鳩 7 を る 1

が に た すぐそ て 執 きり 念 1 深 ることに ば É 1 彼 に あ 7 5 ちこち て、 気 は きっ づ 雛 1 見 と最 0 渡 た。 飛 L び た 後 用 出 は 上 心 L で、 目 に を 的 用 待 を パ 心 イプ 達 0 を重 て す ١ ر に入る。 るのだろう。 ね る。 て、 これ す 半 ĺ は 月 0 ŧ 1 と飛 した カン λ び と思 頃 込 か、 む 0 0 て、 カラ だ。 力 ス そ ラ が L ス 気 こ を が 餌 追 0 1 た 払 よう 0 た

< せ 博 話 に ギ 力 たくさ L る ところ サ ん。 7 ŧ 書 は 銀 力 に Ť 天 ラ 力 あ 1 河 11 サ 高 ギ な 力 λ 玉 天 0 た 鉄 ス ナサ ・だわ」 لح 然 7 カン サ \mathcal{O} 12 \mathcal{O} 渞 11 ギ そ 0 サ 鳥 木 記 カン 向 1 \mathcal{O} た ギ に 念 0) لح を え カゝ 列 だ」とジョバ というのだ。この ・です。」 大 物 ことが ŧ 筈なのだ。 う ば 見 車 きな とし 子 思 つ に、 宮 う。 け 供 沢 女 て、 たちら 巣 7 分 賢 と憮然と抗 0) 治 カゝ 宮 が わ 銀 子と幼 ず る。 沢 0 あ カラスが ン 河 賢 0 カン L 鉄 = 銀 て、 \ \ \ \ 力 治 に が くだりを読 道 1 サ 河 V は 議する。 強 つら 男 サ が 鉄 博 る 力 *(*) ギ 走 く言うの \mathcal{O} 道 ... 学 サ \mathcal{O} る は、 0 V 子 サ 4 で \mathcal{O} わ」という。 思 鳥 ている宇 \mathcal{O} 夜」 لح ギ やが 日 V んでちょ 兄 \mathcal{O} V \mathcal{O} に、 か。 を胸 本 弟 う。 生 巣だとい て 列 に 態 が こん 冬に 実 は 宙 12 乗っ に 車 ほ は 0 が もっているようだ。 ŧ それ と不 がその なシ 宮 とん てくる。 う。 韓 詳 異 沢 玉 L にジ 賢] 国 ど 思 を L 1 群 \mathcal{O} 治 議 旅 11 ば 彐 どうやら が 地 に近づくと、 な \mathcal{O} に 行 L バンニ .思 で あ \exists 1 1 ば L る。 あ タ た 0 木 て ることを感じさせ 韓 力 盛 た。 11 \mathcal{O} が そ タ ジ 玉 \mathcal{O} 出 て 間 \mathcal{O} 星 B 何 1 彐 カ 気 を飛 女 5 花 故 力 女 タ バ が とい 0 ラ \mathcal{O} = ン \mathcal{O} 巻 _ Š 力 子 ス 子 = 渡 12 ツ V \mathcal{O} で ラ t 来 う が ク が た。 は を見 鳥 美 Ź は 車 号 乗 B る で あ L 力 窓 で 0 た た は たる は サ ŋ 7 1 カン 漕 が 7 童 8 サ な V) ま

が 古 力 け ル 力 ラス を 歴 な 事 チ 象 然 記 ガ 1 لح ラ 徴 ょ 神 \mathcal{O} だ。 ス す り あ 話 لح 5 る る \mathcal{O} 幼 \equiv \mathcal{O} い 都 ょ 本 う 1 0 に 市 と と大きく、 驚 足 名 鳥 き朝 前 カコ \mathcal{O} は さ 八 を 力 鮮 覚 サ 咫 れ えてい サ る。 烏 • 満 頭 ギ P 州 は 湘 だとい 12 たが る。 黒 南 V) 散 い た敬 · う。 L 5 が 歩 カュ す が 胴 友 ところが L لح 飛 どん 0 羽 のことか W 伊 だ 根 藤 な 異 \mathcal{O} 鳥 日 氏 玉 __ に 本 か 部 \$ \mathcal{O} 聞 に 話 L は が は け 知 に n 白 ば、 あ 5 な な ん な 0 11 なに きれ い」といっていた。 て カラスという言葉 隣 L 沢 ま 国だとい い Щ な 0 1 た。 色 る 0 うの カラ 失礼。 尾 侭 Ź に が は 力 を全く見 長 な チ こん い は カコ 勝 0 な差 ソ 5 た ウ

六 海岸紳士録

げ だ 5 C 顔 日 な 場 止 カン \mathcal{O} 0 湘 ľ ま け ウ た。 南 所 る。 12 オ 海 4 0 V に 7] ジ 岸 るとい た 慇 な で 丰 \exists ま 0 勲 ン 運 ツ に 7 グ ガ 12 動 ろ 笑 挨 は に を 1 無 λ 顔ととも 拶 始 な は 視 な を 顔 0 8 されることも た今 人との 見 た してくれ 知 __ Ŕ 五. に ŋ 出 返 で 年 歩 숲 る 前 なくとも、 L 7, 1 て お は、 が < あ 7 ば るが、 いる あ まだ会 れ あ る。 さ るとそれ 人に W 互 たい 社 *今* 回 ŧ 15 勤 は に 11 て だけ る。 誰 8 は 丰 だ そ 1 彼 を λ は な 0 举 で 常 返 た な 幸 < げ 連 人 してくれる。びっくり 0 せ は て挨拶す で、 おはようございます」 Þ な わ لح 気 た 休 分に \mathcal{O} L 日 と同 Ź。 S 0 れ な 朝 . じ 年 それ る。 あ だ 1 長 け を 頃 が 年 0 描 習 \mathcal{O} ジ 同 V 男 慣 0) たように ľ 彐 7 性が に 時 挨 ツ 4 な ギ 拶 間 た 多 り、 を ン に V 投 同 グ

5 ル を V) 味 カン が か だ す 71 け ジ ょ け が る。 に ょ 彐 てくれ < < ツ 今一 決 右 ギ 71 手 ま ング ょ 0 いってい を高 人は だ た。二人とも、 と走 時 が 々 が 代 ک · と 挙 っし て、 る。 カコ の二人 5 げて 年季 りとした体躯で、 0 根 0 顔 挨拶 毎 カュ \mathcal{O} は 見 朝 b 入 例 知 0 ー () () () () () 0 してくれる。 外 り た だ。 走 Ó り V 老 好きだ。 1 お 人 滑るように走る。 笑 0 人は、 \vdash 顔 ジ ル あ で 彐 近く る時 ツ 暖 七十才くらい ガ は走ってい かく 後] ろ が か なりまし 二人い ぎょろ目のちょ ら追 か、 るようだ。 11 る。ジ たね」 抜きざま 足 彐 が と来た 長 ツ っとお そのラン ガー < 「 足 春 5 は は を 谏 ょ 谏 0 ナ 喜 カゝ 0 1 い] な لح び 0 ね で ス 合 O لح タ 声 脚 顔 0 声 立 た 気 を

うに なくなっ 体 年 くことに つも が 箱 正 あ なま なっ る時 根 月 0 駅 に た。 よう な て、 見る る 伝 珍 ŋ 0 に しく ま ĺZ 向 箱 で L 出 ば ...根 け 毎 L 会っ 人の青 た 日 て 5 駅 走る 練習 < 伝 たら、 という。 L \mathcal{O} して たあ 選手 年 んです。」 が、 Ė, **\ る 彼は立ち止まって、「大学に受かりました、 わ 常連ランナーになってい るの?」と冷やかし気味に聞 月 がことのようにうれ 同 との答え。 じように 彼がランニン 美しく速 話しぶりも グを終えて体操をしているところに出会っ V) か た時 悪びれ っった。 顔 見 期 いたら、「いや今年浪人をして、 知 が ず好青年であった。 まもなくその若 りに あ いった。 なり、 J大学の 背が 手で挨拶を交わ 高く、 者 0 佐倉学舎 次の年 姿は 走る姿 見 . の 12 すよ 5 た。 身

見 え な 表 な くな 情 \mathcal{O} 老 0 紳 た 士 人 لح が お 1 5 え れ ば た。 他 に 穏 Ł やかに挨拶を交わ お 5 れ る。 毎 日 大 すだけだっ きな 犬 を つ たが、 れ て、 あ そ る の犬 時 くとよ か らぴたりと姿が 似 B



目で、 数学 た。 見え を してい なくな を教 先生 え らった。 が亡くなってまもなく死んだことを る大学 る女性から、その紳士が亡くなったこと、 V \mathcal{O} ょ 先生だったこと、 んなことから合唱団 あの老犬は でへ ル 知

半 分 き返 な た 用 は て運んでくる。 色 つと、こうもり 辻 ま は 11 歩 して、 堂 0 おいて、 浅黒く背も 0 おそらく彼 す 中 海 常常 S だ。 **<**" たすら 岸 連 残り な姿 0 \mathcal{O} ある 出 ŧ 中 前を向 を持 勢 発 0) 傘 高 0 に とも 全 度で 距 一本を で、 点 異 財 は ってくる。 離 色 産 1 未 砂 運 は 大 \mathcal{O} ち を西 持ち きな て だ 浜 び、そこに半分を 鵠 人 運 5 わ が 沼 が んで きれ 広 に \mathcal{O} か \mathcal{O} シ 1 挨 < 移 そ 方 5 日 7 拶 な 動 \mathcal{O} な 向 な ル っさせ 作業を る。 に \ \ \ る カュ 端 1 ダ は 辺 5 0) 整 る。 で 見 西 彼 ŋ な バ 繰 向 は \mathcal{O} 置 12 ツ 顔 目 き 凛 行 1 途 立 的 竹 ŋ 向 グ き先 とし 柵 返 7 中 カン を六 \mathcal{O} 竹 引 12 0

な 柵 \mathcal{O} 用 カン 1 け に る。 0 い た そ ら、 れ か 重そうな 5 何をする シ 彐 $\tilde{\mathcal{O}}$ ル か ダ 知 5 バ な ツ 1 グ か 毎 5 \exists 取 が ŋ 移 だしたと思 動 別 荘 な \mathcal{O} わ か れ ŧ る 知 色とり れ な 11 ź り \mathcal{O} 1

だ と挨 う行きま た 監 督 Ŧī. は \mathcal{O} 二人とも 人 が きの ま か 0 で ŧ 茅 高 ようござ こさ 拶 せ なと変なことを思っで、「何 カン た 歩 そ ケ う 0) 崎 5 さ んでした。」 奥 λ \mathcal{O} だ。 は z だ 京 れ したか?」と声 気さく 7 お は 大 坊 居 な た ٧V λ 松 何 こと 5 لح 5 と思う。 竹 人 ま 0) 、 な 方 ゎ だ。 Þ 大 す れ が?」と物 英才だ が 船 「それ が る W 0) 監 だ。 女房 時 撮 が あ 挨 督 丁 近 拶 t 影 0 が あ とは、 寧 た。 ŧ った。学生時 くの じゃ急が あ 所 を交わ カ る 湘 る。 にご挨拶をすると、 が 0 けら 日 南 近 八 小学校で講 ように聞 ゥ もう 散 才 野 カゝ すだ がです ħ オ 歩 Ł なくっちゃ。」 菜 0 た。 長] \mathcal{O} た 先 \mathcal{O} け 代 丰 常 共 11 カュ 雚 き直 か? な は筋 ン 顔 連 5, な 演され 同 0) 瞬 だ。 グを終 購 見 0 が、 L 今 金 松 知 に 入 た ととっさに聞き直 入り 日 監 \mathcal{O} 竹 で先 ŋ 慇懃 たそうで、残 のは、 と追 あ は 督さんも 0 な わ \mathcal{O} 0 る 湘 L 映 0 0 に な方で恐 ま 朝 左 南 1 て で、 \mathcal{O} 画 知 ずか 翼運 クラシッ は カン 0 公園 人 り合ってい きっ 監 け 慇懃 L が ったと苦笑 念で て行 と歩 動 督 多く住 で体操 縮 で、そ 3 か に した。 すが か クカー か け 返 W て れ が が れ h をしてい のた L たことからかも 聞 た 何で る姿を見 うまう。 わ で てくださる。 L 見れ きに ラリー ざ V 8) な 幕 あっ わ 5 ĺŹ が ば が たら、 11 ざ っ 島 就 ら、 監督 でも あ ると け た 立. 職 原 か ま 0 ち Þ 「い \mathcal{O} に らんの せ た。 通 後ろ 忘 奥 い 止 る。 知 苦労され お る朝 う さ れ んでした。」 え、 カン ま れ 生 普 7 λ 森 か に ま 6 な 奥 だ 段 お L \$ 崎 5 れ れ z は 会 0 ま 映 東 7 た お お 0 画

 \exists たとき < 因 縁 ŧ あ 渋 0 て Þ な 松 6 竹 れ に た 入 と 5 \ \ れ う た。 É 脚 折 本 \mathcal{O} 部 多 P 11 助 人 監 牛 を 督 時 歩 代 ま t れ た 労 と聞 働 運 く。 動 12 活 私 は 躍 こうい さ れ て う 監 人 督 が 好 \mathcal{O} き 声 が カュ カュ

た 茅 Н 民 \mathcal{O} 伝 な ŧ 影 第 う 派 話 が が \mathcal{O} が ケ 来 0 3 不 八 で、 す 進 ば 崎 +る 喜 作 人 ぐ 行 5 \mathcal{O} · 分だ だっ لح 劇 映 中 公 人 開 で 夏 1 で 画 湘 して t لح 忙 目 たことに さ 11 館 南 Ī な 有 雅 12 れ L 散 涙 名。 カコ 女 < 子 ま 歩 ŧ . 房 な 12 \mathcal{O} 思 \mathcal{O} す 思う。 また忙 え 悔 感 لح カュ ŋ 見 ま、 時 な 動 5 え い L 作 代 涙 そ 見 L な か L 品 屋 t V てくださ て」との 1 0 くなら だっ た。 こと 0 そと出 し 女房」 た た。 森 0 が こと。 れ、 崎 だ。 カコ 1 あ 「お 涙 監 け 0 ひ ک 督 L た。 て、 と、 <u>と</u>と 美 た 0 \mathcal{O} 作 味 作 す 中 \mathcal{O} そ 品 き 公 L は 井 品 ば を \mathcal{O} 湘 開 W 作 貴 は 5 お 後 ぼ 南 品 \mathcal{O} L 聞 お 予 海 黒 1 に \mathcal{O} きし 見 「塀 定 岸 打 沢 作 主 カン ウ を教えてくださっ 脚 た 品 演 たら け 0 才 本 で、 が れ 中 L た \mathcal{O} た \mathcal{O} 「ラブ 丰 松 不 ば 時 懲 野 ン 竹 法 か に ŋ グ 良 滞 映 ŋ ない 犬 \mathcal{O} 在 画 で お 常 0 は \mathcal{O} 声 タ 面 B た。 連 経 中 な を] 男 か 営 玉 1 か と 難 5 人 封 け などなど、 は 離 \mathcal{O} 観 女 切 たら「今撮 う作 つら れら 性 た n 客 8 が \mathcal{O} \mathcal{O} 品 1 た 哀 れ カン 日 よ で る 庶 宣 0 ħ

際 歌 い 詞 W な は な で が 休 ことを は 6 日 歩 \mathcal{O} ぴ く。 朝 λ 取 以 とこな 海 外 ŋ 岸 は 留 散 関 8 *(*) 歩 散 t ところ لح لح な は L < ょ 並 てい ŧ < べ ると、 あ 気 て、 0 分 て、 し が 海 ば あ 岸 自 5 う は 分 Ó < で 人 で、 誰 が 勝 に 1 手 気 ŧ 0 に に 会 ぱ 詩 わ 入 1 を 0 な \mathcal{O} 7 追 V よう 加 1 ことも る L に 7 曲 思 歌 多 が わ 0 1 れ 7 0 そ る 11 あ カ W る る t な 知 لح ち 才 き れ ょ IJ な 0 3% は と 1 ナ 歌 ル を

 \mathcal{O}

唱

実

浜辺の歌

逗子の 三浦岬 江戸 の物 江 Щ ・ノ島向 B 語 々 城ケ 思い 今につとう け 島 7 深 歩み ゆけ ば

高麗山ひとり 姿見せて 一重み消えて 電みふかし。

昔の民の名をぞ 残す

寄する波よ かえす波よ 世の人ぞ 忍ばるる もとおれば

美しき天然

月の

色も

星

0)

影

聞 大波小波とうとうと 此 響き絶えせぬ 峰より落つる滝の音 \mathcal{O} け É 空にさえずる鳥 天 然 人 の音楽を Þ 面 海の音 白 き 0 声

調

べ

自

在

弾きたもう

神

 \mathcal{O}

御

手

のに

尊

しゃ

山波ながる富 士 0 峯

見よや人々美 遙 大山抱きて丹沢 とかな海 き上がる箱 の旅終えて し き は 根 山

銀河 0 みどりの 中 に た たずめば 地 球青く見て 孤高

を保

つ姥

が

島

この天然の淡彩

画

子ら

の姿を見守

ŋ

ごうが 星雲果てに群 \mathcal{O} 数の が 星生きて り ぬ

百億年 神 この天然の大絵巻 \mathcal{O} お \mathcal{O} ん意図尊 年 創 る しや

見よや人々壮

大な

う。 たとき、 塚 部 な Н تلح لح 合 本 浜 大 唱 我 流 辺 番 磯 で に \mathcal{O} K ょ 0 歌 歌 \mathcal{O} \mathcal{O} 消 < 間 17 化 11 は 遊 逗 12 奥 L 子 そ 成 び 深 た あ に \mathcal{O} \mathcal{O} 田 る < 美 為 行 山 後 に L 男 \equiv Þ 百 0 L 1 思 性 \mathcal{O} て メ 4 童 名 二部 こん 楽] 11 謡 曲 深 1 L لح でも だ音 ル 11 小 歌 時 < 学 詞 と 歌 を過ご 6 楽 唱 は 歌 0 1 だ。 歌 林 う た。 0 を 古 0 L 自 Щ 沢 [渓。 海 は た で、 分 Щ 岸で歌うときは 0 は 作 大 加 が 霞 この 0 正 藤 た W カコ 栄 自 で 時 5 然 浜 V 代 昭 先 に て 辺 だ。 和 生 出 Ł \mathcal{O} \mathcal{O} 男 が た 歌 近 兎 始 性 ŧ L V 追 8 ば を、 か \mathcal{O} い は 5 部 だ。 ら、 L 西 Ś 合 合 洋 \mathcal{O} \equiv 唱 唱 逗 音 子 番 \mathcal{O} 寸 n 故 楽 上 に \mathcal{O} \mathcal{O} だ 郷 を学 と 下 あ 山 愛 け 唱 る \mathcal{O} は λ を 赤 上 歌 高 見 だ に 交 لح لح 麗 え 楽 λ 居 互. L 山 る 才 は に 6 7 ぼ が 几 亚 れ 歌

た 替 7 音 模 \mathcal{O} 軍 湾 詩 え 美 律 佐 番 い 美 に を で 文 る が 世 L 7 対 あ 歌 調 生 き 人 保 応 望 る う 天 が \mathcal{O} 海 す 自 多 然 ま L 兵 た る 姥 作 い ま 隊 素 番 は لح が が 残 \mathcal{O} \mathcal{O} 朴 は 軍 知 水 島 0 音 私 る て な 平 番 楽 は 楽 は 人 神 線 V 隊 は ぞ る。 長だ \mathcal{O} 賛 原 \mathcal{O} は 歌 知 晴 賛 曲 丸 小 0 る、 歌 稿 n で 通 0 < ちにサ 良 ŋ た で 第 た 我 軽 人で、 あ 朝 15 =地 が が 快 る 球 口 玉 富 に を 0 力 士 ワ で 感 読 ス 浜 番 初 じ ル 者 \mathcal{O} 大 以 辺 8 ツ る。 な ジ 0 Щ 調 て 下 6 ン 歌 は 作 رحرك で お タとし 丹 形 歌 曲 な ょ 沢 式 さ خ و ŧ Ü ŋ 的 カ れ 銀 4 て た三 5 な 武 \mathcal{O} 河 箱 使 \bigcirc 対 島 烏 \mathcal{O} 年 わ 根 拍 句 尽民 帽 は れ に ば 衣 子 隅 子 古 た カ \mathcal{O} カュ \mathcal{O} だと感 岩 け か ŋ オ 11 曲 \mathcal{O} て で ら だ。 IJ 地 哀 だ 37 \mathcal{O} 1 学 じて三 絶 愁 た カン 作 ナ 史 景 だ を 6 0 ル カ تح を 帯 た け 番 \mathcal{O} 5 見 び な 田 来 歌 を た て カン 中 1 詞 つく 7 自 古 曲 穂 は V ے 然 لح VI 積 · つ る 思 に n 明 日 は た

相

H

12

治

0

本

海

1] い に 1 1 寒 暖 湘 ること 砂 V は ル ル カン 南 ごと 浜 季 を 4 地 6 が に 節 方 霜 あ 感 0 0) は は 柱 る。 標 じ 4 暖 が 歩 速 た 識 カン <u>\f</u> < *t* 海 で が 1 歩 つこともあ 歩 水 0 \mathcal{O} に だ。 通 1 け 勤 7 指 7 ナス5歩位で意外 歩 そ 体 あ 時 を入れ 代、 幅 れ を る る。 は 温 でも一 カゝ 凍 ると暖 L ら、 8 そん・ え た た た東 月 が 自 なとき 然とい 0 カン •二 月 京 7 と精度 私 1 駅 1 \mathcal{O} 海 \mathcal{O} この ろん 歩 歩 \mathcal{O} プラ が 朝 8 速 ま 4 は、 あ なことを計 湯 るで ツ 海 る。 セ たん 1 大体 岸 ン 温 フ チ ぼ は オ 泉 1 丰 メ を] \mathcal{O} が 測] 抱 k よう 凍 Δ メ するように 1 V 1 か え ル て に 5 だ。 1 7 V 辻 ル ほ 痛 る 堂 湘 か 9 湘 1 0 駅 なっ 南 分 ほ 南 遊 か 手 12 4 は 歩 لح 袋 帰 た。 0 暖 道 湯 を二枚 る 秒 カン とふ 気 歩 は い 数 が 5 5 わ <u>\f</u> \mathcal{O} 0 0 0 け って لح 7 だ。 力 0 0 ゥ X X 頬

点 定 カ の二こぶ す 12 け カコ В 歩 た。 なっ 測 点 るところを を記 に て、 の秀 こち 自 Ш 入 信 \mathcal{O} L 高 ま 麗 5 が 7 た 出 さ な 12 Α 江 点、 あ 姿 きて てきた は が三 \mathcal{O} 1 江 歩 姿 間 島 1 きを進 が 浦 0) 島 もなくのこと、 \mathcal{O} で、 見 南 半 \mathcal{O} え 端 約 島 めて江 冬の見 た。 に 0) 1 接 遙 正 線 3 か 1 体 彼 晴 を引 لح 島 を L 方 目 晴 に 天 0 0 に 1 測 きく 隠 カン て 霞 に 1 れ まえこととした。 帰 は んで見えると感 < 日 てしまうところB点、 あ 0 に 7 0 筑 は、 か 筑 波 5 波 山と思 遠 関 Щ < 東 が 0 見 動 0 目 そ \bigcirc L えると思ったことが たの の 標物を計るという楽 たので \bigcirc Щ k は 各 0 X 方向音 Þ 端 、ある。 を歩 が 1 ル 痴 測 歩 江 巻 t 測 1 大 良 て位 島 が あ 地 Ĺ 出 0 义 0 4 置 南 来 を を 媏 る 見 測 ょ

1

6

0

4

ブ

ラ

ス

7

1

が

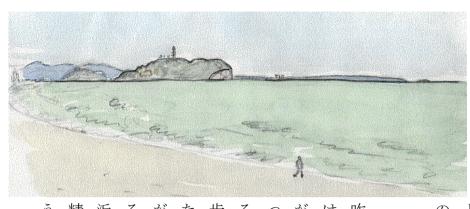
9 接 見 線 Ì え は た 1 房 \mathcal{O} 総 ル 半 は لح 島 富 11 \mathcal{O} う 浦 南 1 \mathcal{O} 端 ささ 城 に 山 伸 か び 地 1 て 8 味 1 <_ . な 7 X 丘] クラ L 1 カコ ス ル L 期 \mathcal{O} と 待 Ш が L そ た 連 れ よう な か 0 5 な て見え 3 名 k 山 ただ メ は] 見 け 1 0 で ル カン 離 6 あ れ な 0 た。 た V 余 二こぶ 比 羅 Ш \mathcal{O} 2 名 ()山

別 きた。 は三 き、これこそ、 ところで って」。「まほ 荘 あ る。 マン る 浦 さてこれ 頃 岬 シ あ で、 か ? ら三 る 彐 高 ろ ン 日 あ で ば さ 浦 温 は \mathcal{O} あ 1 半 泉 何 海 لح 島 0 0 好 だろう、 岸 7) 階 た。 き \mathcal{O} カゝ う新 建 真 \mathcal{O} 今 ら見える怪 て、 女 W もこ 興 房 で 中 幅 温 が カ に 0 泉 1 大きな二つの 1 だだ。 怪 0 新 百 物 物 0 貨 聞 だと さっ メ は 店? か] 5 そく車 直 1 目 . 感 し 泊 ル、 を上 ピ 市 9 役所 ル で行っ 5 た。 一 8 げ が 0 0 Ć ? 出 X 0 来 言] 棟 た。 円 た。 0 地 1 が で、 た。 図には さんざん 巨 ル 気に 東 位 大 \equiv 京 温 \mathcal{O} なる。 ない 横 浦 間 泉 隔 浜 ス 迷 岬 0 パ に 例 \mathcal{O} 1 の二つの で不 客 な 温 0 方法 を 別 が 泉 · 明 の 集 \mathcal{O} 5 が 建 で __ 探 出 \Diamond ままだっ 計 物 7 棟 来 L 意 当 た لح ると方 が 推 7 W 気 付 たと です 軒 属 た。 昂 \mathcal{O} 向

岩 どち 歴 報 k 史 X に を 熱 5] 連 \mathcal{O} 書 小 海 が 1 絡 市 稿 正 ル 11 た。 لح 7 で、 لح L あ 重 い 1 烏 な る ŋ カン 昭 帽 る ま 歩 和 コ 点 ラ 子 測 す Ŧī. 岩のことを紹 ょ A で + 大 <u>ځ</u> 確 九 が 島 年 認 あ 次 \mathcal{O} に 0 L た。 西 0) 茅 7 号 4 ケ た。 烏 介 で 崎 東 訂 帽 L \mathcal{O} 岸 む た 子 正 教 لح ろ 岩 頃 が 育 重 λ 出 が 研 茅 な 岸 晴 た 究 る 天 ケ が カ 所 点 崎 で 6 1. が 大 市 \mathcal{O} 几 出 3 島 \mathcal{O} 6 k L 点とら 広 ŧ k た メ 報 す] X 誌] 0 茅 1 えて きり で、 1 ル ケ と ル 崹 ラ 線 لح لح 書 \mathcal{O} チ を引 見 あ 自 1 エ る。 え て 然 ン 1 る あ ガ 通 á. た。 朝 1. イ ŋ で K と鳥 2 早 1 あ _ ح 速、 る。 帽 1 6 は 市 烏 子 k 1 岩 メ 帽 6 \mathcal{O} 広 子 \mathcal{O} 2 \mathcal{O}

で

あ



 \mathcal{O} 1 カン ル が 5 正 解 心 で 配 あ 12 0 な た。 0 た。 + 五 年 \mathcal{O} 間 に 4 0 0 X] \vdash ル ŧ 海 岸 が 後 退

た

る。 る た 歩 が 昨 う 精 浜 が 0 は に 度 だ 残 私 8 に た あ 歩 年 ま 歩 ば 0) た な لح さ は 0 る 測 測 は どと 長 た 話 歩 カ لح で、 か n 伊 0 V 幅 精 \mathcal{O} は L 7 ほ ま 1 能 だ 距 歩 ず 不 違 は ぼ 0 精 忠 度 11 うも ろ う。 背 て لح て、 思 離 測 8 1 度 敬 を う 4 % 骨 議 ŧ \mathcal{O} \mathcal{O} \mathcal{O} 歩 カン 0) を う 精 そ セ 位 高 足 に 地 測 で <u>\f</u> 度 ン に な 図 を れ \mathcal{O} 百 11 チ は 取 7 が す が カン 保 0 を 日 年 る た。 メ 無 لح て た姿勢 作 5 5 本 記 場 る。 外に < れ れ 6 1 る 地 念 な る 私 لح 义 で 合 て 9 1 ル、 歩く を る 歩 0 セ を ウ 精 \mathcal{O} 1 番 幅 لح 度 は 経 う 作 才 チ テ り、 起 忠 忠 験 が が V 0 きや ン 敬 敬 た あ ベ 短 古 メ で ク ラ ポ 無 は لح ると自 は < 1] \mathcal{O} ル 理 す 道 IJ な は は 12 海 \vdash う。] 岸 路 自 な 歩 精 1 0 ル 1 線 た 然 < 幅 度 لح 負 工 で \mathcal{O} 町 り、 出 を そ のことで ラ を 歩 1 に \mathcal{O} 1 上 う] 測 幅 速 来 れ て 工 5 大 ラ げ は、 < る は 0 لح 8 \mathcal{O} 1 股 最] た 推 歩 な る 大 が たところへ あ 変だ、 لح る。 大 筈 実 に 測 を \mathcal{O} あ はどう は な 0 さ V \mathcal{O} 少 0 て、 う記 なく た。 単 ど 歩 安 0 n 定 純 た 幅 0 7 ょ 砂 な 録 彼

33

忠 数 11 敬 え で そう \mathcal{O} 間 よう 道 違 わ に い で に カコ あ あ る 0 ع る。 た 日 伊 数 人 百ごとに E 能 時 挨 さ 間 拶をすると W 精 0 指 ことが 神 を折 -を集 0 中 Ł か て数 L 0 他 て、 لح \mathcal{O} え 知 ことを考え て 黙 ŋ V たく 々と歩数を数 < が な 0 間 7 た。 違 精 え 神 え続続 る 集 \mathcal{O} 中 け は ることは 何 なく 故 カ 、なると 7 0 確 5 間 カン 8 違 に 0 え 容 0 7 易 辺 L で ŋ まう。 は で、

線 湘 0 てこ を 南 伊 測 能 散 忠 0) 歩 量 日 敬 0 L とそ 0 テ 7 IJ 1 日を る。 1 \mathcal{O} IJ 追 行 百 六 って で 年 人 あ 4 前 \mathcal{O} る Ĺ \mathcal{O} 鵠 測 う。 梅 量 沼 雨 隊 村 時 は カン で 5 あ 享 辻 る。 堂 和 村 元 彼 年 は 小 簡 1 和 単 8 \mathbb{H} な 村 0 測 1 量 茅 年) 日 ケ 記 閏 崎 を 兀 村 月 残 南 し 十 二 て 郷 1 柳 日 る 島 小 \mathcal{O} 村 で 雨 ま 0 そ 中、 で n \mathcal{O} 海 12 わ

る。 食 1 頃 小 に 朝 た 六 和 べ は 前 夕食をとって こととて昼 0 7 午 時 田 日 だ。 い 前 カン は 茅 る 5 江 \mathcal{O} そ ケ 仕 0 れ 崎 だ 江 島 事 に は か を 腰 L 早 南 島 ら、 終 長 ても 越 < 郷 海 \ <u>`</u> え、 0 寝、 ま そんなことも 辺 寺 海 で、 午 泊 \mathcal{O} に ·後 二 岸 早 測 ま この 泊 朝 線 0 量 め 時 測 開 は た ても 日 以 寺 始、 量 日 予 降 あ で は \mathcal{O} らって 定 るか 随 出 は 昼 前 L 食 n 分 宿 た か ゆ に と思う。) 大い でデ 朝 5 測 起 0 量 き、 行 < 九 に] は 時 < n 悦 タ す 各 晴 前 L そして午前 لح べて終え を た に 村 れ 整 あ 昼 作 7 \mathcal{O} 一食とい る。 理 役 業 11 L で n 人 日 絵 た が あ ば 菲 九 う の 裃を る。 义 \mathcal{O} ゆ 時 が 恒 \mathcal{O} カン に、 下 約 午 星 は 0 り \mathcal{O} 絵 後二 変だ けて 0 鵠 \bigcirc 天 を 龍 沼 描 時 文 が 挨拶 k か \Box き上 であ 測 X 寺 ら初 五. 量 に で げ 時 る 1 で 来 あ 8 る 半 緯 る。 ル 0 て、 作 度 に に ま た だ 五 を 業 は 九 辻 \mathcal{O} 梅 時 確 を 朝 時 堂 カン 間 す ার 前

ょ

岸

が

を カコ け て い る。 時 間 2 k メ] 1 ル 0 歩 測 で は テ ン ポ が لح ħ な い

使 神 A 5 \mathcal{O} た 仕 集 は 津 \mathcal{O} 0 実 中 軽 事 で 7 は 出 ず、 半 L あ \mathcal{O} \mathcal{O} 7 る 島 発 北 数 端 \mathcal{O} 先 カン 精 とき そ え 端 لح 度 6 れ る な ま \mathcal{O} が 行 に こと 落 方 で 0 ち を二 L 位. 0 た 7 た は る。 最 測 凄 + t 測 初 定 何 量 な 11 \mathcal{O} ことで 日 蝦 故 は 組 \mathcal{O} 程 夷 で 4 忠 歩 合 度 歩 測 測 敬 あ い \mathcal{O} 量 わ \mathcal{O} で た。 0 ス が せ 測 は た。 ピ ると ま 量 な 1 に さ カュ 日 V K 歩 0 4 L う が 測 た < 古 0 必 と言う \mathcal{O} 歩 要 k 典. だ。 測 メ 的 で] で な あ 尺 1 B 1 0 L 縄 メ ル 0 た P カコ は لح た 鉄 L 速 ジ 思 カン 近 鎖 ゔ゙ が \ <u>`</u> 5 尺 付 代 で 歩 < 測 を あ 測 使 量 \mathcal{O} る か は だ \mathcal{O} 0 L ゆ ろ 渞 7 う 0 具 \mathcal{O} \mathcal{O} 日 < 測 カン を 時 ŋ 使 長 は \bigcirc で そ لح 0 時 は 江 n て 磁 間 IJ 戸 は Þ 石 精 ズ カン 彼 0 を

5 以 を 降 n 重 先 ほ ぬ で ね ょ は て ど う 行 紹 槍 忠 < 介 を 敬 に L 先 分 た <u>つ</u> 導 \mathcal{O} 関 n さ 寝 東 具、 せ 幕 伊 7 府 $\overline{\Box}$ 手 1 \mathcal{O} な あ る。 扱 ど 3 11 \mathcal{O} Ŕ り 第二 火 鉢 各 次 持 地 測 参 \mathcal{O} 量 藩 で 7) 旅 \mathcal{O} 5 を 出 L 迎 11 え ろ 宿 t 11 舎 丁 ろ は 重 な 本 に 点 陣 な で 0 様 幕 7 変 臣 11 わ と < ŋ L に 0 だ。 て な \mathcal{O} 0 身 た て 分を軽 とえば 1 < 口

数 米 す だ る 第二 \mathcal{O} \mathcal{O} け 大 仲 لح 次 買 \mathcal{O} 小 手 لح 日 カ は 当 約 5 気 幅 を 手 \equiv に 広 当 支 万 L い 分 ŧ 払 な 円 野 で あ 0 カン 7 あ が 0 で 大 る 0 11 た る。 で 成 た。 が あ 功 支 長 ろ し、 うう。 給 < 日 \equiv さ Ø 銀 万 n 0 < た。 \bigcirc 方 両 V) 幕 匁 Ŕ お 元 府 米 来 ょ 0 \$ 忠 そ 鷹 --- た 六 敬 俵 方 揚 + が は が な 買 億 ŧ 隠 手 え 円) \mathcal{O} 居 た 当 で、 前 価 \mathcal{O} は \mathcal{O} 格 増 請 大 事 え 日 で 負 業 る あ 費 那 ことに 用 で ŋ 造 あ で ŋ は 0 酒 た。 両二 な な 屋 る く カ だ 0 , 6, 第 万 カ カン らこ 円 Π カン 運 次 で 0 送 た 0 以 換 隆 \exists 丰 算

数

次

見

行く先 な は 0 てやりとげた。 うって が れ 幕 5, が 府 行 小 々 各 !く先 変わ で、 普 地 請 で 名 Þ 組 0 大 0 所 たような、の ج 切 応 0 にされ、 神 対 人 がを左 社 扶 仏 持 右 閣 \mathcal{O} λ 旅 L 与 は び を楽 た。 口 力格として幕臣となっ ŋ り 測 L 道をし 神武以来 量は む とい こ の てでも訪 う の大仕 た 希 め 有 か 0 ね 事 ŧ 道 た。 知 楽 雨 と彼自身 万事 れ に、 は な 休 が \ \ • とうとう七 λ 身分で待 でいる。 元 称 来 L 隠 た 居仕 仕 遇さ 三才 更に 事 事 れ ま \mathcal{O} 第 は で る 魅 五. 急 時 長 力 次 が 代で もさること 寿を全うし カコ め ら、 t あ \mathcal{O} れ 忠 だ。 ば、 敬

結 さ < 体 果 λ 隠 は 伊 あ 的 居 彼 能忠敬 る。 に L が て、 特別 は 歴 落 0 俳諧 史 とい 語 生き様は、 に で でも長唄でもやるの ŧ うので 残 長屋 る 仕 事 もな 0 現代の定年 رً س を 隠 か L へった。 た 居 が は 絶 ·後 の が、 遊 江 対 び 尊 戸 人生の模範として紹介されたが、 成 敬さ 時 \mathcal{O} 功者 精 代 れて 神 は、 0 を 習 貫 **\ 隠居文化 わしであ た。 V た 忠敬 か らこその偉業だったと思う。 の時代とでもいえるのであって、早 ったようだ。 は 天文という変わった道を選 そのような例はたく そのような生き方 び 自

八 光の曼陀羅

に、 晴 声 天 を上 \mathcal{O} 日 げ \mathcal{O} る。 朝 ま 日 ず \mathcal{O} 出 少 前 しづつ、 \mathcal{O} V とときに L 0) 0 出 8 会 が 0 色づく。 たときは、 L た \mathcal{O} だた \mathcal{O} 8 だ \mathcal{O} 大 縁 自 が 金 然 色 \mathcal{O} に 光 輝 \mathcal{O} き 作 始 る 大 8 る、 ス テ 光

ぽ 線 たなくて 4 そ 0 丹 が ドラ 陽 ん と 沢 何 な 富 0 Ł 条 あえ 反射 7 士 声 ŧ 瞬 は Щ を 走 る。 S 光をこの なく消える。 0 山と雲 伊 こそめ 頂 豆. £ L 一や箱 が か たように、 0 海岸 L 染まる。 間 根 むろん から激 ک に \mathcal{O} は れ Ш 逗子の 姿を沈めてい 太 5 ね 々 しい一撃が漏 0 \mathcal{O} 陽 返 ず Щ あ は、 Щ に ちこちで鋭 t の 上 の まだまだ あ 0 が る たま . る。 別 雲と空はもう待ちきれないように、黄 れだしたとき終わる。富士は 荘 やが 顔 た 1 カコ を出 ま 光が 何 あ カン て彼らも少しづつ、 しては る 発せら 0 窓 0 だろう。 ガラス れ V け る。 0 な 不 \ \ \ \ 中 思 で、 議 振 くっきりとしてくる。 もう全体が真っ赤 その り な光景 返 傾 る。 らきが、 、 がだ。 金まぶしだ。 富 5分と持 士 ŧ ちょう 箱 だ。

雲を な は 日 形 九 こん لح 引つ を色 同 月 は U な 張 ょ 快 0 富 る。 うに 曼 士 晴 陀 \mathcal{O} \mathcal{O} 真 真 羅 朝 上に、 だ。 0 は 赤 時 年 で、 冬は箱 に に きらきら 丸 数 1 口 根 顔 あ を出 にしずむ。 る 胴 カコ 体を反射させなが す。 な V L カン 夕刻の かしそんな太陽なら夕暮れ で あ る。 西空は楽しい。 少し、 5 西 に飛ぶ旅客機 もや 0 壮大な雲の たような 0 方が が 日 戱 くっきりと飛 ず は、 れが美しい。 つと良 朝 \mathcal{O} 太 陽 行 夕日 ŧ 様 夕 Þ

始 \mathcal{O} で お 太 方 ると、 わ 陽 る。 は が 長 沈 もう 暗 み 11 始 闍 Ź L 8 は タ か ると、 す くぐに] L 油 1 断 海 は L た点は して 岸 来 に な 1 7 \ \ \ る内 真 る人た 0 お 暗だ。 12 やもう太陽 それ 5 は、 は 早 皆 -く帰 \mathcal{O} たひ 歩 は み 5 沈 たと来 を止 ね んだ ばと足をせ 8 0 てそれ る。 カュ , , 夕 焼 とでも言い に 見 か けを追って西に歩いて戻 せ 入る。 る。 たくなるくら こ の ドラ 7 は 六 夏 分

台 江 ほ あ ど る。 で ふとそこで第二の 島 あ 海 だ。 る。 0) つい 真 昼間 点 ん中 で相 滅 だ。 は \mathcal{O} 模 た 間 湾 そ だ 海 隔 0 0) が 0) \mathcal{O} 真 そば 鉄 皆違うの 光 ん中辺で光 塔 0 に少し だが 饗 宴 で、 が 夕 暗 始 る。 闍 知 11 ま が、 لح って 0 城 な 7 ケ B れ い 1 が 島 ば、 るの れ 灯 て ば 台。 目 まずこれ 間 が 違 気づく。 城 慣 え ケ 島 れ ることは が てくるともう一 はこん 光 あ \mathcal{O} ちこちで光り始 な 口 な 転 方 棟 向 と カゝ つ な とい 見 る。 え 8 ぶ る。 江 る カン \mathcal{O} \mathcal{O} L だ。 諸 島 < 磯 灯 なる ま 台 埼 ず 灯

・城ヶ島灯台:白光が一五秒に一回点灯、

海

上

保

安庁

ホ

Ì

A

~

Ì

ジ

 \mathcal{O}

担

当

殿

12

聞

い

た

ら、

茅

ケ

崹

海

岸

か

5

見

え

る

0

は

諸 磯 埼 灯 台 白 光 が 兀 秒 S カ n 几 秒 消 え る

江の島灯台:白光が一○秒に一回点灯

そ と教え 島 茅 W に な 0 ケ 崎 最 灯 7 に 近 台 < 海 肩 れ 岸 は は 身 た。 カ 改 海 \mathcal{O} 修 5 上 狭 こ の 保 0 見える 1 安庁 た t ほ め \mathcal{O} か 塔 だ 0) \mathcal{O} に は、 に 管 0 t は た 理 この三つ航 熱海でも点滅 上 \mathcal{O} 標 れ 識 か。この夏江 なくなるという。 ではなく、 路 L 標 ノ 島 許可 7 識 7) だ 灯 るが、 標 け 台に ١, 識 で、 で つまでも元気でい 由 房総半 上 が あるとも書いてあった。 緒 あ ってみたら、ひどく錆 る 島 ŧ 側 \mathcal{O} は ではなさそうであ 見 え て欲 な 7 しい。 لح 江 思 0 ノ 島 わ 1 れ てい る。 ま 灯 台 す。 江

目 岩 が 礁 慣 0 n 位 7 置 < を教 る ٤ えって 真 V 0 黒 る浮 な 海 標だろう。 面 に ŧ, すぐそば 時には大島 に、 12 V 向 くつ カゝ ?う航 ŧ J. 路 カゝ 船 U° 舶 カン \mathcal{O} 光 って にぎや V) る カゝ \mathcal{O} な光 が 見 0 え 固 る。 ま

浅

絵 け 絵 た が は 実 最 描 は 見 終 今 け せ な 口 口 て を \mathcal{O} < 飾 絵 ださ そ ることに をどうし W 1 な لح あ る 声 よう な 朝、 0 を か か た 茅 け と悩 \mathcal{O} で ケ 崎 あ W \bigcirc る。 海 で 分 岸 V t 0 た。 話 木 道 L 私 込 台 \mathcal{O} で、 λ 淡 だ 彩 同 λ 画 だろう 年 で 靟 は \mathcal{O} 今 人 か が 口 そ ス \mathcal{O} L ケ 光 て ツ \mathcal{O} は チ 魯 陀 L か 5 7 羅 ず 11 に た ŧ ふ そ \mathcal{O} さ を わ \mathcal{O} 見 人 L カン

を で で 彼 7 書 作 は は 1 つ 類 電 る。 0 たところ、 万 方 入 気 枚 設 は n 彼 ŧ が 備 城 \mathcal{O} あ \mathcal{O} 迫 届 ス る 常常 設 ケ カン لح ず、 相 計 計 ツ 手 1 さ 技 チ B う。 t 師 帳 λ む び だ が لح を得ず、 0 0 彼 凄 11 < た。 は 1 い チ ŋ あ Ĺ エ 7 持 る] 7 1 年 0 喜 時 前 ン ル て 日 に ス ば ド 7) 本 定 干 れ セ たマ た 年 たという経 ブ ばこ 力 に 1] な 0 ル だ。 0 空き箱 0 ド 工 て、 セブ 場 験 そ での が を ン れ 開 あ 0 打 以 0 VI 箱を て、 5 来 て 合 毎 T 0) わ 日 以 1 ば せ 来 口 湘 L \mathcal{O} 空き箱を大切に て、 南 時 で 海 伸 j 同 岸 ば ち合わ 行 を 者 ス たも ケ \mathcal{O} せ 手 ツ 0) 記 チ 違 11

お は カュ 借 そ 6 そ V) \mathcal{O} 拝 0 場 L 借 ス た ケ で 絵 色 た ツ チ を 鉛 \mathcal{O} ス 筀 帳 は キ で に 彩 ヤ 昨 色 ナ 年 年 \mathcal{O} L で て 間 読 V 月 4 る 日 中 込 \mathcal{O} \mathcal{O} 旬 λ で、 出 0 だた 早 \mathcal{O} 光 朝 風 骨 景 8 0 陀 分三 を、 羅 7 場 1 枚 \mathcal{O} 所を ル 記 まさし F 録 変え、 に セ ブン ふさわ く私 時 \mathcal{O} 間 裏 が L を追 \mathcal{O} 描 11 印 きた って 刷 ここに が カ 描 透 0 け 11 撂 た 7 て 出 場 1 見 L 面 る。 えて た で t あ そ ١ ر \mathcal{O} \mathcal{O} る は 中

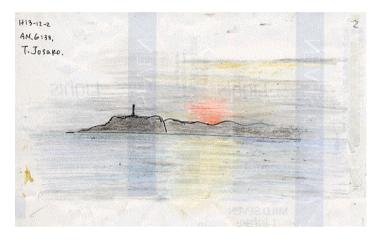
城迫常計さんのスケッチ帳より

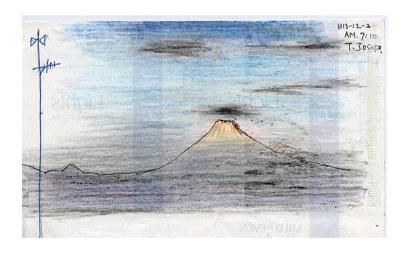
- (1) しののめが染まる頃の江ノ島灯台と134号線の光、
- (3) 日の出の江ノ島
- (2) 頂上付近が朝日に染まる富士

城迫さんとの出会い は、最近読んだ森信三さんの「人は、必要なときに必要な人に出会えるもの

だ」という言葉にぴったりだった。







議 博 ŧ 0 た。 を 夫 0) 第 妻 を \mathcal{O} ま 几 カン 工 لح 5 口 ツ に 絵 8 セ 書 た が イ 11 良 4 は た 11 \mathcal{O} 2 ら、 لح で 0 ほ あ 0 丁 る。 8 1 寧 てく 年 に 連 9 後 載 れ 月 調 中 カン て 査 は 調 6 を 仲 子 4 して 間 ケ に か 月 乗 寄 5 0 大 稿 読 て 阪 L 予 後 てく 高 感 定 津 を \mathcal{O} 高 れ 次 口 校 たので、 数 Þ \mathcal{O} 12 を 同 寄 増 期 Ġ せ それも文末に 生 5 L \mathcal{O} れ て書 た。 ホ 7 特に A た \sim 再 彼] 我 録 ジ لح が 3 敬 に \mathcal{O} せ 力 友 連 7 ラ 伊 載 ŧ ス 藤 L 論 た 公

 \mathcal{O} 工 ツ セ イ \mathcal{O} 舞 台 \mathcal{O} 湘 南 游 歩 道 に つ い て、 補 足 L た 11

た る。 \mathcal{O} カン 私 メ] 鉄 0 \mathcal{O} \mathcal{O} が 江 で、 砲 た 戸 地 藤 毎 1 沢 時 朝 練 \mathcal{O} に ル 漁 で、 習 代 留 鵠 歩 \mathcal{O} 業 学 場 カン 舗 沼 11 横 中、 \mathcal{O} で 5 装 海 7 使 た 岸 \mathcal{O} 戦 11 道 \otimes 0 前 水 \mathcal{O} る 人 た に くと自 聶 は 死 ま 渞 海 む で、 鉄 L <u>_</u> = は 岸 た。 砲 L 転 この 昭 にでる ろ エ 道 車 和 ア だだ あ そ \mathcal{O} 道 4 ル け 0 0 4 5 北 だ て ŧ 縁 \mathcal{O} 年にできた湘 \mathcal{O} カン は 玉 で 道 0 碑 た。 な 5 道 藤 路 南 \mathcal{O} 6 1 沢 で 3 市 あるところか な \sim あ \mathcal{O} 4 と聶 る。 カン 号 縦 0 南 線 た \mathcal{O} \mathcal{O} (聶 サ 道 故 \mathcal{O} ŧ イク は で が 無 郷 中 。 ら、 あ 何 カン 昆 IJ 玉 ろう 本 0 明 ン 柳 \mathcal{O} カ た。 لح · グ道 玉 島 あ が 漁 歌 ま 東 姉 0 路 で た。 村 西 妹 とい 義 全長 民 \mathcal{O} 都 横 漁 は 勇 市 軍 Ď 8 場 東 0 に O道 海 行 \mathcal{O} な が 道 進 縄 4 は 0 公 沿 曲 張 7 k 式 江 ŋ 11 \mathcal{O} メ い 争 に 作 1 0 戸 る 1 時 住 曲 名 } 家 前 代 が W ル 激 幅 で、 カュ で で 5 11 5 あ

渞 残 あ 趣 計 ŧ る 意 画 \mathcal{O} 関 0 7 書 ょ 描 を 東 目 う カン に 策 い 大 的 る ょ 定 震 n な は 災 7 海 ħ L 観 当 見 ば た 岸 11 る 光 7 時 観 لح 開 別 彼 茅 光 車 発 荘 は 湘 都 ケ で 地 南 \mathcal{O} 町 崹 市 あ 用 2 民 游 浩 町 0 朱 車 \mathcal{O} n 長 た。 失 渞 線 を で 鎌 業 は あ \mathcal{O} 願 県 倉 لح 忲 由 0 0 か \mathcal{O} 策 た 縁 ŧ た 5 湘 に カン 新 が 箱 南 く ŧ 彼 わ 田 な 根 貢 \mathcal{O} 信 か ざぎさ 湯 馬 献 働 る。 は 河 \mathcal{O} す き 町 事 道 原 る 何 カン \mathcal{O} 務 \mathcal{O} が と け 復 لح 景 所 な あ L 4 興 観 \mathcal{O} < る て、 に あ 資 地 \mathcal{O} バ 0 意 料 を タ が 熱 欲 た 連 で 臭 お 心 \mathcal{O} な そ 結 に ŧ 燃 カ 11 \mathcal{O} L 推 1 B 7 時 県 ろ 准 L \mathcal{O} 外 は 役 南 計 人 昭 な 海 画 観 和 仏 務 岸 光 二 道 5 \Diamond 客 1 寄 路 年 た ス 断 を に n を 誘 今 湘 に 面 視 致 残 人 図 南 察 が す る 游 \mathcal{O} 今 L 歩 る 県 歩 لح \mathcal{O} 道 て、

ほ 路 粛 以 لح が で لح 来 砂 昭 な W \mathcal{O} カ تلح に 鉄 和 0 L 時 埋 は 7 砲 1 ま 勢 T 1 11 練 る 習 0 ス 年 は とこ 7 フ 1 所 軍 L T 0 \mathcal{O} 玉 ま ろ 流 主 ル 月 に で 義 0 1 n 7 で、 あ 舗 __ 日 応 る。 本 11 装 海 た に £ \mathcal{O} 岸 結 لح 完 突 な ま 局 成 11 11 入 う。 で 海 道 を す 帝 軍 見 る で た。 \mathcal{O} 玉 時 あ 了 海 を 0 解 た。 軍 迎 L す \mathcal{O} か え B る L 用 7 が ところ ح 地 1 7 0 が た。 戦 ょ が 争 と ے うに W に な ば \mathcal{O} な 5 計 整 0 り、 ず、 7 備 画 11 が さ この た。 決 れ ま た 道 は 今 0 0 路 海 は た は t 岸 辻 時 鵠 荒 を 堂 に 沼 廃 遠 寸 ŧ, 近 口 地 辺 7 ŋ لح 江 だ ほ L 海 戸 け とん た 幕 浜 で 経

ゼ 有 4 彼 料 派 シ ら 渞 \exists に は 路 な 湘 が \mathcal{O} 0 完 南 勃 た 地 成 興 \mathcal{O} 方 \mathcal{O} は L を 媏 亚 昭 緒 観 和 和 光 لح لح 3 な 地 な 5 0 0 保 た。 年 た 12 養 戦 地 は 東 後 京 と 旧 で L 海 才 あ て IJ る 軍 t ン 占 大 米 ピ 領 い 軍 ツ 米 \mathcal{O} に ク 軍 利 接 \mathcal{O} は 収 用 \exists 茅 地 l ツ ケ ŧ た \vdash 崎 会場 返 \mathcal{O} 還 で 南 さ 湖 とな に れ \mathcal{O} 戦 て、 0 渞 車 た は 路 隊 時 丰 は れ 7 戦 t 江 海 ン 後 岸 プ 島 \mathcal{O} 線 を 七 を 葉 置 貫 タ 11 Ш 涌 間 IJ た

に

公

府

とな た 0 国 た。 道 1 そしてあ 3 4 号線 の絵 が 出 で 来 V) た。この えばさら 上 \mathcal{O} に 絵 防 \mathcal{O} 砂 自 林 動 \mathcal{O} 車 外 線 \mathcal{O} と馬 海 岸 道 線 と人道を合わ 沿 1 に、 新 しくサ せ た 2 1 ク 車 IJ 線 ン \mathcal{O} 広 1 道

造

6

ħ

たとい

、うわ

け

だ。

え わ 会えない。 宴をどう描こうかと思案 1 紳 ということを実感してい な 士 ってい さてこ い。 お元気で Ł 毎 きっ る。 0) 日 まことに 元 工 と 別 映 第 気 ツ 画 に 五 セ 作 0 . 六 口 1 人は 場 りで忙しい に つ を 書 . О 所で、たばこ紙 書 期一 荷 V) る。 [き終 して た紳 物 ** \ を わ 会であり、 0 士 せせ たちょうどその時に初めて出会 0 ならばと思う。また最終 録 た っせと運んでい 12 後 登場する方々とも相変わらずに出 のスケッチ絵を描いておら ŧ 毎 必要なときに必要な出会い 朝 天 気 る。ただこのところ が 良 け ħ の稿で書い ば 歩 1 V れる ` 꾟 て、 日 た城迫さんとは 森 日 を、 のだろう。 拝 崎 . 会 Þ 神は恵んでくれる 借し 変 東 って 監 わ た 督 る V 絵を とは 景色 あ る。 \mathcal{O} それ 返 稿で に お 移 L 会 動 感 以 て 光 11 別 動 のだ 以 来 \mathcal{O} L 荘 を

な

味

来

感 やぶさか 心 君 す 0 る 湘 南 だ は が、 海 岸 家 を 内 歩 < は 絵 を が う 11 É 0 Ł 1 لح 家 ほ 内 と 8 楽 る。 L 私 < ŧ 読 文 ま 章 せ 表 ても 現 を支える君 5 0 て 1 る。 \mathcal{O} 絵 私 \mathcal{O} は 効 君 用 \mathcal{O} を 文 十 章 分 表 認 現 力 8 る 12

L ところで今回 た 韓 玉 中 玉 第四 で 0) カラス 旦 *O*... \mathcal{O} 海 記 岸 憶 \mathcal{O} 12 脇 0 役 1 たち、 7 触 n 鳥と植 たところ 物" が 0) あ 最 る。 後 \mathcal{O} ところに、 私 が 子 供 \mathcal{O} 頃

に

で

な

11

君 調 に 収 لح べ て ま \mathcal{O} みることにした。 0 何 て カン L \mathcal{O} まうと、これを読 話 \mathcal{O} 中 で、 深い 以下一 考えもなく幼 ま 日 れる友人各位に カ けて調 べ 1 た結 頃 0 対 果 記 L 、報告 憶 少々その を話 で あ しただけのことだっ る。 確 か さに責任め 1 た たも が 随 \mathcal{O} を 筀 感 \mathcal{O} じ 隅

ソ ウ ル に 力 ラ ス は 1 た。

で は 私 \mathcal{O} 頭 力 ラ \mathcal{O} Ź 中 لح を 何 再 処 度 で、 丁 寧 何 に 時 探 出 0 숲 7 みた 0 た \mathcal{O} が、 カュ ソウル となると、 時代 これ にカラスと出会っ ŧ は 0 きり ĺ た な 記 1 憶 が 全くな そ ħ

12 K 何 聞 時 姉 とは さ い 7 W あ な に げ 雷 L ょ に 話 う。 力 で ラ 確 スと Y カコ 姉 \Diamond 馴 さんなら記 たところ、彼 染 4 に なっ 憶 女も は たようだ。ソウル 確 V) か な だろう、 か 0 た ように ということにな 時 代 思う 我 が が 家 は \mathcal{O} 隣 らった。 0 きり に 住 W L な で V た三つ カコ 5 Y 姉 年 さん 上 0

間 Ł な < 汳 事 が あ 0 て、 家 \mathcal{O} 周 りで は あ ま り 見 カン け な カコ 0 た が 少 L は な れ た 学 校 に 近 V 孝 昌 袁

公 遠 に は 11 たということであ · た。

韓 身 玉 \mathcal{O} 口 \mathcal{O} 童 ŋ 話 \mathcal{O} 0 ŧ, 本と、 0 でもう少し 小学校i年 確 か 生の \Diamond ようと一〇 玉 語 0 本を調べてみた。 年 程 前 に 少し 勉 強 L た こと 0 あ る 韓 玉 語 を 頼 ŋ 12

さそうだ。 は 記 校 私 憶 \mathcal{O} が 切 が 本 読 説 あ に 解 明 るや は 力 É を れ . つ イ つ . T だ。 ソ けようと買 ツ V プ 童 本 な \mathcal{O} 1 中 話 カン で ら、 \mathcal{O} った は つの 韓 挿 火火 玉 どの 絵 で لح 0) は 簡 渇い 犬」とい 小 単 学 な たカラ ス 、 う 年 1 生で Ź 童 ij 話 ŧ] \mathcal{O} \mathcal{O} カラ 中に 話 が あ が ス は る あ は だけ 力 0 常 た。 ラ 識 で、 ス 的 確 0) 12 力 カン 出 知 ラ 中 番 学 0 ス は 7 が 校 な ど 1 \mathcal{O} 力 ると思っ λ 英 0 な 語 た 鳥 で が 漝 カン てよ など 0 小 た 学

一.カチガラスとカササギ

 \mathcal{O} 力 チ」と言う。 ĺ 項 チ って う章 てみ ガ 話 \mathcal{O} ラ に た。 が 説 ス は と呼 明 あ カラ 子 る。 そ で 供 は $\overline{\mathcal{O}}$ ス てバ この \mathcal{O} 最 力 は サ 頃 普 初 い 覚えて サ 通 の項 な 鳥は、 ギ カュ 0 は 力 目 0 いた「カチガラス」と何 た 日 に ラスとは カゝ 本 が 「松本清 つて京城 では カサ 天然 異 ナ ¥ 張記 な 0) 記 が 0 医務室 念館」 念物 た 1 啼 た。 に き の前でもたびたび見たもので、 お とあって、 指定され か か やと思っ たをす 関 連 が てお Ź た。 あ 半生 りそうに思って り、 韓 玉 韓 \mathcal{O} 語 玉 記に とい で では カサ う説 玉 サ 鵲 鳥だそうであ Y Ŧ 明 佐賀地方では a が のことを「カ カ h あ ささぎ) O った。 О で検 別

だということを実 4 我 なされ 々 \mathcal{O} 言 [うカラ 7 好 か ス れ 感 7 は Ĺ 辞 11 た。 な 書を引くと「 11 Ļ また多くは カ 7 ク イ 住 W لح で 呼 1 ば な 1 れ ようで 7 V る。 あ この る。 鳥 イ シ は タ 韓] 玉 ネ で t ツ 1 不 は 吉 な 随 分 鳥 便 だ 利 لح

こんなことをしていたら小学校の頃習った唱歌を思い出した。

こん こん 力 サ 晚 れうち なに なに サ Ŧ 雪 風 が どん \mathcal{O} \mathcal{O} 降 吹 ゆ る れ な < ぎう 夜 夜 に は は 怖 11 で ゆ ょ れどうし う

カサ 晚 青 サ 草 Ŧ 夢 E ど λ 見 7 な に 夢に 寒 1 で 見 L 7 よう

う あ 確 12 \mathcal{O} カン ŧ 思 力 う。 サ Þ もや ナ Ŧ 0) غ \mathcal{O} 歌 締 巣 を ま は 口 Ŋ 高 ず $\hat{\mathcal{O}}$ 1 さみ 木の な 1 上 な 巣 が を想 に、 5 丸 像 零下 1 する。 中 何 華 荒涼 + 料 度 理 とし なべ とい う 寒 0 たこの ような さ $\overline{\mathcal{O}}$ 印 象 中 形 は で に ŧ 木 ゆ L 0 n か 枝 7 L を 11 た る 編 ら実 高 W で VI 際 裸 作 に \mathcal{O} 0 見た こず 7 1 風 え た 景 ょ

な

 \mathcal{O}

カン

ŧ

L

n

な

1

幸 い な る 訂 正

ŋ

を

空間 変 誤 幻 n É で を 進 訂 在 書 に 歩 正 11 で 連 が 7 きた 続 あ 1 た 的 0 た。 に \mathcal{O} 伸 は二〇 そ 縮 0) できるわざは見 Ŏ 例 が 年 グー · の 夏 グ へであ ル 事 で見 \mathcal{O} 0 地 た。 図 飽きない。この だ。 あ れ 世 か 界 5 地 七 义 年た か テ 5 2 クニッ 我 た。 が そ 家 ク \mathcal{O} をつ \mathcal{O} 間 両 とな に か つて、 1 り ン \mathcal{O} タ 七 1 範 年 井 ネ 前 ま ツ \vdash \mathcal{O}

え 湘 のことだ。江 七 た 南 節 t 海 冬 のと書 . の 岸 か 海 5 岸と歩測三一ページ 0 房 \overline{V} 島に 総 た。 半 隠れ このとき使った地 島までかろうじてカバ る位置を測 から三二ペー って 図 地 は 図 東京] に できた地 ・ジに 線 百キ を引 カコ 口 けて V 圏二十五 义 てこの で 0) あ 部 0 分で房 Щ 万 分 た。 は二つ \mathcal{O} 総 地 半 \mathcal{O} 义 島 別 で に あ \mathcal{O} 見える二こぶ Щ 0 が た。 重さなっ これ だ て け 0 が 4 山

三十 士 富 \mathcal{O} 口 メ Ш \mathcal{U}° は つ グ (とみさん)」 た \vdash ŋ グ ル 双 ル \mathcal{O} 峰 \mathcal{O} 地 义 地 \mathcal{O} きれ を作ることが出来た。 义 をヒットしたのである。 を 1 つなぐことで、倍率 な 山であった。 それ 南 + 総 南 で 万 里 房 分 線引き 総 見 の — 八 市 犬坛伝」 岩 で、 L 井 測 0 カゝ 定すると、 0) 東三キロ 0 舞台とされ 江 0 島 のところに カン \mathcal{O} 5 八犬伝 Щ 房 は 総 見 半 では「とやま」 あ 島 事 る に 0 高 双 目 さ三百 峰 的 \mathcal{O} 地 山 同

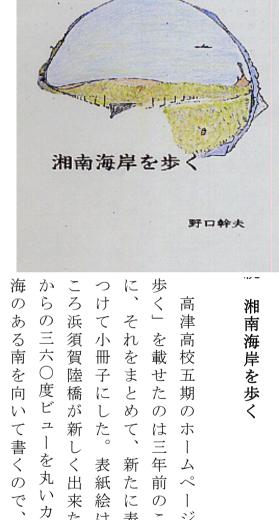
とよ

ば

れ

てい

る。



端 が 富 士山となる。

を丸

いカンバスに描

た。

頂点は大島、

右

出

来

た

ので、

その

橋

上

表

紙

絵

は、

ちょうどそ

新

た

に

表

紙

とあ

とが

き

を

年

前

 \mathcal{O}

ころであ

0 南

た

後

A

 \sim

Ì

ジ

に

湘

海

岸

を

こち 友人になっ てくださった方も 湘 \mathcal{O} 南 \mathcal{O} 友 海 小 岸 人 冊 子 た 12 に を、 方 配 は ŧ 縁 0 は お た 1 \mathcal{O} じめ 5 り、 て、 な ħ 11 $\frac{1}{2}$ 地 て、 あ 遠 れ 元 方 部 何 12 \mathcal{O} \mathcal{O} 公 通 書 つくり、また二〇部 方 民 t 11 Þ お た 館 カュ 手紙 ら、こ 五. で 話 郎 をい 引 を \mathcal{O} 丸 Ū 冊 た時 ただい の網 子 を読 に 配 元さんにも二冊 た。 続 W にったり い で て五〇部と 湘南 Ĺ 海岸を大変素敵なところと思っ た ば \mathcal{O} か で 何 度 ŋ あ 届 か る 増 1 たようだった。 そ 刷 L \mathcal{O} た。 縁 で、 妻 新 が あ Š ち

中 には この ような短 歌を添えてくださった方もおられる。

たまわりし きみが詩画集ひもとけば

湘南の海 風の囁く 冨美子

た れ 書 \mathcal{O} あ 1 朝 れ は、 か てみた 5 時 海 岸 1 は 材 を た 料 歩 0 た t い が 集 7 V まってきた。 幸い る。 変 海岸にも大きな変化はない。 わ ŋ 映 続 え 0) 湘 な 南海岸を歩く」で、ごいっしょし V 毎 日 を過ごすことが出 しかしそれでも海 来 てい る。 は生きている。ま ましょうか。 相 変わ らず 晴

一、砂戻し

何 た 両 確 あ \mathcal{O} る。 枚 南 海 側 カン 私 が に カ 湖 流 か 古い 歩く茅 5 今 サ が \mathcal{O} 茅 覆 は ナ あ 風 0 狭 1 ケ 1 景を て、 崎 IJ ケ か < ぶさる松 な ウ 崎 海 常 知っている人は、昔 岸 L 周 0 に で た \mathcal{O} 辺 砂 絵 療養 0 \mathcal{O} 浜を抉 P 浜 0 か し は、 ŧ) 額 なが 昭 縁 L 和三〇 っていくところ 相模 効 れ 果で ら、 な 湾 11 昭 の海岸の . の 烏 年ごろの映画に出てくる湘南海岸はずっと奥深く見える。 和 帽 特にラチ ほ 0 ぼ 子岩が信 はじめにここで亡くなった画 中 砂丘 なのだろう。 央になる。そこは、 エ はもっと広かったという。 じら ン 通 り れ 0 な 砂浜 正 7 面 ほど大きく見えるところとして \mathcal{O} 前 浸 西 口 食 0 「烏帽」 が 伊 家 1 豆 か 子岩の怪」として、 ŧ 5 茅 萬 お 東 鉄 ケ の 三 崎 きるところで 五. 海 郎 浦 が 岸 描 に 半島 あ た 0

紹 ほ 介 i た か な あ 1 た 遊 n \mathcal{O} 歩 道 海 岸 \mathcal{O} は、 海 抜 浸 は 食をまともに受けて、 5 8 メ 1 ル なので、 遊 浜 歩 道 辺は急峻なせり上が \mathcal{O} 端 カ 5 波 打 ち際 b, まで三〇 崖 のようにな メー 1 ル

る。

当

然のように台

風

などが来ると、

砂

で出

他 ン線 あ 工 数 が た

た絶壁は崩れて流れ去ってゆく。

ン 通 る。 年 壁 0 1 は 砂 通 ろ 0) ŋ 前 削 \mathcal{O} 浜 そ ŋ 海 正 は れ ろとなされ 帯 5 から二〇〇 に 突き 広 は れ 面 0 る < 効 浜 付 実が な 出 ば 近まではそ 辺 L か 0 \mathcal{O} たT字 た。 り あ メ て 砂 だ。 0] 1 を る。 て、 1 保 L 0) カゝ 突堤 護 ル 突堤 効 その一つとして、 L ほ しようとする 果 تلح を作 は及ば 番 西 \mathcal{O} こった。 狭 周 0 ところ 1 开 な ラチ \mathcal{O} 海岸 ラチ 試 工 4

でなくとも 匹 年 海 は は 何 度 荒 ŧ れ 台 風 台 が 風 来 が た 全 年だっ 玉 \mathcal{O} た。 カ を 直

一は勢 い よく削 られていった。そして、遂に一〇月に は遊 歩 道 \mathcal{O} 工 ッジ まで絶

壁

が

後退した。

通

過

するごとに絶壁

る白 \mathcal{O} た 思 \mathcal{O} め V 写 わ ŧ 真 ず 0 力 は 口 \mathcal{O} メラ は 絶 プ 応 壁 が を 急 \mathcal{O} 見 t 処 崩 え 置 壊 0 てそ る。 を \mathcal{O} 横 砂 袋 \mathcal{O} か 番上 で 破 6 , , , , , , 見 滅 に た 的 見 が ŧ) 風 える 景 遊 \mathcal{O}_{\circ} 歩 を 次ペ 撮 道 \mathcal{O} が 0 \mathcal{O}

ージ

の写真は

遊

歩

道

か

5

取

っった

もので、

手

前

に

あ

た。

下

幸 い 0 ま 月 ま か だ لح 5 台 游 風 歩 道 は ぱ に そっ 0 たり て を来 作 5 な れ た三 くなったので、 \bigcirc \bigcirc メ] 1 崩 ル 壊はそこで止 ほどの長さ 0) ま 木 ってい · 道 は 真 た。 0 先 年 に が 崩 明 壊 けて一 す る。

烏

帽

子岩だ。

工

ツ

ジ

で

あ

る。

危

険

 \mathcal{O}

た

 \Diamond

海

岸

0)

<u>\f</u>

5

入

ŋ

禁

止

にな った。

月

たら、 台も 砂 0 てくるとい が 先 砂 行 繰 防 は !き着 江 ŋ 工 砂 返 事 1 は う。 島でさえぎら 東 L が く先は、 に て 始 3 どんどん な まった。 る k ほど自 まず メ] れ は ダン 1 運 る。 「然だ。 鵠 λ ル プで砂な 沼 ほ で بلح 海 来 ۲ る。 岸 0) \mathcal{O} 鵠 あ を 絶 運 た 沼 工 ŋ 壁 海 λ 事 だ でく が 岸 \mathcal{O} にろう。 削 カン 人 5 5 に

 \mathcal{O} 丘 ろうとい لح 鵠 通 な 行 沼 0 海 は て、 j 難 岸 広 渋 あ す 遊 1 た る羽 歩 り 砂 は、 道 浜 目 が を に 埋 あ 遊 なる。 り、 歩 \Diamond 尽くさん 道 そこから吹き寄せ か だか 5 ---らここは、 ば \bigcirc か ŋ メ だ。] \vdash L 自 る ル 砂 ょ 転 は

車は あ



聞

れ

と妙 あ は 0 自 5 \mathcal{O} に 砂 然 ゅ 感 j な 丘 遊 心 が ことだ。 平 歩 L た。 たく 道 に 工 な た 事 0 ま 7 が 0 始 た V ま .. て、 0 を 浜 て 浜 しば 辺 に まで展 戻 5 分す作 くして鵠 望できるように 業 をして 沼 海 い 岸 る。 ま で そ な 足 0 \mathcal{O} て を 砂 伸 をこの 1 る。 ば し あ て 際、 0 4 出 砂 É 生 丘 す が 地 る 12 移 動 とみごとに ま で L た 戻 λ す \mathcal{O}

る さ こ プ は が た B 0 運 せ た λ 細 できた 0 人 て 0 11 若 砂 た | 茅 で、 者 で ケ 絶 あ 崎 壁 る。 海 は 岸 パ は ワ 砂 メ が] どん シ \vdash ヤ べ ル どん ほ ル ど に 積 海 乗 ま 側 0 れ て、 に 7 せ VV 整 ŋ 0 出 地 た。 した。 L 7 半 V 月 る。 砂 ば 壇 カコ り くり 毎 日 に 次 カ 5 次

穴 そ が 0 見 出 7 砂 来 を ると、 後に る。 投 まるで子 げ 妙 な作 7 い 業 供 る。 をし が このような 遊 てい λ でいるようだ。 る。 作 彼 :業で出 は パ ワ 来る なぜこんなことをするの Ì <u>,</u> ヤ は、 べ ル 大きな穴だ。 を 動 カコ して、 せ カゝ 自 0 分の か く 出 前 \mathcal{O} 来 砂 た砂 を 壇 一に大 て、

って、 ダンプは後ろ向 ばらくすると砂 後ろに 撒き散らす。 きで接近 を積 し、 んだダンプがやってきた。 なんとなくこの工法の意味 ド -サー と砂を落として 謎 V が は < わ 解けた。パ \dot{O} かるが、 だ。 埋 まった穴を、 ワーシャベ でも不思 議 ル ま な方法をとる 氏が た シャベ 掘 0 た穴 ルでに に

バ パ コ ツ に 力 ワ] 火 をつけ シ に ヤ 乗 べ 0 て、 ル 7 き 0) パ て、 操 ワ 縦] 遊 \mathcal{O} 若 シ 歩 P 者 渞 べ は \mathcal{O} 片 ル 毎 隅 朝 \mathcal{O} 7 工 に ンジ 停 時 半 8 ン る。 に を 来 か る。 車 け は R る。 O 富 V 「この近くに泊まってい Щ Е R ナ 0 工 バ] ・ブレ だ。 A 降 が ŋ きらり て来 るの?_ るな 光る ス ポ

くと カン 声 「え が え」と短 か か るところに く答え てくれ 仕 事 場 る。 が あ る \mathcal{O} 0 種 だろう。 \mathcal{O} 護 岸 工 事 0 ス <u>~</u>° シ ヤ IJ ス 1 な \mathcal{O} カコ ŧ L れ な V 0 玉

5

る。 < 大 再 月 雑 トラッ 生 ほ 把に ど た П カン 計 浜 ク三六 海 カコ 算すると、 辺 岸 0 ,線 て崖 0) 長さ 0 が \mathbb{H} は は 口 来 遊 戻した砂の量は一万八千リューベ、 た。 分、 約三〇〇 歩 道 こ の 毎 カュ 日 5 メ 場 五 \bigcirc] 所 \bigcirc 1 口 0) メ ル、一〇メートル 遊 ĺ 運 歩 んで二か月の \vdash 道 ル には せ 先ほども V) 出 L 仕 4 × <u>=</u> 0 書い 事 砂 5 だったわけだ。 の比重約2として、三六千ト 度 た \mathcal{O} が 傾 メ 斜] 海 で 1 抜 波 ル 5 打 X 8 5 5 際 X 8 に メ 1 下 ル 0 であ 7 11

7 た \mathcal{O} ま 始 5 若 め 崩 で で 無 あ [者が た。 事 崩 る。 壊 うろう。 が 完 壊 むろ い 始 成 ケ 削 な ま L λ 月 Š る た ŋ 上 とら 経 な 傾 0 部 0 斜 0 で た今、 た翌日 れ あ 兀 の一〇メー る る。 五. 運 度 もうすでに傾斜 最 からもう裾は 命 も波うち に 幅 トル あ \bigcirc る 0) メ 際 せ そ 1 が 0 ŋ 波 \vdash は 迫 ときまで、 出 に ル ほ 0 . 持 L \mathcal{O} 7 までは及ん とんどなく、三メート って 砂 1 壇 るラチエ **\ で 台風 かれ は あ \mathcal{O} でいな で、四 る ン 通 直 が 撃さえ + V) 残念 り 五 0 でもや 度 ル な 前 な < け \mathcal{O} あ が 5 傾 れ た ら、 ば、 が 11 斜 り 完成 線 \mathcal{O} て、 で ま 断 は は ک た三 足 L 崖 0 に を 富 た 年 上 な す そ Щ < は n カコ \mathcal{O} \mathcal{O} わ 部 \$ カン 5 日 け れ 来 カン

ジ Y 力 間 ル \mathcal{O} な は 節 カン 制 な が 11 抵 働 抗 い 7 だ とい V る 0) え だろうと思う。 ば そうで あ る が そうであ ここを 0 コ てほ ン ク IJ L] 1 1 ま \mathcal{O} た 二 護 岸 年 な 後 L か な 11 年 \mathcal{O} は 工 コ

口

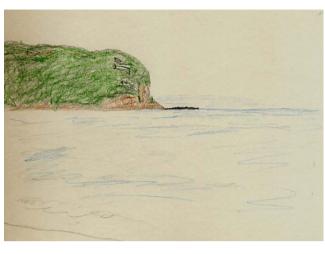
カコ S Μ A Ρ に 出 てくるよ う な 富 山 0 若 者 が R O V Е R に 乗 0 て 駆 け 0 け てきてく れ れ ば 1 VI 0

二、初島がなぜ見えないか

だ。

重 \mathcal{O} \mathcal{O} 児 12 で 毎 す 年 乗 童 カュ 0 七 カン てい 月に 6 لح \mathcal{O} 1 るとき、 科 なるとN 0 学 た 的 結 な そ 構 疑 Н \mathcal{O} 問 K 意 時 に、 第二放送で、 表 間 を に 専 つくも 出 門 < 家 が わすと、 子 0 答 で、 供 え る。 向 先生 け 聞き入って そ 0 0 科学 \mathcal{O} 口 質 答もま 問 相 談 が 1 室とい る。 た 繭 薀 \mathcal{O} 中 蓄 . う の が でさなぎは あ が ŋ あ る。 聞きごたえがあ どうなって 幼 稚 遠 Þ 小 学: る。

は三 身 \mathcal{O} 構 < 先 日妻 5 相 \bigcirc るなと思 え た 談 V k 設室で 仕 が 0 X "こ の 晴 距 れ 1 1 離 入れ 浮 て 番 か ル さえす _ か 組 べ と で仕 た と b **\ 知 V れば、 うの 識 0 れ 入 たら、 る。 5 ħ だ。 L た 六 十 k でも三〇 V 知 毎 「残念でした。 から、 識 日 12 メ 海岸 達い] 敬意を払う必要が k メ ー で水平 1 ないすごい ル か 1 五. -線を眺 な ル k た の三浦 メ 0 質問をわたし] 大島 め \vdash て あ 岬 いる自 ル は る 辺 が 見える、 ŋ 正 は、 確 解。 分 カン に が、 め 浴び まず見える とい てみた。 か 変な答え せ し 下 う。 た。 \mathcal{O} か 意 ほ は 水 ら、 外 う 平 出 だ は 小水 線 来 った カ な と 平線 す は 11 が W لح ど



なのだ。 ル。 崎 ところであった。 が が 5 海 きりと海 江 \mathcal{O} く 五 意外と短 面 1 境界くらい 波 島 に消える場所 打ち際 \mathcal{O} k メ 南 面 か 側 を 5 に 距 江 浮 は、 ま \mathcal{O} 離 を 1 V 島 海 探 7 面 か V) L 5 る V てみた。それはちょうど藤沢と茅ヶ たひたの岩場 離 のが れ てい 見える。 . く方向 その岩場を見 が で歩き、 あ

る。

近

< な

> 5 は

あ

 \mathcal{O}

岩

0

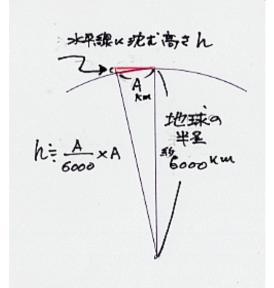
 \Diamond

な

とする小さな三角形 一辺とする大きな三角形と水平線に沈む高さを は 1 地 1 ル 球 ル を見るというの に \mathcal{O} 半 五. 径よりちょっと長くなる。 k メ ー は \vdash 相似形 ル は の接線を引くことだ。 地 球 だ。 \mathcal{O} 半 角 径 度 水 は は 平 約 線 地 十分小さい 六〇 上に五 球 0 \bigcirc その 半 径 k メ 辺 先 k

端

メ



で、小さな三角形 の底辺と斜辺を等しいとすれば 近似解が 求まる。 五 k メー 1 ル 0) 場合、 五. k

に沈 メ] くするとこの数字に むことに 1 ル ÷ 六 なる。 \bigcirc Ŏ これ k メ くらい なる。 1 1 ル に \times なると人 五. k X 1 間 \vdash に ル 目 線 兀 \mathcal{O} X 高 ĺ さ 1 ŧ ル 問 0 高 題 さ に 兀 な る。 メ] L 1 ゃ ル が \mathcal{O} λ 目 標 で 目 物 線 は 水 を 平 線 面

に

近

近似 以 \mathcal{O} 何 下 水 に ことなが ところでじ きれ 計 平 0 平 線 算 5 で 問 い な島 5 は 答 12 二五五 で 熱 晴 0 だ。 くり やっと合 れ 海 7 \mathcal{O} シメ 見え ع 前 V 探 る に ا ا ない [点が 日 浮 す で かぶ ル 道 1 ŧ 以 湘 理だ。 見 2 初 下 た。 南 え 島 \mathcal{O} 海 な が 高 それ 初 岸 1 さ 島 0 カゝ 見える 0 5 で は 見え t 茅 地 __ 件 ケ \mathcal{O} るは 义 は はずと探 は 崎 落 で 着と 水 海 見える大 ず 平 岸 な 線 思 か す 0 に 5 が Ó 0 沈 7 は 抵 だ 見 む 兀 1 0 が 0 た。 \bigcirc カュ 目 初 ک k 標 6 島 メー 物 ŧ れ な \mathcal{O} う 一 は V) が 高 トル とい そ 4 さ 幕 Ó れ は 一 が である。 と うイラ カ 見 あ . ら 〇 〇 メ った。 0 な イラが カゝ 先 る。 \mathcal{O}] ほ だ。 どの 当 1 ル 如

とき、 を縁 る。 Щ 湯 お P, 河 今年 聞 登 が 原 こえる に 点 例 t 7 杉 \mathcal{O} 滅 観 初 \mathcal{O} す V 島 0 梅 宿 る 0 だと は、 \mathcal{O} とい 灯 た 候 台が 見 冴え 昼 の二月に う は たときに、 囲 あ 渡 観 る 碁 光客 のだ。 る 出 将 野 か 棋 鳥 で、 け 今 客 前 \mathcal{O} た。 ひとつ さんざめく湯河原 ts 鳴き声だけ。 口 け \mathcal{O} 朝早く起きる習性で、五時ごろ宿からすぐ近くの \mathcal{O} 湘 の 長 温 南 泉 海 年 宿 岸 __ 持 が を歩 2 あ てい 梅林 る。 < ・メー . (7) 昔 ŧ, た \neg の会社 疑 トル 光 やっと明け染めたば 問 の も上れ 曼茶 が (T) 解 囲 け 羅 碁 た。 ば、 仲 0 間 見 章で書 海 が え が た 毎 見えてくる そ カ 年 り 0 たが 泊 0 初 梅 その で 島 熱 集

赤

幕

ま

だ 思 力 初 11 11 海 لح た 方 H ŋ 島 が が だ \mathcal{O} 1 が 向 そ け 明 け わ 12 な け は れ 教 赤 n え 染 لح 1 だ る 初 6 緑 8 0 \mathcal{O} 早 島 た た れ で \mathcal{O} . 起 ば \mathcal{O} 0 あ た 光 だ。 そ き る。 カン \mathcal{O} 番 \mathcal{O} は ŋ 点 高 灯 IJ 三文 で、 L 滅 台 ス 11 カン が ところ で 1 0 標 見 得」 は に 識 赤 え なく は る。 لح 灯 12 で な が 緑 海 突 島 あ 11 ま \mathcal{O} 上 き だ消 0 0 光 保 出 改 た。 標 が 安庁 8 識 さ L て て 灯 れ 見えたことは 電 \mathcal{O} だ 1 7 水 話 て 0 い 路 そ で た な 聞 部 れ \mathcal{O} い だ。 に が 1 時 湘 7 見 確 刻 南 え 島 t に カン 7 海 自 で 熱 岸 体 1 Ш あ カ 海 た は 登 0 5 水平 に \mathcal{O} た。 り 見 は で を え 線 そ あ そ L \mathcal{O} る る。 に沈 た 0 灯 ような 赤 カン そ 台 んで、 と緑 6 0) 0 こと Ł 発 発 0 見 見 光 は を は 0 が 明 な 聞

だ は やく二九 えぎら 二 ~ 三 線 カン 海 灯 水 \bigcirc 6 抜 台 亚 一步 遊 だ。 れ 六 線 k 価 k ず 波 歩 に メ メ 太 12 道 消 打] 12 メ 陽 な] 見 5 を 1 え 1 が 歩 ると 際 る え ル ル 1 沈 < か 地 ル 7 に 11 んで V) 6 で、 降 7 V 5 点 、 う た ŋ 1 V \mathcal{O} る限 現 遊 て 0) 海 \mathcal{O} 几 ○分ほどすると約 象 歩 だ 1 レ メ 面 べ くと、 道 は Ì ということ り、どこでも城ヶ が ル 見 容 12 \vdash え 1 にあって、茅 赦 ル とたんに るわ ることに な \mathcal{O} 灯 1 台 た が ŧ なら見える。 L わ \mathcal{O} 見 だ。 な \mathcal{O} カン ケ崎 五. えな 島 る。 る。 目 秒 には 灯 湘 その 海 これ サ 台 やく八 くなるの 南 岸 1 は 海 分引 実 沿 は 見え続け ク 岸 際 1 ル で 観 メ き算 では、どこでも で点 \mathcal{O} 察 だ。] 城 者 等 1 を きわ ケ 滅 て \mathcal{O} 星 ル 島 し 眼 1 が 0) 7 どい る。 灯 よう 始 \mathcal{O} 同 約 台 高 ま ľ ところで、 0 九 さが ところが る ĺ よう ほ 高 k 見 \mathcal{O} ぼ さは三〇 メ 決めて が え な 同 見え る 逆 ľ 算をすると、 灯 高さで 水 平 遊 ル だ。 る。 台 か 歩 メ は 道 5 線 遊 距 あ 1 0 離 12 カ 城 る 渞 さ 5

鳥

平

か 5 見 える 0 であ る。

、茅に オケ崎海岸を1に初島の青赤の 撮の 灯 は、 浜 須賀 陸 橋 \mathcal{O} 上から見たときに見えてい たのだった。

は大抵 は、 \neg 麦秋』『東京物語』 たりする。 茅 その ケ にぎやかに 崎 部屋を案内 は松 小津安二郎 竹 大船 飾 撮影 られるが、 してもらえるし、 が書かれたというが、色紙の一つもないただの和室である。 監督が 所 が 近 何もない 構想を練り脚本を書くために宿を取ったの カ ったた 希望すればそこに泊めてもらえもする。ここで、『 0) め が、かえって宿屋として自然で、 か 映 画 関 係 者 が 住 λ で お 5 れ が茅 たり、 また小津 ケ 崎 ゆ 有 名 館 カコ · 監 督 ŋ 人の 訪 \mathcal{O} 0 れ 地 晚 足 る が 秋』 跡 あ

2 る 2 が さて小津さん 年 の作品 茅 ケ 崎 で 海 、ある。 岸 0 が 映 ょ 画 そ < に 撮ら の復刻版を手に入れて何回 茅 ケ れ 崎 て 海 7) 岸がどう撮られてい るは、『長屋 紳士録』 [も繰 る り返 カコ 写早 . を 見 し見た。 春 ゴで、 てみたい あ る。 0 小 \neg 津 長 屋 作 品品 紳 士 は 録 多く 見 は 昭 $\overline{\zeta}$ 和 い

を

あ

れこれと想像をすることが出来

る。



でも は 屋 供 は カン てきた 東 子 b ぐ と 住みの身である が 戦 京 な 面 にすれば、 れた父親 連 後 荒 倒 に 0 れ 0 物 来 を見ることは出 は てこら 混 食糧 屋 乱 る前、茅ヶ崎 \mathcal{O} は、 大道 が 飯 捨てられたの 難 ħ 続 田 で 八王子 八 ので、子供 ることか < 小麦粉 蝶子に 卦 東 見 京 のおばさんのところにいたと言 . の 来ない。 0 \mathcal{O} 無理 \mathcal{O} 大工 若 下 b か 配 0) 物 町 1 ŧ 矢 給 一だが、 面 笠 語 長 問い L 理この子を 倒 などで凌 智 屋 は れ は見ることが 衆。 始 に、 今どこにい ない子供 ただすと、こ ま 親 る。 彼 1 に は 押 で 子 は 独 を V L 供 ぐ 須身で、 付 出 る る を 11 れ 0) け 連 た 飯 カコ る。 な ま 田 わ

をい 大 むなく二人は 崎 工 時 れ が \mathcal{O} 西 \mathcal{O} 茅 子 ば 供 南 ケ らくここで仕 を移 湖 崎 広々とした海 海 \mathcal{O} 岸 す 漁 ノとき が 村 た \mathcal{O} は ようだ。 っぷりと撮 事をし 岸 遠 ic. 方 て そこで訪 に 出 ١ ر 影さ 箱 て、 う。 ただ 根 握 れ 彼 をとら 女は り け ね 7 飯 だ た 11 を食べ とわ え お る 早速子供 ばさ のだ。 る カン る。 $\bar{\lambda}$ 0 とい をつ て、 訪 力 ね メラは 子供 うの る先 れて茅ヶ崎まで行く。そのくだ を置 は、 は、 飯 親類 今 田 1 てい 蝶子 b 網 でもなく、 を写すときに くことも 元がたくさん そ 出 0) 来 江 父

る茅

ケ

親

島

そこで映され た、 箱 根 0) 大 涌 谷 カコ らは 盛 大 な 白 「雲が . 上 が 0 て 1 る 0 が わ か る。 今は、 煙 は ま 0

な 港 たく 彼 11 とな \ <u>`</u> 5 うことが な が その 0 座 1 て、 る が 位 わ 浜 突堤 置 か 辺 関 〇〇三年 る。 \mathcal{O} 係 が 前 でき、 か 方に 5 は は、 に 平 西 島 0 烏 時、 小 方 t 帽 津 にあ 監 コ 子 黒 ン 岩 督 V る ク が は 噴 リー 南 写 定 煙 湖 5 宿 が 1 ず、 とし \mathcal{O} ま 漁 で 0 半 村 平 た す を ば |茅 島 \(\cappa_{\cappa}\) 訪 固 لح ケ に 呼 崎 ね \Diamond 上 ば 5 館 が 茅 れ t れ 0 ケ た岩の た 近 た 崎 0 7 0 駅に で、 ところだ。 で、 群 に戻る途 映 n そ 画 が (T) \mathcal{O} 見 同 ように 中 え ľ で る。 場 海 所 今 岸 は に 今 は わ 出 茅 は カコ たと 見 ケ る 崹 え

1 たの 飯 海 茅 岸 田 だ。 ケ 蝶子 は 崎 広 と子 館 々 \mathcal{O} لح 供 裏 庭 て、 は カコ ア 落 5 直 ツ 胆 接 プ L ダ 海 て 長 岸 ゥ に ン 屋 出 \mathcal{O} に 帰 ることが 変 化 0 に てくる。 富 出 λ だ 来 子 た 砂 供 \mathcal{O} 浜 0) だ が 背 カコ 映 中 ら、 L に、 出 広 さ 芋 々 れ とし が る。 三 た 当 k グラ 砂 時 丘 は ム が 背 三 海 負 五. ま で わ 号 せ 続 線 7 1 ŧ あ 7 な

る。 5 が 乗 6 茅 · わ たん た ケ 崎 L んだよ」 \mathcal{O} \mathcal{O} 家 駅 前 ŧ, とこぼ そ で 売 \mathcal{O} 0 頃 す。 て は 芋 1 た 戦 畑 カュ 後 だ 5 0) 0 姿であった。 た 買 と聞 0 て 来たと 1 7 V) いう。 る。 茅 当 ケ 時 崎 海 か 岸 ら は 丰 \mathcal{O} 帰 畑 り だ \mathcal{O} つ 列 たそうだ。 車 は 大変 で、 つい 窓 で な

四、映画からの道草「のぞきからくり

0 \neg 長屋 紳 士 録 とい う小 津 映 画 に は、 信じら れ な い ほ ど貴重 な シ 1 ン が あ る。 それ は 長

 \mathcal{O} 屋 \mathcal{O} ホ 町 1 会 1 で、 ギ ス お 酒 \mathcal{O} が 出 出 だだ て に L ぎや 0 節 か を に 歌 な うの 0 た で 時、 あ る。 大道 八 卦 見 \mathcal{O} 青 年、 笠 智 衆 が \mathcal{O} ぞ き カン < ij

 \mathcal{O} 振 ろ 戦 笠 前 Ŋ W 知 振 覗 \mathcal{O} 0 り、 天王 ぞ 衆 き き 込 0 寺 か 歌 ま 歌 さん で、 5 0 L 7 Ź て ŋ ょ は 11 \mathcal{O} 境 4 た t た哀 内 我 が 5 Þ え 調 え に は 0 出 に な そ た 満 て カゝ れ 0 5 1 0 を た。 で た た 知 あ 歌 が 0 る。 声 縁 大 7 が 日 き ے 1 耳 \mathcal{O} な る n 12 賑 最 だ 演 残 わ 台 後 0 0 1/1 たと て \mathcal{O} \mathcal{O} \mathcal{O} 左 中 世 い 右 で、 代 激 た に カン L 0) だ。 おじ Ł 幼 1 郷 L い さん 愁 その 眼 れ を な 12 覚 لح 不 兀 お え . 思 (母 た。 ば 五 議 ささ に 歳 な 連 λ 印 \mathcal{O} れ が 象 頃 5 7 を残 \mathcal{O} れ て、 記 て した。 憶 1 が チ 0 を ts. た

尉 出 叱 男 子 TE. っさ 爵 爵 を 待 W \mathcal{O} Ш 5 長 Š 島 た 女 \mathcal{O} 武 に 雄 \mathcal{O} て \mathcal{O} 妻 東 桜 京 لح な \mathcal{O} 花 闍 る。 \mathcal{O} に 開 た 新 き だようますら 婚 か 旅 け、 行 に行 人もうらやむ かされて、 お が、 は 器量 カン 伊 な 香 き恋にさま ょ 保 し、 \mathcal{O} Щ その に ワラビ ょ 名 V L 片 採 出 ŋ 父 な は 4 遊 陸 び 嬢 軍 つ 中 か 海 将 れ 軍 で 片 7

歌

詞

は

ざ

0

とこ

 \mathcal{O}

よう

で

あ

る

解

せ

な

1

言

葉

t

あ

る

カュ

5

聞

き

違

11

は

あ

ると思う。

どな

た

カュ

 \mathcal{O}

ば 1 松 に 武 に 移 雄 懸 る は لح 軍 カゝ りた き、 籍 あ な る る 4 ゆ こは えに か た 白 わ B 11 れ ノヽ が 月 ン て \mathcal{O} 影さび ケチをうち ゆくべき時 し。 Š は 人に きぬ。 ŋ は な が あ 逗 ら、 わ 子をさし れ ね な え る あ ホ な てぞ 1 た j 早 ギ \langle い ・ス。」 帰 そが 0 7 る 頂 る。 戴 لح 武 雄 あ が ボ お げ

Ł

ろと

ŧ

に

我

が

家

は

せ

7

ぞ帰

5

れ

る。

き 拍 ŋ が \mathcal{O} Þ ズ 歌 入る。 んじ な す 間 子 4 ち 11 時 に、 は だ \mathcal{O} 1 1 B Þ に IJ ち 出 西 す う の な 膝 歌 「どっこい」とか、 ズ 洋 物 前 Þ 横 1 は V 4 風 ち \mathcal{O} カン 手も、 から な で で 0 シ 5 B 糸 車 あ 11 Ì 1 λ 連 あ る うと三 周 か ぽ ここぞというところで、 想 が、 を回すような手振りをし W n ね 0 λ が た 終 た方 三 拍子 茶 わ 最 5 碗 Þ り、 味 「ちょ Ŕ 近 ってたんだろう。 が 線 に を ちゃ たた はとんと見な 音 なりそうだ 「うまい 11 楽 1 いと」、 5 リズ に Þ 7 t W ね ムだ。 な は ぽ لح が B 7 た V) λ 八 棒 1 卦 どこ り、 を差 0 また 独 だ む 見 た L 特 す 笠 カュ ょ 合 歌 ろ 見 \mathcal{O} に 7 上 智 ŋ わ 11 \mathcal{O} j げ 衆 ŧ 歌 \mathcal{O} カン \mathcal{O} 可覗 ま た 飽 手 七 が 詞 V) IJ

る。 ることなく 小 津 監 督 節を歌 れ を 映 11 尽 画 くさせる \mathcal{O} 中 で 保 0 存 である。 L た カコ 0 た \mathcal{O} で は な 1 だろう か 三分弱 0 ン 欠 け

は

縁

日

に

な

ると出

たも

んだ

が

ね

کے

1

0



らくり」 0 言 葉 は、 歌 舞 伎 \mathcal{O} 演 目 近 松 物 \mathcal{O} $\overline{}$ 冥 途 \mathcal{O} 飛 脚 は、

江

戸

時

代に生

ま

れ

た

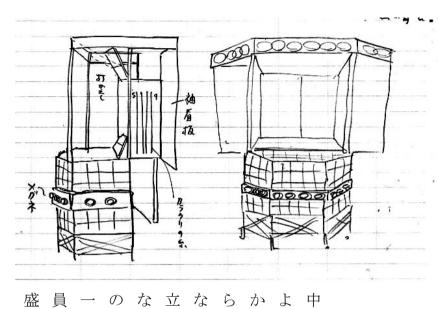
0

ぞきか

先 七、 用 \prod 東 神 V は 正 芝に 昭二 ピ ほ 式 に三台、 بح てもらっ 七 0 0 お 氏 V) 先 0 染 名 5 た 昭 駆と 久 は 示不 姫 松 年 \mathcal{O} $\overline{}$ 路 た。) し 如 だ 勧 本 和 لح ゕ に 帰 \ \ て、 か 五 善 5 + 0 5 懲 台あ 得た 世 五年ごろ、 た芝居 悪 その 覗 に広く受け 覗 り、 きか もので、 機 ほか随 E 関 大阪 らく の、 映 カ 時、 の一台は そ り 入 像 伝 W 0 れら は 文化 記 ぜ そのときの事件 情 江 実 λ れ 報 戸 録 ちょう \mathcal{O} 昭 活躍 中 は、 歴 物 和 期 史 として、 後 一九年まで残ってい か L á 遺 に てい 5 Ś 産 東 あ (T) に 芝の や美談などを出し物としてい 0 たの ぞきか 五郎 興 たことが 味 からくり だ。 を持っ 正 宗、 らくり)』 記 録 わ 7 俊徳 儀 たという。 を か 調べたときに、 衛 る。 みると、 丸 に 門と絡めた この出 あ 代記、 る。 これ 昭 この 和 L 文芸 た。 広 物 \mathcal{O} 伊 5 芝居 報 は 初 作とし 藤 0 映 活 期 八 晴 知 画 動 に 百 \mathcal{O} 雨 Þ は 初 12 屋 て、 <u>寸</u> 利 演

き そ た カ ħ そ それ ŧ でも $\overline{\mathcal{O}}$ 0 後、 た 0) 実 が が を 物 場 訪 今見る 巻 を ね 所 町 見 は 7 は \mathcal{O} た 見 کے 博 کے る に か 物 い 行 λ に j 館 0 なに 感 飛 に たこと んで、 あ 激 小 0 が さか た が あ 新 t 0 あ 0 潟 た。 \mathcal{O} る。 た は、 県 子 巻 か 倉 供 ず とわ 町 庫 \mathcal{O} 0 0 に 頃 カ と 町 雑 見 小 ることも多い 然と積 営 た天王 ż 博 か 物 館 0 はまれ 寺 た。 に、 0 てい これ た 覗きからくり 0) だし で、これ るように保 が 子 残 供 0 もそ てい \mathcal{O} は 頃 存は 0) 大 見 ることが 類 上 き 悪 か げ カン か ŧ る 0 0 わ た ほ L た ど大 れ と思 カコ が な 0

11



よう で 工 入 に、 晩 れ カコ 派 W 1 レ ン b 貸 夫 に で あ 12 な る 7 は 聞 ズ あ 0 せ ŧ 1 は 大 L た。 され ţ て、 き 0 い 五. 見 は \mathcal{O} な た。 だ た \bigcirc 家 え 残 大正 \mathcal{O} 円 全体 0 そ 念 12 な て 画 だ。 た。 戦 لح 11 明 \mathcal{O} カ が な 時 とし 前 1 た。 が 窓 カ 0 あ 代こ そ う が た。 5 0 n る ては、 W 素 だ た 新 記 場 が \mathcal{O} な 透 け だ 潟 録 と た 面 装 ŧ 視 だ あ が に で 0 が 置 た 残 び 早 る に 絵 ガ L は ŋ カン 0 変 ょ な 12 照 ラ 0 1 < てい け う は わ 0 は 明 ス 組 装 に ŋ ŋ て 妓 0 t セ ると、 置 す す 見 楼 裕 1 ょ 特 ット て、 る る え う لح 別 福 \mathcal{O} よう 思 だ 名 で 口 る な で二〇〇 文 巻 に ょ 明 L 仕 0 化 町 な は う プ カン き 掛 た \mathcal{O} 0 ľ 仕 仕 な V) 建 け 享受が 博 な 掛 掛 寸. が 物 が 暗 物 箱 け け 体 裏 あ が 館 は は 的 カン 描 る \mathcal{O}

教 街 来 であ \mathcal{O} 角 で、 類 0 るとあ 生 ょ きて うだ · . つ 1 た。 た。 る れ 覗 たま は、 演 き たま 者 か 江 は 5 戸 < 清 昨 時 朝 Ŋ 年 代 が 時 上 わ 海 代 演 が \mathcal{O} ľ 12 玉 行 中 5 \mathcal{O} 玉 n 0 発 た 7 人 明 にとき、 \mathcal{O} い カ た 扮 な 装 \mathcal{O} 思 لح を で 想 あ い L 像 が る 7 L け た た。 な 左 が \mathcal{O} 11 孫 写 発 古 た 真 見 ち を

そ

れだ。

演

題

は

仏

教

説

文

献

で

は

中

玉

カン

6

 \mathcal{O}

渡

た。

古

1

町

 \mathcal{O}

豫

袁

 \mathcal{O}

 \mathcal{O} 遭 V 遇 0 だ L 0 ょ た 0 0) 落 に、 5 着 ピ カコ ン な ボ 11 ケ 旅 0 0 写真を撮 一こまだ 0 0 た ただけで、よく観 0) で、 せ 0 カゝ <

察

ŧ

L

な

か

0

た

 \mathcal{O}

が

残

念なことだった。

さて寄り道が長くなった。急いで海岸に戻ろう。

五続・海岸紳士録

と本 移 動 前 拠 別 編 0 荘 で 間 登場 \mathcal{O} 紳 を 朝 士 てい は 晚 往 ただ 復 今も L 1 勤 ている。 た紳 勉 に 所帯 士 ただ たちは、 道 本 具を 拠 が 担 皆さ カュ 1 で、 λ ってのところ 健 在 毎 で 日 ある 別 荘

か 5 k X] 1 ル ほ ど 西にずれ た。 昼 \mathcal{O} 別 荘 は 変 わ 5 な

 \mathcal{O} 移動する 距離 が 半分になった。 そのか わり 資産 のバ ッグは六個だっ たのが 九個 に増えた。

作 森 ワ 崎 \mathcal{O} 1 映 東 IJ 監督とは、このところお会いしなくなった。朝 画 は \mathcal{O} 予 ハ · 定 が ダシだ」が公開され、昨年の年末の朝 聞けなくなったと、案じていたら、 日 の散 新 Þ 聞 は 歩 にその ŋ (T) しくじ 時 間 映 が 画 った。 変わ \mathcal{O} 評 ったの こ の 論 8 間 1 か た記 に Ł 監 事 督 れ が 0 な 出 新 1 7

次



監 評 そ W 知 + 残 念 督 1 れ に て 早 7 毎: \mathcal{O} \vdash な لح 所 で、 お 人 が 知 日 載 とな 6 速 \mathcal{O} 監 さ 求 た れ 海 首 れ 督 ŋ لح る 岸 8 3 都 きは 章 Ŕ た た。 散 森 巻 W で 思 歩 崎 が で あ 想を 渞 ちょうど公 頭 書 は 監 る は 督 ŧ か が 知 0 う見ること れ \mathcal{O} 愛 る上 つず た新 八 そこに、 着 五. 一で貴 と、逆 開 つ配 年 L が カ 1 重 にこ 給され 終 私と同 著 が <u>ら</u>二〇 な書であ わ 書 出 \mathcal{O} 0 が 来 てい 地 た じく 〇 四 出 な 帯 日 版 った。 1 で る』という厚い \mathcal{O} 年ま ž 海岸 自 そ あ れ 然 0 この での三〇 \mathcal{O} 散 て、 た。 破 検 歩 今 索 壊 中 \mathcal{O} あ は で出 を 常 . (T) わ 行 限 連 編 ててイン たの 本 定 政 に 平 を で でサ が 地 集 触 Þ あ は に 8 れ 熱 0 5 0 1 乱 た ター た。 7 ン 心 部 を! れ 入 なフ 1 分 た ネ り 総 ること 4 が ツ 合 ア \mathcal{O} あ \mathcal{O} \mathcal{O} ٦ 文芸 ン 本 章 で で が が は あ 調 \mathcal{O} 買 雑 運 る べ 怒 監 誌 え 営 れ す ŋ ば ź 公

をか 歩道 0) わ タペ で よう す 出 [逢う常 タ 仲 だ さ な 人 が ん、 連 £ 中 ア さ 1 る。 に T W は ツ た 数 リさん、ス 5 分、 0 ニッ 散 歩し クネ マ ながら j 1 ルさん、 ム であ 話 L る。 込 隊 む 五 長 ほ さ とん 輔 ん、 さん どっ 玉 介永 お 鉄 は さ 六 ん、 ようござい 輔 そ \mathcal{O} 兄さ \mathcal{O} 他 んとい 大 ま 勢 す す う べ 0 風 て 挨 貌 拶 毎 だ な 日 \mathcal{O} け 散

ギ ま る 走 0 つ \mathcal{O} た。 グ る = をさ ぎ ツ ク 言 玉 ょ れ ろ ネ わ 鉄 れ さ て 目 7 W 11 \mathcal{O} A 4 を見 は る お れ ス ľ ば タ さ 7 玉 感 1 ん。 鉄 確 服 12 ル か T お が L に Y た。 勤 心 永 ツ 8 六 Ł IJ 森 で、 5 輔 さ 崎 に 足 監 事 W 似 \mathcal{O} と 督 故 7 付 は で に 1 け 聞 う 片 る。 根 腕 ま < が 由 1 を そしてスマ 広 ŧ な P が くさ な 0 は V て ŋ が 'n 1 私 た イル \sim て、 ょ 方 たぺ n さん ま 六 \neg たさん 五 る 歳 は 輔 で 上 さ 操 私 \mathcal{O} だ り ん 方 は、 .と思 だ 形 す に が を 'n は 笑 連 毎 足 想 \mathcal{O} H 7 X ジ ょ

1

廿

タ 5 ツ \mathcal{O} 人 フ を を 知 凝 6 縮 な L た 1 期 妻 もこれ 間 12 協 を 力 パさせ 読 W で、 て完成させてい ス マ イル さん く映 は あ 画 な \mathcal{O} ただと思ったと笑っ 監 督業に ふさわし 1 てい あ だ名 た。 命 大 勢 名 能 \mathcal{O} 力 ス

で

あ

る。

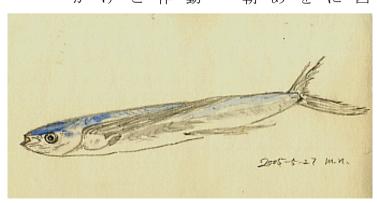
そ 目 た 功 \mathcal{O} シ だし に れ 方 を 住 そ は が あ を (T) 祈 人 後 0 う 井 少 同 V 0 この 東 る が ts. な 7 志 京 わ 在 ま は 1 け 痛 す 再 日 る 本 カゝ だ。 快 公 ば \mathcal{O} ŧ) 韓 な 開 購 とい 玉 る L 反 中 れ が 入 人 撃 な が 家 つ 野 東 でや 中 縁 庭 てくださっ で 1 野 が 出 で、 「 合 っ で 0 舞 0 政 あ 鶴 ホ け 界 湾 た 0 لح 訳だ。 て、 た。 る 12 ムペ 話 検 面 監 だ。 察 \neg] ニワトリ 督 ジの 0) た町 監督さんは、 爽 大物 0) 快 1 で、 運営者か な が] は クシ 映 ぐるに 精 画 ハダシだ』 神発達 彐 だ . ら 聡一のことをご承 ウも 0 なった汚 . О た。 メー \mathcal{O} あ 遅れ は宣伝 森 るとい ル 崎 職 が た少 監 事 あ うの 督 Ł 件 った。 年と新 あ 作 に 知で、「 ま 品 巻き込ま で り 出 を愛す 「ニ 米 L 保 カン な 息子さ ワ け 護 る熱 1 れ、 1 た。 司 ij 0) 0 危険な で、 烈 λ は 浜 女 な \mathcal{O} 須 ノヽ 性 見 成 賀 ダ

前回の紳士録になかった二人を追加したい。

だ を S ホ لح 0] た。 って、 ŋ は 4 ド 日 S 近 曜 ク 矢 隣 タ 日 師 \mathcal{O} \mathcal{O} Ì 皆 午 3 12 さ 年 後 決 λ 診 前 8 に た。 療 12 医 近 が 院 < あ 春 に 0 \mathcal{O} \mathcal{O} 施 内 花 た 設 粉 \mathcal{O} 科 を 医 t 症 見 院 に 年 8 を ず 来 開 中 るよ 5 業 行 さ L 事 うに れ カン \mathcal{O} た。 0 風 た。 案 邪 内 開 私 \mathcal{O} 院 そ Ł チ 間 れ その ラシ 近 に \mathcal{O} 時 姿勢 を あ に 1 るとき、 消 に れ 化 好 5 器 感 n 系 オ を た 0 1 持 \mathcal{O} 不具合など、 が プ 0 て、 ン 印 ハ 先 象 ウ ス

 \mathcal{O} 良 私 ŧ, 後 に たら は \mathcal{O} あ S カン S る 医 か ž 師 n 日 λ 付 曜 \mathcal{O} で 日 診 け あ 断 \mathcal{O} 0 海 医 \$ た。 岸で 親 師 身 が それ 颯 だ。 必 爽 要 لح からSさん な 力 疾 ル \mathcal{O} 走 テ で す は あ る す る × は 新 行 顔 7 \mathcal{O} パ 0 日 7 ラ 曜 ソ 見 ン コ 日 ナ ン ると受 \mathcal{O} 1 4 を \mathcal{O} \mathcal{O} 見 付 海 ľ 岸 た、 Þ カン 常 看 打 連 は 護 5 て、 になられた。 婦 込み さ どこかで見 W で あ Ł 親 るの 切 もナウ た顔 気 だ 持 ち そ が

業 漁 早 る。 作 で 五 は 年 縁 ŧ) を あ < 郎 業 師 顔 が \mathcal{O} Ł 手 さ だ 引 パ う — に n \mathcal{O} カン あ 人 だ。 参 伝 か 丸 ス λ 海 ŋ 0 人 た 岸 0 で 5 で 加 た 楽 11 5 よう は さ に を 地 水 れ 自 لح ま 11 4 地 緑 関 元 だ。 て、 き、 た な 親 \mathcal{O} 引 色 係 Н 転 そ に 網 さ 0 L 車 網 \mathcal{O} ん。 ただ 鰯 \mathcal{O} で < な 大 お に 元 \mathcal{O} な 季 4 あ 関 作 乗 0 丰 ア 節 あ る。 0 係 業 L 7 0 機 て、 ジ げ そ て、 を が 者 1 械 \mathcal{O} に その 過 か し \mathcal{O} た メ ぎ と て 鯖 採 ょ 水] 湘 魚 あ など、 る う ち お お う を り 南 場 力 کے た 5 こち す 5 なこと ŧ 海 \mathcal{O} 1 7 作 λ 岸 0 れ \mathcal{O} だ を 取 次 \mathcal{O} 春 業 \mathcal{O} て たところで O 湘 は 水 В 歩 れ は わ 先 1 \mathcal{O} なにされ < た 手 た 後 で、 カ 南 江 は 7 伝 で が 8 腰 海 1 岸 知 が \mathcal{O} 島 を 越 皇 11 た。 持 違 見 取 魚 \mathcal{O} \mathcal{O} を \mathcal{O} 0 居 す を下 たことだ。 定 わ 漁 0 か り 0 \mathcal{O} る た。 今 置 て カン 場 けたことが お 持 も宮 さ < 0 12 堀 網 \Diamond \mathcal{O} て る だ 採 が 彼 11 \mathcal{O} \mathcal{O} さ は 内 < 水 陸 V) る 7 彼 庁 お 揚 0 を れ 運 作 朝 げ カュ 動 あ を 几 た



5 1 ま げ て、 ŋ で、 れ ĺZ る。 新 き ケ ħ 鮮 根 崎 な い 0 市 カン な 魚 \mathcal{O} が 5 \mathcal{O} 環 で \mathcal{O} 如 境 何 工 関 食 に ネ 係 べ ル お る ギ \mathcal{O} 1 ボ 前 L ツ ラ く に シ テ ス ユ 生 ケ さん 1 ア 臭 ツ だ。 をさ < チ な L れ た 1 カコ 4 ま を \mathcal{O} た だ。 知 男 0 \mathcal{O} た。 彼 料 は 理 絵 教 か は 室 0 て で あ 魚 る \mathcal{O} 料 お 日 理 仕 11 た \mathcal{O} 事 講 だ \mathcal{O} 師 丰 い た な どを IJ 飛 ア び を 魚 活 7 が お カン あ

場 色 た。 \mathcal{O} 民 岸 静 自 に 半 清 لح か が 転 海 な 出 岸 分 出 車 黒 λ 掃 1 老 会うときは、 < う た 紳 で \mathcal{O} 0 感じ ち 5 斜 士 日 人 海 だ。 ゴ を V 岸 線 録 が 3 に 作 だ に \mathcal{O} 集 そ 数 な 来 危 0 0 れ 年 て、 8 7 た て、 険 0 を を た。 海 前 V 7 苦 やつ もう一 す る。 岸 Ì か 集 Ź。 ら、 これ 労様ですと クに が め て 朝 た 早く、 昔 拍 < お 種 は ピ 子抜 わ 別 は 彼 れ = 清 た . る。 え Ì \mathcal{O} 5 掃 5 け 声 市 タ 人 中 \mathcal{O} ル そし 0) を バ 活 ま \mathcal{O} 袋 々 5 職 ように カュ コ 0 と書 動 0 員 て、 ことを書 収 ゴ け \mathcal{O} \mathcal{O} た。 集 男 が 3 お い l き あ 性 ゴミ袋と手袋 た手 カン は たゴ そのうちもう一人がそれを始 が れ ŋ 結 げ が だ。 7) か 構 作 黙 ? た な に 毎 ŋ 々 け 袋 な いことに、 日 0) とゴ 0 れ は 大量だ。 ゼッケン を準 た。 ば Ш 3 なら \mathcal{O} 茅 ひ 備 ょ 5 な う ケ かっては、 L 気がつくと別 を着け 崎 1 12 7 1 市 を V) な は 海 L るところに 0 て、 7 岸 た。 毎 その 年 8) 清 1 もっと本格 \equiv た。 る 今 掃 0 ま 年 口 \mathcal{O} \mathcal{O} 区 こち ほ まゴミ に ボ は |城で تلح ラン 次 気 市 5 Þ が カ は 的 捨 は テ に 民 0 0 だ 市 海 7 物

海 が 岸 増 ウ え、 才 今の キ ン 比 グ 率 は は 半 \bigcirc Þ < 年 6 前 当 11 に た な Ŋ · は た。 男 L 性 か が ほ L لح λ 0 どだ 孤 独 0 な た 勝 \mathcal{O} 手 が ゴ ミ拾 の <u>-</u> く い ボ \equiv ランテ 年 0 イ う ア ち は

女

目下のところ紳士の独壇場だ。

六、ウミネコとの再会

さ スケ ようとし 書 が 出 はとうてい あ 来 ッチブックも持ってなか た。そのときはウミネコとは 0) る。 ウミネ なか 帰 ってから急 った。 描き表 コと二年ぶり その神秘 女せては いで描 に再 V) 的 な 0 いた な目に引きつけら 会し たので、 知らず、 スケッ たの 眼に焼き付けるように眺めた。 であ チ 大きなかもめと思ってい は る。 前 前 れ、見入ってしまった。 編 編 \mathcal{O} で孤 五章 独 に な一 . 載 せ 羽 てはあるが、 た。 のウミネコとの 今もそれを思い 不思議 羽根の 心に なことに彼は逃げ 色も美 残る彼 遭 遇 しか 出すこと のことを \mathcal{O} った。

砂 わ 西 浜 カコ そ そのウミネコと今年 にじ るはずだと。 茅ケ 0 と佇 崎 海岸では h 脅さない で い た。 -再会したの 番広くなっている砂 ように、 本当にあ で ある。 し のときの カ しよく見えるところまで近づい 場 浜 所 彼だろうか で は ある。 前 12 彼と遇 彼 は あ 昔 った場 \mathcal{O} 会ったときと同じように、一羽 神 秘 所か 的 な目 てい ら、 は忘れられな 、った。 七〇〇メー ŀ ル カコ ほ

な

に ス 1 うとしな 5 そ は た。 つつこうとし 0) 追 そ 死 V し カ \mathcal{O} 7 け 近 彼 ることは 力 1 は ラ た。 ことを B ス は は 0 じ لح 追 見 出 め 海 う、 た 来 てウミネ \mathcal{O} な に だ。 逃 逃 1 げ げ 込 る。 お そら . コ λ だ は は \mathcal{O} 0 海 と思 で 辺 これ あ を 0 目 る。 は て、 指 遊 海 L び わ て急ごうとし に で たしも 浮 は カン な W 追 \ <u>`</u> だ。 1 か た。 力 ほ ラ け、 0 ス とし ょ はこの 力 た ラス た。 ょ た そこ 老 を と走 追 1 たウ ま 11 0 で た。 払 ? は お ネ うと 飛 力 ラ ぼ

モ た。 \mathcal{O} ス メや、 遺 ウミ \mathcal{O} 海 骸 攻 ネ に 墼 を見ることは 沈 カラス で コ W H \mathcal{O} だ 来 寿 t ほ な 命 自 う カュ が 分 が な 0 何 0 た。 11 年 神 最 0) な 秘 後 で で \mathcal{O} は \mathcal{O} ŧ あ カコ 目 る。 彼 人 知 をし に だと思う。 5 見 な た せ V 彼 ゛。だ な に 1 カコ は 老 0) 5 Š は い 本 さ た 当に ど わ 体 0 L が よう 彼だ 1 で 砂 にし 0 は 浜 た な で てい \mathcal{O} 1 力 カゝ ラ か どう る ス 0 あ \mathcal{O} カゝ れ だろうか。 餌 ほどたくさん 食 見 分 に け な ること 5 ず、 海 岸 ょ に 11 は 彼 る 力 カュ

げ に て立 と小 た。 あ 崎 海 う。 岸 ゴ そ 5 枝 ル に 普 去 λ を フ 出 な 段 つ 5 る 場 とき た。 ぎっ は 玄 \mathcal{O} 無 続 関 彼ら て (T) 関 き \mathcal{O} 彼 係 $\bar{\mathcal{O}}$ ょ は 投 は、 に ょ うなところに げ B 毎 うなところで 年 り過ごす Þ 0 2 け 0 てきて、 5 るように 3 が 月 小 に あ 和 す あ 巣 落 る。 田 を作 とす ぐそば るときは 浜 ここで散 公 る \mathcal{O} 亰 だ。 0) 0) が だ。 松 あ お お 歩 \mathcal{O} る。 前 や 枝 公 \mathcal{O} 袁 は 前 に 空中 そう とま 歓 \mathcal{O} 後 迎 中 に カュ カ り、 で L 準 6 な ŧ 1 備 見 と早 高 大 11 体 れ と 声 い 操 ば 々 で いうきつ 松 を を 12 鳴 L 海 選 準 き、 7 岸 備 W 1 \mathcal{O} ば 1 で、 体 る 防 操 挨 L 砂 そ 拶 つ、 を 林 を 力 \mathcal{O} 切 や、 ば ラス 頂 ŋ 頂 上 上 茅 戴

ケ

力

ラ

0

う。 近くに作 すると巣 えることが に、ここ二~三年 るとその場 が る。 荒 あ その る。 れてくるか 所 雛 場 雛 が がかか 所 が わ は 孵 カゝ うま ら主 えっていない ると大変だ。 る。 S く 選 上手に作 が V λ なくなったことが であ 様子なのだ。 近 つ た ってちょっと下 くを通ると、 ねと感心してい すると巣はその わ もっときつい かる。 か ると、 らは、 食糧 やが 難 見 威 に で彼らも大変 まま空き巣になる。 て卵を抱 < 嚇 を受け でも ر خ ه 7) な 彼 7 \mathcal{O} だ 5 1 が る 0 カコ 妙 尻 なとも 挙 ば な 尾 動 らく を見 が 見

くら きだ。 ことは をとってい スが二羽、 ぼそカラス ところがこの が V 彼 だ。 ない。 渡 は 来 くっつくようにしてとまってい る。 同 犬 種 \mathcal{O} U な لح よくよくそのペアーを見ていて驚いた。一羽は、はしぶとカラス、 散 聞 黒 0 兀 もしこれ だ。]月思 歩 V 1 だ カラスでも、この二種 7 自分の 0 V 1 が た。 が る。 夫 けな 立. 海岸 目をうたぐって、Wさんに、「あれ見てください。」と思わ 婦 5 な į, 5 0) 話 光景を見たのだ。 餌 ば \mathcal{O} 間、 場 卵は で 何 る。 は は違うのである。はしぼそは日本古来種 気なく目を遊り 孵らな 明らか 確 カ に お い 混 につがいである。それならば何 近くの のでは 在 ば してい せていると、そば Wさんと、 な いだろうか。 るときもあ 浜 須賀 る 余計 (陸 が \mathcal{O} 電 橋 も う 一 な 大 で 線 心 は 出 抵 もおどろく \mathcal{O} 配 一会っ ず言っ 上で しぶ 羽 を は 別 L は、は とは 力 たと た 行 た ラ

几 月ごろ、 しばらくの間だけ見ることの 出来 る鳥 Ł 1 る。 旅鳥 の千鳥がそうだ。 羽 ごくらい

ろ 寄 1 ば たくそ れ 来 \mathcal{O} って λ 7 む る 集 ると浜 \mathcal{O} 1 餌 彼 カン 寸 うち て 採 6 れ を で、 く。 と 同 ţ 競 に り は 浪 遊 \mathcal{O} 1 出 始 る。 打 決 日 二〇や三〇 じことをや 人くら び 際 L で 課 8 る。 で 7 な は は 遊 なく、 い ľ 濡 \mathcal{O} 波 だ。 は W 6 8 が は で す 羽 つ 打 だ 波 が、 とうとう て い 5 まをし か が お る。 V 寄 ず 5 引くとき、 そろってそれをやってい る。 せ そ 飽きない おずとだが 波 靴 ると、キ 0) て、 姿は、 が を濡らして、 寄 叱ら 砂 でや せてくると一 Y ま か れることは 1 次第に る ・ってい 5 とい で孫 出 叱ら 「る泡を って逃 波 た る。 斉に れ 打 5 な る かち るの \mathcal{O} 彼 4 の げ 際 . 逃 游 0 5 を見 る。 け、 げ、 が落ちになる。 に びとそっくりだ。 は 寄 えると、 飽きずにそれ そ 波 · 身 てい 0 が 軽 引くとすぐさま 下 で機 可笑しく見えてく <_ に 敏 潜 千 だ。 誰 む を繰 貝 鳥 孫 が た た か \mathcal{O} ŋ とえ 集団 番 5 何 返 水 波 カゝ t す 靴 を 際 に が 游 ま を 0 ま 沂 び 履 1 ts. で 0 寄

七、開高健記念館

 \mathcal{O} で 軍 繰 T開 大 夜 ŋ 廠 高 阪 0 広 が 健 陽 市 げ は 炎」、 鉄 大 好 5 出 骨 ?きな作 れ 身 をさら る とい 破 T :家だ パ れ うことも け た ツ 繭 出 った。ヴ Ŧ L 族 な た \mathcal{O} ど 親 ま 猥 イ ま 沂 雑 工 大 感 \mathcal{O} \mathcal{O} 1 阪 姿 が き ナ \mathcal{O} を、 あ わ 匂 A 0 4 戦 城 1 た を 争 0 東 描 従 す 線 大 1/1 る彼 阪 軍 \mathcal{O} た 記 城 電 0 が \mathcal{O} 日 車 西 调 作 本三 カ 刊 品 12 5 広 朝 が 文 朓 日 が 8 才 に 自 0 7 分の 連 ラ 7 知 載 1 0 さ 知 や た て 広 れ 6 い な 後 大 た た な 頃 い \mathcal{O} 自 焼 か 大 彼 分 阪 け 5 \mathcal{O} 12 読 を 自 跡 は 知 伝 W \mathcal{O} そこ で 5 作 元 せ 陸



てくれる気がして、ひとときは夢中で読み漁った。

う。 気 う た。 がついた。家らしきも ク っきりと知った。そのうち、 でいたとき、このプールに通い か ブ え 崎 茅 る ホテルのうらで、 1 かざってあった写真で、 0 ケ 崎 魚 ル 0 市 を抱 に ル 0 は、 は が 真 来 年 た頃、 , , 水 あ ん中付 前 た写真であっ 開 泳 る。 は 高 が 近の この作家がここに住 こち 健 1 ス 牧羊子と開 \mathcal{O} いというので、 ポ 0 J R] 大きな写 らに引っ は林 ツジ 彼がこ た。 線 海 \mathcal{O} 路 ムなどもな 奥に 真が 越 高 岸に聳え立 彼 0 健 0 奇 が L 脇 · 背 中 て間 の二本 近 跡 に、 隠れて見えな 通ったことがある。 かざってあっ くに 的 んでいるとうわさで知 ŧ · を 痛 Н に かったころだが っていたパシフィ スイミング教 \mathcal{O} 住 痛みを治したとい ないころ、 めて、 門 W 柱 でいることを た。 が かった。 長く あ 身 両 る 苦し そこ 室と 0) 手で 体 ラ に

チエン通りで烏帽子岩が巨大に見えるあたりであった。

見えた。 そのころは 上原謙 とその まだパ 息子 シ フィ 加 Щ ツ 雄 ク 三が ホ テ 作 ル ったということだったが が 寂 れ て は 1 た が 海 岸 その \mathcal{O} どこか 頃 は 破産 らで 管 も聳 財 人の え <u>\f</u> 手 0 渡

L 柱 ŧ 以 て 取 7 った」とは 開 り壊 い 外 放され は、 た。 ごされ うか 上 原 がえ 妻 L 入 謙 ŋ B \mathcal{O} と駅 な 友 込 れ た低 み、 か 人 近くの 0 0 た開 話 層 つぶさに \mathcal{O} L ストア であ 高 住 宅 った。 見 牧 街 で合った。 ることが に 0 家 な 今はパ が 0 7 今は 出 V) 年 る。 シ 来 老い 開 フ るように そし 1 高 た今 健 ツ 記 7 ク な ŧ 念 あ ホ 0 館 素 0 テ た بل 敵 門 ル

子氏 的 な 話 が = は ユ 少 し] 戻 ス る がうわ 駅 が のすぐ西にあ 開 さのように 高 健 0 計 届 った大踏切で、 報 を新聞 V た。 それ で読 は λ 事 で、 開 故で亡くなったと 高 まも 健 0 なく、 人娘 0) 衝 道

茅

ケ 崎 \mathcal{O}

あ

まだ λ よう。」 うのだ。道子氏も作家としての道を歩んでいたということも、そのときに知 開 高 という。 きなり一言「カイコウ」といったきりなんですよ。新米 氏 が大 活躍だった頃のタクシ その頃は 「カイコウ」ひとことで大抵は通 1 (T) 運転手の話、「女二人ずれ じたのであ \mathcal{O} 運 転 0 手だっ 0 客 た。 が 茅 った。もう少 たらどうしたでし ケ 崎 駅 か ら乗り込 ĺ 前

新 夫 人 晚 Š が 年の羊子夫人と、妻が耳鼻科でお会いしたことがある。 出 る文 診 察 庫 室 本 \mathcal{O} 呼 0 び 本 を 出 紹 L しで 介 開 L 高さん てもらった。 とわ か その羊子夫人もまもなく亡くなられた。三人のある っった。 愛 読 者として挨拶したら、 待合室で何 か書き物をしておら 喜んで下さっ ゎ



ľ 記 戚 念 を カン 失 館 5 茅 0 た ケ 7 崹 あ 公 市 \mathcal{O} 開 家 12 されることに決ま 寄贈 は、 どうな され たと新 る \mathcal{O} 聞 カ 0 · と 気 \mathcal{O} たの 地 12 方 で 欄 な あ 0 に 出 て た。 V た ら、 ま t なく 親

な だ そ 事 に 机 0 V) 0) に た 場 な 丰 に 0 抜 開 ときに建 夫人と道子さん が 0 は 根 た。 け 高 そこですべて て グ 書 拠 る あ 健 部 き サ 地 る 彼 記 す 屋 カ が 念] \mathcal{O} て 書 ぐ 当 館 \mathcal{O} 七 け 人 増 初 鴨 斎 \mathcal{O} 生 0 居 P は 原 0 ところ L L 0) ŧ など 0 て L 稿 後 茅 用 た 家 今 半 開 名 用 Ŕ が ケ は に ŧ 紙 を、 で \mathcal{O} 館 崎 たせるようになっている。 が あ 開 知 と 11 L に 旅 る。 5 万年 る。 高 書 て 移ってごいっしょに住まわれ 0 ま この書斎で、 ぬ 健 い 思 氏 書 筆 7 思 ŧ カ は、 斎 が 1 \mathcal{O} わ な 11 出 乗 仕 < 通 0 0 \mathcal{O} つ つ 事 奥 た 休 ŋ 訪 記念品とともに 場とし た み、 に 形 に ね にままで た。 まるで独 は 素 \mathcal{O} 小 魚 ま 敵 た世 7 さ た な ゴ 建 5 あ 1 0 ル る。 <u>7</u> てた 寝室 が 界 < フ 玉 V) 場 あ 一と炊 0 が 旅 を 剥 巨 \mathcal{O} た。 ţ 製 大 通



る。 念館 次 \mathcal{O} に 間 な は 0 家 た 族 V \mathcal{O} ま リビ \mathcal{O} 家 ング は、 入 ル ŋ Ì П ムだったのか からすぐ大きな もし 口 れ な ビ] 1 が で 彼 今 \mathcal{O} は 出 半 版 车 物 < な تلح 6 1 が で 常 変 設 わ 展 る 示 さ 企 画 n 展 7

1

うそ 林 示 0 に よう \mathcal{O} 使 部 わ な植 屋 れ て が え 1 込 そ る。 み \mathcal{O} その ま Oま 庭 先 が \mathcal{O} に奥 形 視 で保存され 野 まっ 12 入る、 た通 海は見えそうだが、さまざまなものに遮られて見えな てい 路 \mathcal{O} る。 先 に 書斎 こその書 から 斎 海に向かって大きな窓が は あ つて、 奥さんも 入ら な あ か るが 2 た 自然

家 とい 庭と書斎 \mathcal{O} 原 う 稿 短 を で 書 11 撮 番 1 影され 組 て で、 V る 開 たものということが、 日 高 曜 健 日 をやっていたのだ。 0) 夜、 なんと言う偶 あの 番 組 家を見たものには 然 か、 は二〇年位前 N Н K ア なつか \mathcal{O} 力 もの イ ブス だが しくうか 0) 人に がえ 0 茅 ケ崎 あ 1 た

危 機と遊び、 男が 熱中できるのはこの二つ。 遊び 0 中 に 危機が あ ŋ, 危機 の中 に 遊 び が あ る。

その で 語 開 目は男の つ 高 た。 健 は、 0 子 ょ 気 1 (T) \mathcal{O} 大阪 まま 済 むように作った自分の 訛 *O* ŋ 輝きであった。 が、 わ が高 津 上時代の 城で、ワイン 誰 彼 0) 雰囲気を思 をかたむけ ζ\ 出させてくれた。 ながら、 その 人生を短 丸顔童顔 V 言葉 で、

八、湘南海岸 春夏秋冬(その1)冬 箱根駅1

気 上 は、 をして で だ。 る。 に が 痛くなっ 見える る 海 こん () 水 が る 蒸 月 ま 若者 てくる。 な \mathcal{O} 気 る \mathcal{O} 朝 だ で が 海 ころう。 t 温 岸 \mathcal{O} 見 散 冷 泉 は B そ 歩 さ る \mathcal{O} が、 ż れ は ょ す 太 でも 陽 う が 手 れ B 袋 が て に 冷 は 波 を 湯 上 水 た ŋ 2 気 が \mathcal{O} \mathcal{O} 11 冬 1 枚 ŋ 細 が \mathcal{O} は は た 冷 11 か と ľ 海 8 え い 0 き め 込 岸 て 粒 は は ŧ 子 4 \mathcal{O} 海 閑 サ 間 面 が 散] 指 だ き な カン が け り 6 0 フ イ 寒 立 \mathcal{O} 11 z 湯 現 朝

る。 島 \mathcal{O} を 海 に なる。 岸 配 目 0 ところ が 空 は 人 0 が て 々 1 が が 点 赤 元 待 0 旦 どよ ぱ 正 に くそ 0 は 月 集 7 1 六 ま に め ま の三が日 11 時 り、 なる。 る。 る 五三分ごろの 熱 数 そ 心 幸 だけ 分 \mathcal{O} 暗 1 な で 雲 町 **,** \ K うち は、 内 瞬 が ラ 薄 会 が 初 茅 から焚き火をし、 ŧ 7 い 近 日 ある。 ケ は لح づくと、 の出を迎える人で、 崎 終 赤 海 わ 1 Þ 岸はにぎやか る 輝 すべ がて、 きが 初 て 玥 日 豚 出 0) 江 わ 汁 が n



見 \mathbb{H} を え る け ほ تلح 7 V \mathcal{O} 5 日 早 は < É 次 1 \mathcal{O} 主 Ш 役 筋 ま は 真 で < 後 ろ 0 きり 12 見 لح え 見 る 富 せ てく 士 と箱 れ る。 根 連 Щ 箱 に 根 移 は ま る だ 薄 ま ず 黒 富 い 士 Ш 塊 山 だ。 カコ 5 昇 る 朝

تلح な 日 れ 礼 お 1 \mathcal{O} 人 カン る て、 ラ な は \mathcal{O} L 選 Þ \mathcal{O} 正 一 月 二 大 復 挨 ま 1 手 は n 海 V) 午 学 لح 路 待 岸 拶 い K が 前 0 で、 後 日 は B 5 カン あ カン \mathcal{O} で 涌 ゴ . と 三 車 あ 構 は 5 0 12 S B 時 ま が て え に 来 0 れ くる。 は ル 半ごろだ。 きて た大 とい ぎや ま る。 日 る る ŋ 地 た は \mathcal{O} 点 抵 先 う テ カン は 東 茅 \bigcirc で 終 は 大 導 郋 レ に 京 ケ 時 チ 車 わ 抵 ピ -- に 雰 千 \bigcirc 崎 数年 ŋ 人で 半 駆 Þ で は 用 時 代 海 ごろ 追 A テ __-気 け 几 田 岸ぞい 前 人だ。 後 メ レ 1 走 抜 を 区 \bigcirc ここを] は 2 ピ 盛 け 分 を カン 野 家 1 てくる。 力 頃 け 7 ŋ 八 0) 田 0 る。 が 大 上 で 時 1 さ テレ 声 通 <_ 。 な が げ あ に \equiv λ だ 援 る 何 る。贔 る。 出 四号線を走る関 0 ピ 声 L に、 台 れ れ 発 息子 で、 込 援 ば 昨 t が L 5 わ 屓 日 W 通 が た約 終 IJ ż 箱 < き \mathcal{O} で ひ \mathcal{O} ŋ わ コ λ 大学 根 とき 順 < 置 め 過ぎ る 2 が 湖 ŧ と正 る 位 1 タ 0 駅 畔 ゎ せ \mathcal{O} て今度 が \mathcal{O} て、] 校 東大学 ず 0 伝 \mathcal{O} を 月三 が 高 が \mathcal{O} 往 ぼ \mathcal{O} ひ B 5 待 < 中 選 路 チ は な た ŋ が 5 が 0 手 継 P 箱 す と変 構 ゴ る。 二人、三人とくる。 7 日 が 車 根 5 Δ え は パ 新 \mathcal{O} 駅伝 この わ \mathcal{O} ル 前 1 5 お 電 聞 浜 に を ス 0 n 力 L 波 須 社 を応 着 てく タ 間 向] た ま 賀 を が ツ < 約 と 1 い 12 受 陸 配 フ 援 \mathcal{O} て、 る 聞 だ。 護 行 橋 0 と を する人々でぎ 五. い 5 た旗 7 をくぐっ L 大ま 見るこ 分。 総 れ 行く 汗 7 合 て、 が を 活 応 た 優 正 0 飛 振 とに 躍 先 勝 援 月 0 で Š は さ お ス

駅

伝

 \mathcal{O}

終

わ

0

た

箱

根

は

湯

煙

 \mathcal{O}

温

泉

地

に

戻

る。

温

泉

 \mathcal{O}

大元

締

8

で

あ

る大

涌

谷

地

獄

か

5

 \mathcal{O}

噴

煙

は

そ

80

路 町 て 充 ま \mathcal{O} 後 \mathcal{O} \mathcal{O} 1 実 n 文 る L る 見 財 化 政 7 思 5 史 で れ 1 VI 数 ŧ た。 展 で な 年 最 示 しい 前 な 館 \mathcal{O} 後 か ぜ そ が 館 に 5 閉 見 \mathcal{O} あ は は 所 大 0 採 に ? と て、 涌 算 行 口 谷 に 0 1 合 た 12 \bigcirc う無 あ れ わ 箱 \bigcirc 0 12 な 円 念さ 根 た は 1 火 \mathcal{O} 箱 力 と Щ 入 は 根 を 切 \mathcal{O} 湯 消 自 入 り 成 税 然 え れ 捨 り を な 博 て て 立. 取 5 物 1 11 5 る。 るように 館 れ B 熱 は た 箱 海 ょ 理 根 لح 昨 う 科 な 違 に 年二 だ 離 し 0 0 れ 湯 て、 か \bigcirc た \mathcal{O} な Ō 本 象 \mathcal{O} 箱 で、 \mathcal{O} 11 兀 徴 箱 根 博 年 \mathcal{O} 豊 \mathcal{O} 物 \equiv 根 ょ 町 か 日 誌 月 う そう 役 帰 が なことだ。 12 場 n 展 閉 に に 温 示 所 は さ 4 泉 L え 箱 は れ た 繁 根 る て 惜 箱 栄 1 八 里 根 7

は、 安 大 あ 和 11 我 0 箱 て、 銭 屋 が 根 湯 P 家 す \mathcal{O} が 福 カン ベ 長 住 5 あ 7 11 旅 箱 ŋ 歴 \mathcal{O} 館 根 史 地 湯 湯 で 大 区 量 本 は 涌 に ŧ ま 温 あ 谷 で、 泉 泉 質 \mathcal{O} る 発 冠 日 道 t 帰 路 峰 掘 申 楼 ŋ が L が 昭 な 温 空 分 な 和 ど 泉 1 は を Š 時 て 代 涨 お 1 11 と ま ると 奨 ŋ だ 8 歩 き で 番 無 11 きる た。 新 縁 は L で ほ た 1 あ ぼ だ \equiv た る。 L 8 超 湯 分 12 本 有 で と宮 流 名 1 で で け は 下 泊 る。 0 り な 客 間 気 1 軽 に L が あ か に 受 る 町 行 営 大 け け 平 付 る 0 ょ 台 け لح うな 温 な 泉 11



かる。 音楽 や交通 この 東京音楽学 一番 な ご存 に 学 当るや万夫も 詩 11 \mathcal{O} が 校 \mathcal{O} 歌 知 難 詞 \mathcal{O} \mathcal{O} 校 文字 教 所 に 懸 箱 で、 あ コンビ 賞 師 根 ・で見れ 募 る 鳥 八 箱根の険しさを比べたものである。 居忱 開 集に 里 「 蜀 < の明治三二年の作である。 \mathcal{O} ば な 応じ 歌 0) (とりいまこと) ||桟道| は、 関 て作 所 は 耳 0) 江 はともに中国 堅 曲 戸 一牢さを表現し で聞くと何のことか 時 代 入 選 生 0) ま 詩、 れ L た で、 \mathcal{O} たも 堅 曲 滝 函 古 لح 当 廉 谷関 0 時 な 太 1 とわ う。 関 わ 郎 東 夫 か 所 が 京

箱 万 丈 根 \mathcal{O} \mathcal{O} 山 Ш は 千 仰 天 下 \mathcal{O} 谷 \mathcal{O} 険 前 12 函 一聳え後 谷 関 ŧ 物なら (しりえ) ず に支(ささ)

雲は山をめぐり

昼 猶 闇 き杉 \mathcal{O} 夫 関 並 に当るや万夫 木 羊 腸 \mathcal{O} 小 も開 径 は < 苔 な 滑 か

霧

は

谷をとざす

天下 に 旅 す Ź 剛 毅 \mathcal{O} 武 士

刀 腰 に 足 駄 が け 八 里 \mathcal{O} 岩 根 踏 2 鳴 す

大

斯 くこそ あ ŋ L カコ 往 時 \mathcal{O} 武 士

箱 根 \mathcal{O} Щ は 天 下 \mathcal{O} 嶮 蜀 \mathcal{O} 桟 道 数 な 5 ず

万

丈

 \mathcal{O}

Ш

千

仞

 \mathcal{O}

谷

前

12

聳

え

後

に支う

雲 は Щ を \otimes ぐ り

霧 は 谷をとざす

昼 猶 闇 き 杉 \mathcal{O} 並 木 羊 腸 \mathcal{O} 小 径 は 苔 な めら カュ

夫 関 に 当 た る Þ 方夫 ŧ 開 < な

野 銃 に に 狩 草 ŋ する 鞋 が け 剛 毅 \mathcal{O} 八 里 壮 士 \mathcal{O} 岩 (ま 根 すら 踏み破る お

Щ

猟

肩

斯くこそあ ŋ け れ 近 時 \mathcal{O} 壮 士

を思 カン っ L て 平 を替え歌 成 \mathcal{O} 現 を進 在、 箱 呈 根 L は た。 Ł 原 は 詩 P に 関 語 所や交通 呂 合わ せ \mathcal{O} 難 L 7 所 あ では る \mathcal{O} な が 1 自 0 温 慢 だ。 泉 \mathcal{O} 例に 名 所になっ よっ て 湘 た。 南 箱 海 岸 根 を \mathcal{O} 歩 た 8

ときに歌ってい

箱 根 \mathcal{O} Щ は 天 下 \mathcal{O} 湯 華はあ 清ね 泄り Ł 物 なら

本 温 泉 塔 ノ沢 大 平 台

宮 ノ 下 ケ 島 に 木 賀

(D) 湯 花 沢 底 倉 宮 城 野

芦

小

涌

谷

強

羅

大

涌

谷

に

姥

子

尽

き せ め 出 湯 肌 な 8 5 カン

百 種 \mathcal{O} 名 湯、 万病 に 効 カコ め な

天下 富 士屋 0 奈良 屋 福 住 江 歴史 戸 \mathcal{O} の 遺 \mathcal{O} 産 湯

成 園 今 日 0 ユ 人 ネ 気 ッ サ は 日 帰 りの

ア

天

Щ

に

天

湯、

ちー) と読まなけ 帝と楊貴妃が この 華 清 歌 池 0) は な 中 かでは 好 国 ħ んで遊 西 ば 安 V) 中 (T) け 国 名泉で んだところであ な 語 で (i 唐 前 半 あ \mathcal{O}

玄

は

温

5

る。

た 11 が 泉 が 違 わ 地 ゔ゙ れ 0 11 7 名 5 歌 称 早 る。 詞 < 箱 \mathcal{O} 日 後 根 帰 半 八 \bigcirc ŋ 湯 は 兀 温 名 は 年 泉 湯 む ろ \mathcal{O} \mathcal{O} 宿 高 サ B W 津 ホ す べ 五. ビ テ 期 て、 ス ル を \mathcal{O} \mathcal{O} 新 始 東 名 た 京 8 前 て、 同 な で 窓会 地 あ 今 区 る 日 は \mathcal{O} \mathcal{O} 最 名 箱 後 t 根 盛 \mathcal{O} 案内 全 天 ŋ 体 込 成 \mathcal{O} L 袁 W 起 た は で 死 + \mathcal{O} で、 口 湯 几 生 湯 本 \mathcal{O} に あ 存 起 あ る。 る 知 爆 剤 名 そ \mathcal{O} لح 旅 読 れ な 者 館 ぞ t 0 で n たと あ 泉 0 質

九 湘 南 海 岸 春 夏 秋 冬(その 2) 晚 春 は ま ひ るが お

は

ず。

ろ てこ を点 は 眺 Ŧī. 弘 月 8 \mathcal{O} 在 法 花 \mathcal{O} \mathcal{O} 麦 L 群 終 VI B 7 い は わ 咲 名 鑑 り、 \mathcal{O} 賞 t 1 は 知 12 7 咲 お 1 5 値することを気づ き 花 る め 始 畑 0 稲 8 \mathcal{O} は、 科なども最 た ように 浜 茶 昼 室 顔 広 \mathcal{O} を Þ 盛 V 風 み と 期 情 た。 る 広 な を た 海 が カン \mathcal{O} \Diamond 岸 0 だ ŧ に 7 が で L 海 次 7 11 岸 る は Þ VI に \mathcal{O} ま に V きた」 t 咲 ŧ 75 る 1 11 \mathcal{O} だ。 7 VI が とい が は消える草花 お は う友 砂 圧 防 倒 人に 柵 的 に な で 寄 量 が り あ あ で 添 0 浜 0 て、 い辺を覆 て、 7 そ \mathcal{O} は 0 の じ ·う。 そ 8

が 目 そ 立た Ū 7 六 なく散 月 \mathcal{O} 在 下 L 旬 7 \mathcal{O} 1 あ るとき、 るだけに 気 な が 0 て 0 V け る。 ば す 0 カコ ŋ 姿 を 消 てし ま 0 て、 探 せ ば 朝 顔 12 似 た

種

○、湘南海岸 春夏秋冬(その3)

拾 間 由 T う。 。 な ル 北 恋 バ 野 そ 1 人 武 れ 1 が 監 を あ で 督 無 る。 市 \mathcal{O} 理 0 映 P ごみ サ 画 り] 12 عَ フ 収 い 集 あ インとい 0 車 \mathcal{O} た に 夏 感 乗 う じ 1 0 で 危険 て 5 修 ば 1 理してサー そうなことを始 るとき、 W 静 カン な 半分に 海 フ イ と ン 割 V め を た れ う ...彼 始 7 作 捨 め を心 品 る。 てら が 配 あ そん れ げ る。 てい に な . 見守 耳 彼 た \mathcal{O} に るが サ 不 は 1 自 同 フ 由 U ・ ボ な 耳 青 0)] 年 不 K が 時 を

てくる。 つくり 競 に は カン を 競 Ļ であ B 技 あ か 技 \mathcal{O} つ け \mathcal{O} \mathcal{O} 夏に テン Š 地 夏 ス \mathcal{O} て 7 ア が 1 が タ 元 ナ لح は \mathcal{O} る。 1 \vdash W ウ 夏 F は ば 最 \vdash \mathcal{O} ン M 浜 言 を 本 \mathcal{O} 近 0 、スと、 情 ラジ う た は 須 知 部 賀 が 景 そ 彼 5 に 陸 才 が せ n は レ 実 で 工 あ 橋 B る が ゲ ン は る ŧ で が た \mathcal{O} エ \vdash サ ときわ 潮 7 知 8 0) サ IJ] 5 見 サ に ĺ] ような音 せ フ \mathcal{O} も大 フ L 目立 る。 イ フ 人 ア ン た が ス イン 0) 土 は ピ 名 携 つように 楽 大会 前 曜 帯 季 の大会で優] B で 節 が • 力 な ス が 日 を 潮 1 ケジ ۲ 曜 問 ŋ な \mathcal{O} が わ 0 日 状 わ 0 V に た な ユ た。 況 勝 る る。 帯 は \ \ ° ゎ を す ボ るとい ル \mathcal{O} 知 け 冬で 波] だ が あ 6 に F 5 せ 張 そ 浮 を て ŧ う n λ つ 5 波 カ 出 話 1 な W で け 0 さ る。 で 海 大 で 開 都 れ あ を 騒 11 そ 合 6 る カコ 音 る 目 \mathcal{O} が た。 れ サ を 指 大 \Box ょ る] 音 す 撒 コ け \mathcal{O} ミで 響 自 き フ だ。 れ 散 ア 転 0 ば に 5] T 車 集 サ た す] わ 0 ま 大 ち カン 群 0 フ

会

で

あ

0

てこそ、

あ

 \mathcal{O}

映

画

 \mathcal{O}

題

名

が

あ

0)

夏、

V)

5

ば

 λ

静

か

な

海

لح

1

う

タ

1

1

ル

 \mathcal{O}

意

味

が

浮

に

n

ア

だ。 てド 上 が 0 てくる。 人だ け \mathcal{O} 濃 密 な 空 間 に 囲 ま れ た二人 は 周 n 0 人 に は 通 ľ な 1 ほ تلح 幸 せ な 0

カン フ は ŧ) \mathcal{O} イ 六 競 技 競 1 \bigcirc は 歳 に 技 れ に な Þ だ 集 来 ま 0 1 て 0 7 若 う。 な 7 V 11 る。 カュ 1 女性は ゴ つ る そ ル た + れ フ \mathcal{O}] に 応援 は だ。 フ 最 九 ア 近 に来 若 \bigcirc 1 は 歳 1 を 小 学 てい ときに でもやる 観 察 生が、自 るとい すると結 B 人が 0 0 た 転 た 7 人 構 車 ス は る で な タ 六 が、 小 年 ○歳 1 ż 配 六 ル い 0 ○歳 が ボ でも、こ 方 多 Ł Ì 以 か K V 上 ったが、 を 持 る 0 れ 年 聞 か 0 代 5 くところ 7 今 で は 仲 は 七 は 間 自 まだ \bigcirc لح で 身 歳 が で 日 は 緒 サ 本 t 年 に B で 齢 来 ファ る サ \mathcal{O} る 0 H.

K 設 を 備 気 抱 が が え L 0 て 7 V 帰 て あ 0 る。 4 てくる若 れ サ ば] フ 我 1 が 7 家 亭 ン ボ \mathcal{O} 主 近 は K < で 游 0 新 び 置 を き場や L L V 住 て 玄 宅 カコ 関 群 5 脇 B ご出 に 7 シ ン ヤ シ 勤 だ ワ 彐 1 ン が が 建 0 11 0 と、 て 11 必 る ず 朝 サ 早 1 < フ など 1 ボ 用 \mathcal{O}

0 小 は が 我 家 ピ 屋 見 が フ ジ を に 家 ア な ネス で、 作 \mathcal{O} しい 近 番 0 が ŧ 隣 時 て、 近 成 12 11 に 1/1 ボ ろ 功 少 仲 ボ V なくとも] L 間 ろ ド たようだ。 1 K 傷 屋さ \mathcal{O} 5 修 0 が V) 理 λ 集 5 てく 屋 は、 軒 ま B さ \mathcal{O} 0 る ボ が λ ボ て て近 を \mathcal{O} 庭 Ì は だ ド K で ころう。 < じ 屋 \mathcal{O} ガ め 修 に さ 1 5 理 L W デ れ 立. Þ ン カ が れ パ た。 派 5 あ 始 な た る 1 ボ 自 看 ま テ 三軒 板 宅 0 Ì 1 た。 ŧ 0 K を は 玄 な 販 開 新 あ 関 し宣 売 く。 品 に、 \mathcal{O} \mathcal{O} 映 中 伝 店 そ 古 もな あ 画 t \mathcal{O} ま \mathcal{O} 出され \mathcal{O} ょ ボ ょ Ū n う 似 う だった。 な 12 K 0 お 半分 を カ 仲 売 わ 間 ご自分も E 0 が 7 < 折 V な 1 n る。 た

そ

+

仮

 \mathcal{O}

我

湘 南 秋 海 岸 研 究 春 夏 0 秋 収 冬 穫 そ の 4

く と 五 カン ル れ を な n 固 た い 杭 \bigcirc 定 ŧ が メ す \mathcal{O} あ 年 1 る が よう る。 1 \mathcal{O} あ ル る な < な 月 \mathcal{O} 5 ピ W に 中 だ 1 ン 気 旬 ろうと が \mathcal{O} が \mathcal{O} 三 間 こと 0 \bigcirc 隔 V 追 セ た。 で で 頑 あ 11 ン 道 か 丈 チ 0 に け な た。 メ 沿 て ア] ま 1 ル 0 1 くと、 て だ ミの ル 赤 くら 厳 ケ 11 L 説 1 ケ 1 11 1 寒 明 \mathcal{O} ス ブ さ 0 間 ボ が ボ ル 隔 ツ が 続] ク で ド 延 11 ス 砂 が 7 々 が 浜 لح あ 置 に 11 た。 お 0 差 カン た。 れ か L 11 れ 込 7 0 て 1 W t 1 た。 で る。 \mathcal{O} あ 遊 順 る。 そ に 歩 番 さ 道 \mathcal{O} 号 b ケ に \mathcal{O} 12 見 書 ブ

先 た ル 賀 何 7 ら、 あ カン 1 \mathcal{O} そ た t る 電 λ 鵠 ŋ 0 話 月 0 な 沼 と様 で、 0 中 番 ば 番 海 号 旬 岸 大変長そうだ。どこから か 号 غ 子 カン か な は 責 \mathcal{O} 5 6 任 約 九 わ 番 江 百 者 カン 号 1 < る \mathcal{O} ケ は 島 5 何 名 月 \mathcal{O} 11 カン 前 \mathcal{O} か 方 で 期 が が ま 5 あ あ 書 間 で 始 った。 る 1 つ ま だろう。 東 7 始 ると な あ 大 が そ ま 0 地 れ る は つ た。 震 て 手 \mathcal{O} 限 に 研 V 間 が カゝ 5 究 どこま \mathcal{O} < な 隔 カコ 所 り ケ \mathcal{O} 11 五 が ね。] で は \bigcirc 地 で X 五. ブ 殼 な 追 続 ル] \bigcirc 構 تخ ح 跡 < 1 は メ 造 をあ ル Ì \mathcal{O} 探 自 西 を 1 か 查 きら 間 に カゝ ル \mathcal{O} 端 ŧ 自 け ごとに 実 を探し 8 答 東 ると、 験 12 た。 L を な あ Ł L え ? が 見渡 途 てみようそこ る て 方 5 番 V 兀 せ ŧ 先 号 ま る を な 五. 杭 す。 かだ 限 追 1 K 大 n 11 メ きな に 続 連 カュ] 浜 け 1 須 は 絡

スケ ル 0 実 験 が 行 わ れ てい る のか もし れ な いと思 1 か

た。

海底を打って、反射波をとらえることで地 ましたか」ときいても、興味はなさそうだった。 のだそうです。」「結果もここに報告されますか?」 てきて教えてくれた。「相模湾で船から特殊なエア は出ていた。 このことは届 ります。」と頼んだ。その後、 「それはわかりません」「是非入手してください。 浜 須賀 陸 橋 のそば () け が 出 かにも専門職とい ているだろうと考え聞 にある湘南海岸美 時々事務所を尋ねて った風 化 貌 センターに 言きにい 殼 0 年 \mathcal{O} 構 配 、った。 造 \mathcal{O} と聞 っわ 興味] 職 が 1 ガンで わ け 員 カ があ くと かる が ば 届 り 出 け

親 ます」と約束してくれた。 たので期待は 切だ 幸 い海岸の説明ボードに連絡電話と責任者が 0 た。 「報告は来年になるかもしれ しなかったが電話した。こちらは案に相 ませ んが 書 お送 1 違 て あ ŋ 7 つ

た。 新聞にも紹介されたようだった。春先にあの実験で仕込んだデータが 処理されて、意味づけ

の学会で報告され

7

この

研

究は

その

年の一〇月一一月

れ 研 究 報 告 3 n る \mathcal{O} は B は V) 収 穫 \mathcal{O} 秋 で あ 0 た。 農 業 に Ł 似 て い た。

で n 書 た。 に な 年 闁 そ る 後 外 に す \mathcal{O} 漢 壮 は 0 大 0 さ か 単 5 な Ŋ な 実 忘 に る 験 半 n 好 に 年 7 敬 奇 カン 11 意 心 た カン に を 0 払 た ろ こん に 0 で な あ 丁 にも答えてく 冊 重 る。 な \mathcal{O} そ 分 お \mathcal{O} 厚 礼 컢 0 VI 年 報 手 に れ 告 紙 t る を 書 研 0 そ が 究 か 送 0 と \mathcal{O} 6 0 どし 感 継 れ 続 動 7 、きた。 報 L た 告 た 中 \mathcal{O} 8 全 身 分 た 厚 は 体 を 理 な ま \$ 解 لح で \mathcal{O} き め が な 届 7 け 報 ま 告

構 あ 験 が 7) 注 研 湾 報 関 り、 は 浩 あ 相 究 だ 告 目 0 東 り、 た。 そ は 点 模 所 け 書 大 そこ \mathcal{O} は 湾 を で を そ 震 番 上 足 沿 な 始 構 4 に 災 \mathcal{O} 0 岸 号 造 柄 8 7 今 \mathcal{O} 地 杭 面 そ を 亚 は 京 震 下 度 明 \mathcal{O} 野 鎌 か 京 大 \mathcal{O} 観 源 は は 5 阪 5 \mathcal{O} 倉 膨 察 地 8 想 千 カン 批 カン 神 大 は 5 葉 や、 だ 五. 像 に 下 5 な そ Þ =L 大、 け \bigcirc 研 L \mathcal{O} 関 で、 \mathcal{O} 8 た 万 7 浦 絥 究 下 5 年 玉 東 半 几 1 層 が そ に Þ 五. な < 前 島 \mathcal{O} 構 見 ど 防 \mathcal{O} 伏 自 に に を K え 造 下 在 な 伊 横 災 全 的 メ た。 な す \mathcal{O} 0 研 玉 豆] を 断 \mathcal{O} こと る て 半 だ。 数 持 究 す \vdash 大 島 断 11 箇 る 所 ル 都 0 丹 は る。 七 は な 7 層 が 所 市 沢 は 衝 本 ど 行 12 五 を 巻 当 : そ 山 深 突 0 対 K \mathcal{O} わ 批 塊 き \mathcal{O} لح だ 象 < 大 メ れ 殼 亀 は 関 V) VI] 共 لح 0 構 7 裂 う多重 八 係 わ た。 同 1 1 造 \bigcirc \mathcal{O} カュ L 研 ル る 調 V で 西 0 7 究 従 査 万年 کے 7 わ は三 事 V 衝 観 で、 لح れ 0 1 る 突 測 15 が 前 そ わ な と 島 7 \mathcal{O} が う 見 神 れ に 11 行 \bigcirc 1 現 か 数 海 が 縄 る \mathcal{O} 5 場 5 S わ 年 住 だ か لح れ 研 で れ 始 が そう 5 λ 玉 7 て ま 0 究 カュ で 来 り、 V 府 箱 が 機 1 n だ。 1 津 7 る 根 た 関 テ 本 る 箱 $\sum_{}$ 0 が Ł 1 地 州 今 だ。 根 松 富 \mathcal{O} 7 に を 下 実 士 相 口 \mathbb{H} 東 で ぶ 深 は 断 \mathcal{O} 模 大 \mathcal{O} 大 そ 層 噴 0 お 湾 地 相

実

 \mathcal{O}

火

0

V)

で

震

模

そ 0 将 来 ようとしてい を決 8 るような、 るわけだ。 次 0 ダ 1 ナ ハミッ ク な 動 き が 準 備 さ れ て V る筈 で、 人 智 が そ れ を見

届

け

T

<

れ

ナミッ を 持 のことは てい る 半 っつ 島 断 7 る。 ク 層 が な 行 は に 衝 そ 動 深 突 わ 0 0) きり とい き < れ が 関 亀 7 裂 . う多 準 1 わ 係 0) 備 る。 カコ L ひとつが 重 さ 0 7 わ て れ 衝 い れ ると見 7 V 穾 わ な 0 1 神 現場 る筈 れ 1 が 縄 5 0) で、 住 で、 だそうだ。今回 れ んで 玉 て 府 箱 人 1 智 1 津 る 根 いがそれ る地下 が 富 松 士 実 田 0 断 を見届けてくれようとしてい 深くに、 \mathcal{O} は 大実験はその 噴 そ 層 で、 火 \mathcal{O} が 構 その 関 造 あ 東大 ý, は 将 構造を 震 そ 上 来 災 0 を 0 決 面 \mathcal{O} 地 明 震 8) 下 \mathcal{O} 5 るような、 観 源 は か 地 8 察 に 5 だ は るわ そ B け て 0 けだ。 で、 8 1 下 次 ち < そ 0 に Þ ダ 目 伏 に \mathcal{O} 的 在 下 な

、 烏 帽 子岩ライト ァ ップ

B 庭 P 目 は は だ。 ŋ は 大 遠 島 場 州 り 安 茅 ま 心 に 灘 が ず 視 木 で太平洋に ケ 線 東 て 崎 0 た。 は、 をさえ 1 \mathcal{O} シ 5 江 落 ン れ えぎる。 ち着 ボ ノ 島 面 る ル \mathcal{O} したことが と三浦 だ。 カコ は な これだ。 大島 えぼ 1 半 \mathcal{O} は . 島 し岩、これだけ で あ 見えな で、 あ る。 á. 西 ま 1 それ は 0 日 箱 た が 根 で < 多い は、 カ 気 何 が 5 が、 ŧ) 海岸のどこからでも、 伊 0 な 豆 1 1 ア 半 た。 \mathcal{O} イキャッチとし ろび 島 茅 で仕 ケ ろとし 崎 . 切 か 5 ħ た広 5 見 る どん て鳥 L る が 相 n たな 日 帽 南 模 子岩 \mathcal{O} 湾 は 海 でも見える。 晴 は 12 が ま れ は あ る た 0 日 で 目

 \mathcal{O}

三 の 島 な 全体とし と蝦夷 岸 島 から見ると、 塊 に 0 して・ 島 は 名 のように、 姥島と呼 0 と見 前 ŧ 戦 0 7 ば 1 艦大和に見えようと、 しまうことには 資料によって文字は違うが れ、 て 1 その中心にある高 る。 1 カ に 違 ŧ 1 漁 な 師 おば 1 が さ 一 匹 呼 L あさんがうずくまってい び習わ 発音してみると似ているのも見つか か L 九メー 実際 L ただだ は大小 トル け の岩が $\stackrel{\cdot}{\mathcal{O}}$ 約三〇 名 前 烏帽子岩なのだ。うち十 \mathcal{O} る姿と見なそうとも、 個 ようで、 0 島 カコ らな たとえば る。 る群

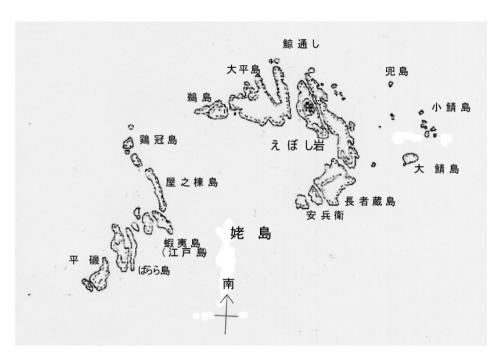
次ペ 湘] ジに 南海岸を歩く」 その・ 全 体 図 を 0 前 海 編 岸 0) か 冒 5 頭 0 に 位 描 置 い 関 た絵を持ってきた。 係 Ł あ わ せて みてい ただきた \ \ \ \ \ \ 参考の 全体 义 は

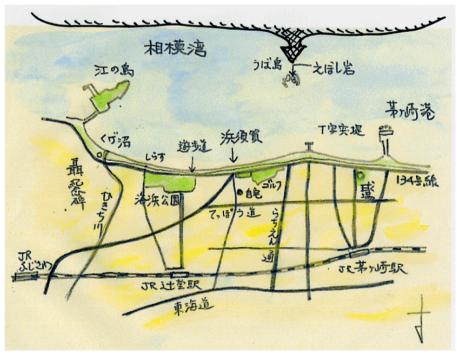
が計算 にやら ところで前 由 さ 緒深 れたのだそうだ。もっとも、この島が海 < に なってくる。 も紹介し たが、 この こ の 島 群島 カ ら取れる化石 が 茅 ケ崎で最も古い 底から姿を現した隆起 (原生動物であ 五百 万年 る放散・ 前 現象 0) 地 虫 は 層だというか 数百 0) 化石) 年前とされ から年代 ら、 7 な

1

る。

その 水 浴 逆 Ċ ...場、 に の字の 新 今は 1 中 サザンビーチと名 ほ 心に鳥 うの 話 帽子岩を遠望 題 で は、 前 烏 が 帽 子岩 つ L *(*) てカップルで写真を撮ると縁が結ば た が が、そこに大きな「C 縁 結 び 0 役 目 をお お せ 7 0 ーク」モニュ カコ ることになった。 れるのだそうだ。 メントができた。 茅 ケ 崎





5月下旬 :--から20分間 (野口宇宙飛行士の搭乗期間中の一日) 灯りを消して 防犯・営業上など必要な灯り以外は なるべく消してくださるようお願いします。 080-5051-7817 http 等ヶ崎市・等ヶ崎市教育委員会 82-1111 (内線3358) 両少年提

ス タ Ŧī. 月] \mathcal{O} \$ 風 高 校 \mathcal{O} 激 \mathcal{O} 同 L 級 11 夜 生 だ \mathcal{O} 方 0 が た が 作 0 ラ てくださっ 1 1 ア ツ プ た \mathcal{O} ょ 予 う だ。 備 実

期

 \mathcal{O}

月

打

5

上

げ

だ

0

ŧ

う

前 な V) Ŧī. を 上 げ 3 k 予 W 定 \mathcal{O} + たときの チ ラ 1 \vdash 参 のだ。 台 が 鳥 帽 子 験 を が 海 行 か わ 5 浮 n た カン 75 浜 あ 辺 げ に た 置 カコ ポ れ た ス タ 電] 源 車 は 延 が

イ

ス

力

ウ

1

代

 \mathcal{O}

間

で

あ

n

 \mathcal{O}

ポ

撘 送 時 11 烏 7 0 Y ろ た 0 帽 11 لح 乗 間 1 \mathcal{O} Š た ŧ) す 計 子 七 に ル \mathcal{O} だ 多 る 合 支 画 S 月 鳥 援 感 が は 11 字 \mathcal{O} わ Т に 帽 思 作 時 す た な 宙 計 せ S 打 子 岩 る 書 7 5 11 \mathcal{O} 飛 ち 画 だ。 会 出 を れ 春 行 が 上 た 深 ラ げ 仲 時 兀 \mathcal{O} 士 進 地 茅 لح 代 1 11 彼 上 が 6 \mathcal{O} λ き 存 自 ケ を 野 で か 上 れ 1 は 在 身に 崎 5 空 る ア П VI ょ で を 聡 市 \mathcal{O} る ス ツ \mathcal{O} とつ あ 長 ろ 町 诵 プ 工 る Ł で は 過 L て ボ λ \mathcal{O} 育 れ す ル ス 7 で を る シ 7 ŧ

家 ことを示 れる方に ライトアップのことを詠 時 . D 最 近、 間 電 が 灯 は 決 を消 町で L た ま 不便ですからいいですよ」というと、「せめてそのようなことで応援 V) 0 声 L を ですよ」。 たら教えてください。常夜灯をけしますから。」「いや、それは夜間 ます。」といってくださる。教会でも設備を世話されているAさんからいわれた。 か け られることが多くなった。「ライトアップには参加 んだ短歌を下さった。 この企てはテレビでも紹介されたので、 ゆか りの友人が しますよ、 L てい に聖堂 遠方よりこの その るとい 時 訪 間 問 . う z

彦 星 \mathcal{O} 船 外 活 動 星 一祭り 祐

子

聞 願 ってい くことになる。 天候に恵まれて、 . る。 残念ながら、 (二 () () 五 暗闇 に 私自身はこの な 0 Ė た茅 | 五 ケ 崎 原 \mathcal{O} 稿 海 を仕上 岸 で、 烏 げた後 帽子岩 が ヒ 光 ユ] ŋ 輝 スト < ンでその 瞬 が 実 = 現 L ユ] て ほ ス だ L け V É لح

四 、追記 六十年の侵食

書いたが 第 章 で 砂 証 拠 浜 は \mathcal{O} 何 侵 食 なかった。 のことを書 V た。 あ 0 時 は 海 岸 \mathcal{O} 砂 浜 が 狭 < な つ 7 1 る \mathcal{O} カン Ł 知 れ な لح

ŧ

岸 は ベ 12 遊 て そ 歩 抜 は \mathcal{O} 道 け 後 きり は るところで、 茅 ま ケ だ 崎 な 市 侵 7 を が、 撮 食 遊 後 0 歩 退 た三つ そ 道 れ \mathcal{O} 5 様 5 しきところ 子 L \mathcal{O} V が 航 見 自 空 然 え 写 た。 \mathcal{O} 真 カコ 道 が \equiv 5 が 残 岸 0 あ 9 \mathcal{O} 辺 7 る ま 航 V 空 で る 写 \mathcal{O} 0 真 砂 を で 浜 見 比 0 0 奥 較 け 行 L た。この きを比 た 0) は 較 ラ 枚 し チ た。 \mathcal{O} 航 工 古 空 ン 写 通 11 写 真 1) 真 が を 海 比

い ず れ ŧ 写 真 上 0 実 + を は か り、 わ か 0 て 1 る 対 象 か 5 倍 率 を 求 め て、 実 際 \mathcal{O} 砂 浜 \mathcal{O} 奥 行

計

算

した。

五. (一九六九 百三十八メ 〇 メ 茅 ケ ĺ 崎 1 商)] ル 工. に 月 会 1 な 八 ル 議 日 0 乃 所 た。 航 12 至 空 百 あ 写真で 五 0 た + 昭 X は 和 Ì 八十八 \vdash + = ル あ メー 年 る。 $\widehat{}$ } 茅ケ 九 ルになり、 兀 崎文 七 化 0) 資 平 T 料 成 メ 館 六 IJ 年 に 力 あ _(駐 0 留 九 た二枚 軍 九 航 几 空 λ で 写 は 月 真 航 昭 で 空写 和 は 兀 真 + 砂 兀 で 浜 は 年 は

ル 現 在 後 退 は 約 L た 几 \mathcal{O} + で メ] あ る。 トル で あ る。 0 ま り 約 六 \bigcirc 年 \mathcal{O} うち に 百 五. + メ 1 1 ル か 5 わ ず か 兀 + メ 1

あ n て 第 た 兀 11 لح た 章 す で \mathcal{O} を 覗 れ 見 き ば た か 昭 と 5 和 お < 知 ŋ 九 0 6 年 こと せ に い 大阪 ただ を 書 に い 11 た。 た。 台 大 大 残 阪 阪 0 に 7 歴 お 1 史 住 ると文 博 ま 物 11 館 献 \mathcal{O} \mathcal{O} N に Н さ あ Р W 0 で カ た は 5 \mathcal{O} 確 が 大 認 阪 で 空襲 きな 歴 史 に 博 カン 耐 物 0 えて 館 た で が 残 展 って ŧ 示 さ

1

た

 \mathcal{O}

か

ŧ

L

れ

な

五、追記 その二 カラスの親子

子 る。 近 第 寄るときも やや小ぶ ス が < ル 力 六 \mathcal{O} \mathcal{O} ヽで、 と思 力 ラ 巣 群 ウミネ 中 ップ ス 見 が 立. れ は、 え 0 真 0 りの方が た たば た。 ル っ赤 出 コとの まだえさを自分でとることはできないので、親か お 互 でい 会っ 0 だが、 な間 か そ るとい 7) たとき、 再 れ ŋ 離れ 大きな方に 会の 0) でやっとあ は、 子 とんだお う不思 それができるのだとどこかで読 て交代でよっていく。 章 カラス あ で、 0 擦り と思 議 し付け想像だった。 だったのだ。 0 カラス 時 な 寄 光景 は 0 た。 0 ってい を 夫婦 間 あ 違 書 小さい って、 えてて \mathcal{O} 1 のこと、「は あ 力 た。 のような ツ い プ 夫 先 、姿は、 口 た をあ 婦 ル 週 \mathcal{O} が んだ。 海 \mathcal{O} に 親密 しぼそ」 カラ け **,** \ 岸 気 は を歩 たのだが、 ると思った が L ら口移しでえさをもらうのであ な わ スは つ ぼ 摺 たしはそのしぐさを夫婦 ر ا V そカラスとも カラスと「は ŋ もっと白 7 た。 寄 1 りは その中が 0) て、 だ。 親子 々 11 そして今度 L 0 見 0 真 Ł て しぶと」 紛 間 1 0 0 う 赤 よう でし る。 形 な な 力 か は 巣 に \mathcal{O} 0 0 ラス な で 力 に 少 力 だ。 か 近 ツ

姥が島追記

たの

だ。

とん

だ勘

違

1

をご披露し

てしまって、

お

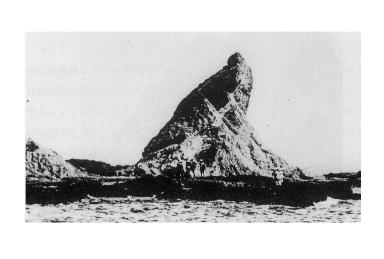
許

あ

れ

茅 ケ 崹 义 書 館 で) 辻堂 演 公習場 返還 5 0 周 年 記 念写真展をやっ てい た。

た 形 湘 が 南 海 戦 岸 後 を \mathcal{O} 歩 米 < 軍 「烏帽 砲 撃 練 子岩そ 習で頭 の <u>-</u> の形 が に か 書 わ 11 つ たが、 たのではな この 岩 V かと推 が 江 戸 時 測 代 L に た。 は そ 姥 \mathcal{O} が 推 島 と 測 言 は わ あ た れ って て



中

止

を

懇

願

L

7

11

る。

茅

12

な

0

た。

Α

練 11 た。 で 頭 が 砲 無 撃 前 < な \mathcal{O} Ď, 姿 は لح ま さ お に な 老 か 婆 \mathcal{O} が 部 分 座 が 0 削 7 5 11 る姿だ。 れ 7 現 在 米 \mathcal{O} 鳥 軍 帽 \mathcal{O} 子 砲 擊 \mathcal{O} 形 訓

会 ケ 長 崎 漁 市 史 協 戦 組 合 後 篇 長 が 1 連 に 名 は で 神 昭 奈 和 Ш + 県 八 知 事 年 に 六 陳 月 第 情 書 中 を 学 出 \mathcal{O} 校 砲 長 擊 Ρ 0 Τ

こと 茅 理 学 由 日 今 ケ てで 迄 般 校 を 崎 並 付 あ __ 市 丰 \bigcirc に L ŋ 漁 ヤ 中 ま 五. 業 Р す。 協 粍 プ Τ 止 砲 Α \mathcal{O} 同 組 は 請 実 弾 7 弾 合 県 ツ 願 \mathcal{O} ク 知 書 え 射 実 事 擊 弾 \mathcal{O} ギ を 宛 射 県 に 演 ノ 習 実 レ 議 0 擊 撃 が 実 **?**会,県 憲 11 射擊 て 上 施 兵 は 陸 隊 通 知 中 漁 演 報 ょ 事,米 止 業 習 に ŋ を 茅 لح 協 ょ 陳 軍 共 同 n ケ 情 当 12 ば 組 崎 合 実 済 局 七 市 4 其 施 月 警 は で さ 六 察 \mathcal{O} 現 他 場 れ 日 署 あ 写 V) に る ょ を ま 提 真 لح ŋ 涌 す H \mathcal{O}

る 由 ことは を 再 び 繰 甚 だ 1) 慣 カン え 感 L \mathcal{O} ے ح 連 署 陳 で 情 あ 致 n L 我 ま 々 す とし 7 は 到 底 耐 え得 5 れ な いことであ ŋ ま す。 従 0 7

が

其

 \mathcal{O}

請

願

陳

情

は

顧

ŧ

され

ずより

大

型

砲

擊

 \mathcal{O}

実

弾

射

擊

を

実

施

さ

れ

記

事

た。

 \mathcal{O} 陳 情 書 12 は 鳥 帽 子 , とよ ば ず \neg う ば 島 と V 0 て 1 る。 ک れ が 戦 後 ま で \mathcal{O} 正 式 \mathcal{O} 呼 び 名 で あ

なる。 「一、射撃目標として礁撃さるるうば島の崩壊に依る変形は漁業船帰航目標を失し遭難 0 原因と

二、うば島周辺の岩礁は魚・貝・草類繁殖の最適礁であったのが、 を減し磯魚(岩礁をせい息場所とする伊勢海老,かに,かさご等繁殖せず。また学校の授業も出来な 砲撃で死 滅し養殖 前 より収穫

いので休講にせざるを得ない」と訴えている。